

HP『海軍砲術学校』公開史料



<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>



海軍寫真帖



序 文

何故海軍が必要？ 海軍の任務は國策を支持し、海上權の確保である。戰時には敵の海上武力を撃滅し海上交通の安全を圖り、平時には海上警備、海外に於ける我が權益の擁護等重大なる任務に就いて居るのである。この重大な任務を帯びる。

我が帝國海軍の現状は如何？ 凡そ軍備は假想敵國の軍備と平等が原則であるが彼の強國、屈辱的なロンドン及ワシントン條約の結果英米の十對六の海軍軍縮が出来た。尙其の後の世界の形勢は變遷し、日支、日露、對英、對米の關係は條約締結當時と非常なる趣きを異にし日本の國防は日を追つて脅威を受けつゝある。然らば

國際危機とは何時？ 海軍軍縮條約の改訂期は愈々來る一九三五年に迫つた。この時である。國防の脅威を感ずる小比率の日本は斷乎軍備の平等を叫び、之に反し大なる比率を獲た英米は現状維持を唱へ、軍縮協定の困難、又其の翌年は聯盟脫効力發生期と共に滿洲問題、南洋統治問題が議せられるものと豫想せざるを得ない。これ等複雑なる國際關係は必然的に惡化し其の赴く處計り知れざる状態である。見よ、各國は早くもこの状態を看破し、英米は製鐵許容範圍に於て最大限度の建艦を急ぎ、日本も亦第二次補充計畫に邁進せんとしつゝある。これは何を意味するか？ 來るべき一九三五、六年の危機、戰爭の可能性を豫想しての準備工作である。最近唱へらるゝ。

外交工作に依り危機は果して防ぎ得るや？ 近時外交工作云々と頻りに傳へられるが實力無き口先の辯論に依つてのみ國家の興亡、國運の消長に關する大問題が容易に解決出来るものならば、國民の膏血を絞り、血税を徵集して軍備などするの必要は無い筈である。外交の背後に確固たる軍備が伴つてこそ眞の外交工作が出来、實力あつて始めて平和の保障が出来るのである。

非常時に處する國民の覺悟！ 襲ひ來る國際危機の大怒濤を、進んで乗り越え世界の覇者日本とするか或は退いて亡國の日本とするかは此れ九千萬同胞の双肩にかゝる未曾有の大問題にして今や舉國一致、盡忠報國の實を擧げる時期に到達して居り、苟しくも現下の我が國防を論ずる者は其基調を太平洋問題の上に置き而も我海軍を理解するに非ずんば公正を得たるものとは謂ひ難い。

大洋を睥睨し赫々たる歴史に生きたる帝國海軍の威容！金城鐵壁の堅障は常に世界海軍の最高峯であり、巨大な沈黙の壓力である。見よ！太平洋は愚か世界の隅々迄も旭日に映える軍艦旗を潮風に翻へしつゝ、活躍する昭和帝國海軍の雄姿を！太平洋位の荒波何物ぞ!! これぞ飛躍日本の海軍である。

本帖 は数年の久しきに亘り我が海軍に關する資料を蒐集し、其の名も「輝く海軍真実帖」と題し海軍の眞價を遍く國民に紹介すると共に國防思想の涵養に資せんとするものである。

本誌發刊に當り、海軍省官房、軍事普及部、人事局、横須賀鎮守府、等の深甚なる御指導と特に古田中海軍大佐の御援助を謝し併せて皇國海軍の洋々たる前途を祝願す。

三十回海軍紀念日を迎ふるに當りて

國防智識普及會

●巻頭の巻

- 空調五箇供(東郷元時著) (一巻)
- 乾坤一擲の大決戦 (口繪四色) (二巻)
- 悲壯なる艦の断末魔(口繪四色) (三巻)
- 阿鼻叫喚商船の撃沈(口繪一色) (四巻)
- 聚慮長し (三巻)
- 非常時海軍の首座 (三巻)
- 危機を背負つて立つ名提督(十巻) (三巻)
- 太平洋を睥睨する我が (三巻)
- 主力艦隊航速 (三巻)
- 天空に炸めぬ四十艘の巨艦(三巻) (三巻)
- 戦機迫れる合戦準備 (二巻)
- 主力艦の難題 (二巻)
- 緒戦！既に敵を吞む (二巻)
- 艦戦より勝利まで (二巻)

●傳統に生きる海軍生活の巻

- 希望に満ちた冒険 (四巻)
- 血汐高鳴る入團の日 (三巻)
- 微に入り細に亘る…………… (二巻)
- 體格科検査 (四巻)
- 生れて始めて着る情れの…………… (四巻)
- 水兵服 (四巻)
- 調味高熱の食卓 (四巻)
- 寝心地良いハンモック…………… (四巻)
- (釣魚)生活 (四巻)
- 輝く入隊式 (二巻)
- すがすがしい始拜 (二巻)
- 規律正しい操業整列 (二巻)
- 遙に皇居を拜する祝賀日 (二巻)
- 被服の點検は厳格にして (二巻)
- 團内整頓状態を檢べる點檢 (二巻)
- 容儀態度を檢べる分隊點檢(三巻) (三巻)
- 軍人精神演習の趣呼び (二巻)
- 嚴肅なる軍容の趣呼から (五巻)
- 軍實なる結束 (二巻)
- 手旗で綴る四十八文字 (二巻)
- おゝ勇ましい軍歌 (二巻)
- 肉體美は體操より (二巻)
- 白兵戦に備へる銃劍術 (二巻)
- 劍戟火花を散らす劍道 (二巻)
- 海軍相撲の素道 (二巻)
- 内陣相撲の游泳 (二巻)
- 人魚は躍る鯉泳 (二巻)
- 壯烈なる水中騎馬合戦 (二巻)
- 船の滑きも船やりに (二巻)
- 波を蹴立も船やりに (二巻)

●各科の任務及作業の巻

- 血湧き肉躍るボートレース (三巻)
- 觀艇式は新しくして (四巻)
- スマートな赤十字射撃 (四巻)
- 快よくコダマする銃聲 (四巻)
- 衣義海の子の衣裳袋 (四巻)
- 心も浮き立つ上陸用意 (四巻)
- 髪が延びては上陸前の…………… (四巻)
- 身代しなみ (四巻)
- 腹の蟲がぶ(酒所許ス) (四巻)
- 海の子を待つ渠を踏む…………… (四巻)
- 機日目に土を踏む…………… (四巻)
- 楽しんで上陸 (三巻)
- 名勝古蹟を訪ねて (三巻)
- 「つた」なしの海軍角力 (三巻)
- 運動なら何でも御座れの…………… (四巻)
- 海の子 (四巻)
- 天下珍無類の陸上運動會 (七巻)
- 僅か五升の水でこの洗濯 (二巻)
- 朝から淡水に苦しむ海の子 (二巻)
- 鹽水のバス(風呂) (二巻)
- 艦の大交際 (二巻)
- 風紀を取願る先任階兵伍長 (二巻)
- 精しい使りに此の御拜！ (二巻)
- 煙草欲を意巻いて (二巻)
- 海の子の取、上下の観しなみ (二巻)
- 休憩時間に腹に載ける水兵達 (二巻)
- 磨けよ艦と脚！甲板洗 (二巻)
- 時鳥はケタマシク鳴る…………… (三巻)
- スツ火災 (三巻)
- 一點の曇りも見せぬ銃器の手入 (三巻)
- 我が兄の如く美しく大砲 (三巻)
- 間髪をいれぬ救助作業 (三巻)
- 目まぐるしい揚空搭載 (三巻)
- 水の上にて水を積む (三巻)
- 猛烈極まる有電筒 (三巻)
- 大戦艦の出発用意 (三巻)
- 悲愴なる軍艦旗掲揚 (三巻)
- 思ひ集合！後甲板 (三巻)
- 黒い川の海兵兩よりさらば (六巻)

●各艦艇航空機の任務及訓練の巻

- 電波と閃光華々たる電信員 (二巻)
- 艦の耳目となる信號兵 (二巻)
- 近代海軍の花形航空兵 (二巻)
- 機體整備員の活躍 (二巻)
- 發動機整備員の使命 (二巻)
- 天晴れ空の勇士と成る (二巻)
- 卜能の亂舞(空軍) (二巻)
- 熱と力(艦の働き) (二巻)
- 機を以て機を制する鑄削工業 (二巻)
- 機關の原理を理學にて (二巻)
- 主機軸を操縦する操機部員 (二巻)
- 神秘的交誼(機械分解) (二巻)
- 天晴れ空前！(金庫工員) (二巻)
- 目に見えぬ電氣と閃光電氣部員 (二巻)
- 細工はリョウノ(木具工業員) (二巻)
- 軍樂兵の集立ち (二巻)
- 妙えなる音律と意氣と努力の叫び (二巻)
- 華やかな軍樂兵の生命である (二巻)
- 華やかな軍樂隊 (二巻)
- 昔い若提科の任務 (二巻)
- 健康の指導者看護兵 (二巻)
- 親切な診療は治療室で (二巻)
- 主計科の任務 (三巻)
- 主計兵とは (三巻)
- 熱量たつぷりな海軍の兵食 (三巻)
- 空炊實習を胸を拓く (三巻)
- 空廚兵の心算し (三巻)
- 艦内の女房役！主計科 (三巻)
- 離離を決する主砲の戦闘 (二巻)
- 太平洋の護り艦隊 (二巻)
- 金城鐵壁の戦艦(門) (二巻)
- 山嶺ある其の名も…………… (二巻)
- 伊勢・日向 (二巻)
- 最後の決を賜ふ戰國艦…………… (二巻)
- 扶桑 山城…………… (二巻)
- 三拍子揃つた戦艦…………… (二巻)
- 金剛・榛名 霧島…………… (三巻)
- 主力艦隊の陣形航行…………… (三巻)
- 艦隊の猛訓練…………… (三巻)
- 造るく怒涛と闘ふ巡洋艦…………… (三巻)
- 世界の脅威我が一萬噸級巡洋艦…………… (二巻)
- 妙高・愛宕…………… (二巻)
- 無敵巡洋艦青葉・古鷹…………… (二巻)

海賊の手目と成る巡洋艦……………
 阿武隈・津島・山良・夕張(四葉)
 壯麗なる成吉思汗艦の速航
 驅逐艦の犠牲的襲撃
 雄々しき水雷戦隊の夜襲……………
 呻う東渡の驅逐艦……………(三葉)
 望月・響・天津風……………(三葉)
 精神無比の驅逐艦……………(三葉)
 夢・桑・栗……………(三葉)
 天日を蔽ふ煤煙幕
 軍艦の犠牲練習艦比較
 今は特別任務に就く往年の「朝日」
 海軍の速り海防艦連開・八雲・出雲
 河口を渡る砲艦熱海
 北海の護り砕水艦大泊……………(五葉)
 怖るべき機雷を巧く敷設艦……………
 巖島・白鷲……………(二葉)
 機雷は何を物語るか
 運送の任に當る務艦佐多
 海を掃除する掃海艇
 威力ある機雷の排々……………(二葉)
 海中を潜る魚形水雷
 子艦を守る親艦潜水母艦長原
 海中我が物類に馳ける潜水艦呂號
 太平洋を飛ける潜水艦……………(二葉)
 伊號二二・五一……………(二葉)
 戦艦も及ばぬ潜水艦の三大特徴
 海洋戦の至寶……………(二葉)
 我等の潜水艦……………(二葉)
 今昔の潜水艦
 潜水艦の航行
 潜水艦の潜航器
 海の移動飛行場……………(二葉)
 航空母艦・加賀……………(二葉)
 豪華の皇航空母艦……………(二葉)
 赤城・鳳翔……………(二葉)
 海の守り空の護り空軍
 大空の護り戦術機……………(二葉)
 空の斥候・偵察機……………(二葉)
 空の戦艦・攻撃機……………(二葉)
 空の巡洋艦・飛行艇……………(二葉)
 研究所のオートデायム……………(三葉)
 飛行機發着の態々……………(三葉)
 敵眼を掩ふ機幕……………(三葉)
 開敵の軍艦見撃……………(三葉)

●勇しき陸戦隊の巻

陣地構築に餘念のない……………(五葉)
 陸戦隊……………(五葉)
 戦機將に熟して……………(四葉)

白鬼閃めく壯烈なる白鳥艦……………(三葉)
 決戦の刹那……………(三葉)
 堂々たる觀兵式……………(二葉)
 講評に喜び、訓示に誓ふ……………(二葉)
 威風堂々帝座を懸する……………(三葉)
 驅逐艦の警備と陸戦隊……………(三葉)
 任務は重し海外邦人保護……………(三葉)

●樂しき遠洋航海の巻

入港用意に喜ぶ海の子達
 美談の接待に満悦する海勇士
 謎の國支那！ 在留國人保護の爲
 めに各國は軍艦を警備さす厄介
 左衛……………(二葉)
 南支警備の餘録……………(二葉)
 艦上アットホーム……………(二葉)
 赤道の神にも赤道祭……………(七葉)
 日が一週ふ子午線通過……………(二葉)
 海の生命線に湧く感激の嵐
 上甲板に山なす寄附の特産物
 樂しき遠洋航海ハナマ通頭(四葉)
 ハドン河口に開戦！ 颯々……………(二葉)
 軍艦旗……………(二葉)
 ヌーヨークの見物……………(二葉)
 艦上は忽ち大演習場……………(二葉)
 雄きの名残を惜みて出港……………(二葉)

●壯麗極まる觀艦式の巻

殿々たる皇威は講頭を聳す
 大元帥陛下皇威御座に御召艦……………
 將士齊しく登艦の時を行ふ……………
 觀艦を運べる空中大行列式……………
 空前の大觀艦式場……………
 不夜城のイルミネーション……………
 駐蹕せしむる採海寇の壯觀……………

●國產軍艦の建造の巻

静寂其もの現物場……………(三葉)
 建造準備は進む掛橋場……………(三葉)
 機材場から技師場……………(二葉)
 人爲を超越した機械力……………(二葉)
 熱と蒸気で打つ鉄……………(二葉)
 工程進みて……………(二葉)
 伸び行く艦體……………(二葉)
 準備は出来た、建造作業開始……………
 盛衰、昇降！ 潜る海の浮城……………
 潜水より離脱(へ)……………

●各種圖解及對照表の巻

いざやと海の守りに出でん
 主力艦隊怒涛を衝いて……………
 大動位……………
 金均動章……………
 旭日章……………
 旭日章……………
 記……………
 下士官兵官職別章……………
 下士官兵官特長章……………
 善行章……………
 徽章及優等章……………
 海軍旗章及別國軍艦旗……………
 帝國海軍の發展……………
 帝國海軍の發展……………
 列國海軍軍艦隻數表……………
 下士官兵被服物品定數及代價……………
 下士官兵の俸給……………
 列國海軍軍備比較表……………
 列國海軍軍備比較表……………
 列國主力軍艦裝備比較表……………
 列國巡洋艦裝備比較表……………
 火砲の射程比較……………
 各時代の主砲……………
 軍艦案内(長門)……………
 各海戦の代表的軍艦と……………
 戰術開始距離……………
 帝國軍艦の發達……………
 各艦型圖解其の一、其の二……………
 各艦潜水艦の斷面圖……………
 巡洋潜水艦一般艦裝圖……………
 掃海艇作業……………
 機雷の敷設方法……………
 機雷の敷設方法……………
 日露及び世界大戦に於ける……………
 沈没艦艇數……………
 魚雷艇圖解……………
 魚雷艇の構造……………
 警戒航行の序列……………
 艦隊の戰法……………
 艦隊の隊形及變換……………
 艦隊の行動……………
 米海軍遠征の輪型隊……………
 日米英海軍の輪型隊……………
 海軍新軍出身地一覽表……………
 近代大海戦之圖……………

聖訓五箇條

一 軍人の忠節を盡せし
本分と尽し

一 軍人の禮儀を正し

一 軍人の武勇を尚ほし

一 軍人の信義を重んじ

一 軍人の質素と旨を正し

元帥海軍大臣伯耆守東郷平八郎

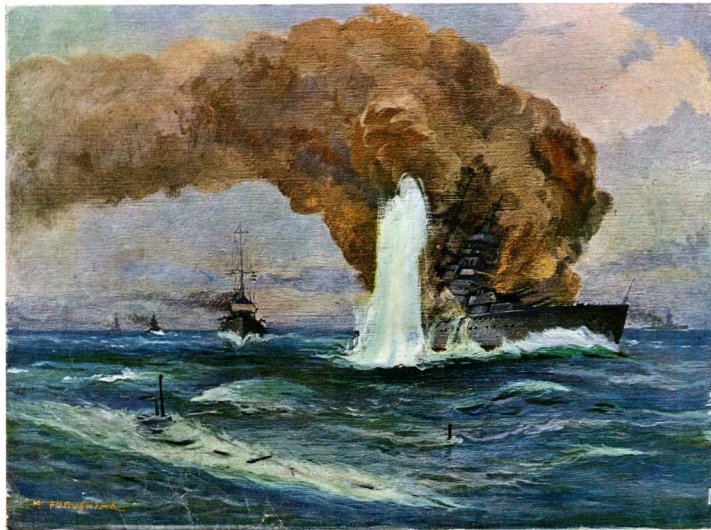
謹書

戦 決 大 の 擲 一 坤 乾



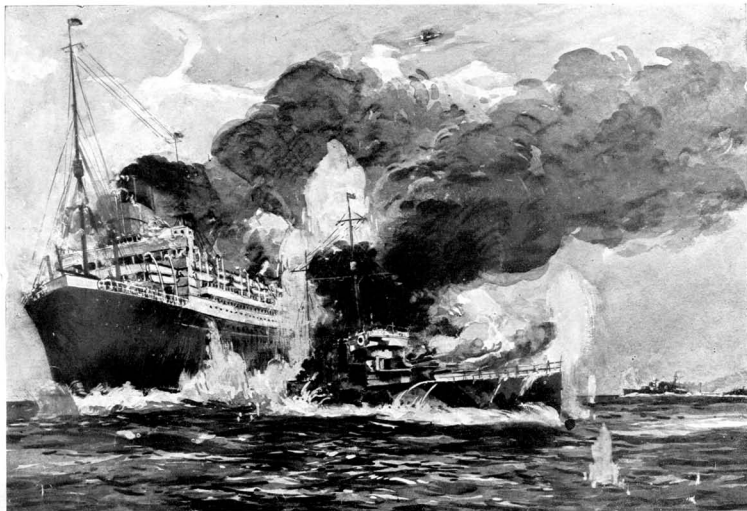
轟てつとを角弾大数は砲五に轟。る道に陣敵に共と隊艦洋遊てげ畢を鋭勢のそは隊艦雷水。ちか艦母は軍空に撃攻の力主敵。！始開戦砲
 。るす中命に力主敵の米萬三。び飛に空じ坐をり悠は先彈の貫十七百二。り切を盡火でつ陣と然
 ら屠を力主敵に將今に隊艦雷水が我るす道肉身捉てれは掩に轟艦方味たれき張展くべす接近に力主敵。るへ吼え然は口砲。ひ狂り怒は海
 。るあでのゝるか開は戦海大の擲一坤乾す塔を命運の國皇てつたと塊の糧のツーるせ熱約は隊艦全。！ぞ絶雷るた何呼鳴。るすとん

魔末断の艦戦るな壯悲

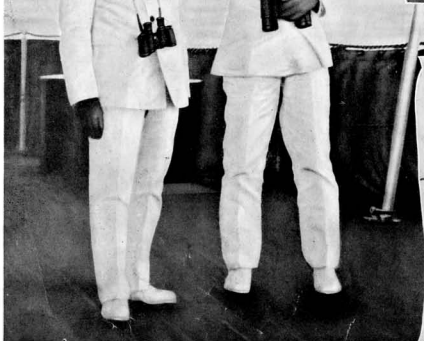


敵に共に撃つた然轟。た撃攻雷魚の意得中必強一は艦水潜たし提を艦軌の力主敵るたれば撃心。敵偵察用に追肉の隊戦雷水と撃爆と彈巨
驅の敵た見をれこ。る上び浮然艦艦水潜たし果を務任。く行てし斜傾に内る見る見は艦し神に天は艦黒し吹き吹を焰火りよ部央中は艦
の力神の在自見隠夜鬼出神のこ。す汝を姿の英てし航潛と々惑び再は艦水潜。る來てい付り振者武もに取勇て以を速快く如の又夜は艦送
！ぞ懐るた何！ぞ快るた何呼喚。うらあであるげ避と會三もど難と敵強るな何如はに前

沈撃の船商喚叫鼻阿



るあにと壊滅商通の國敵でん進と護保易質の困自外以るはさずたに開戦接直時取は務任の艦洋巡
 寸較比に艦洋巡級噸萬一が我の目今がるあはで名有もにり餘は事たし沈撃を船商の多數。し樂殊に洋平太尉が「ンデムエ」艦洋巡遊時當戰大州歐
 〇るあが差の地天に質に量と
 〇だのすさ沈撃らか端つ片くな別區の等船用軍船物資、船客の國敵て以を巡の快船三卅。〇だのる始が躍活いし々華の艦洋巡が我そこ時たし紐斷が安國
 當魚に共は艦洋巡い薄の力開戦、船商い運の力速。し脱猛てつ候相と力島の機上艦が艦洋巡たれば現如突中行航つれさ強護に艦洋巡敵が艦商もし今
 〇るあで鐵地の世の此ら究は喚叫鼻阿、狀の那利のそ。く行てれま存に魔海、つき此を鎗の産紅の魔未斷に内る見る見てけ受を禮先の火砲、撃恐



聖慮長し

畏れ多くも大元帥陛下には特別大演習には炎熱燦々南海に或は狂瀾怒濤の大津に幾層も將士と起居を共にせられ親しく御統裁遊さるゝ事は只恐の至りである。

楯頭高く煙として聳る天皇旗を仰ぎ見る幾萬の將士齊しく感激の涙！ 軍人勲賞の一服は汝等軍人の大元帥なるぞ、されば、朕は汝等軍人を股肱と頼み、汝等は朕を頭首と仰ぎてぞ、その親しみは特に深かるべき」との御諭が頭に浮ぶのである。

かるが故に我が國軍は外國の軍隊と違い政府或は議會に隸屬するもので無く只大元帥陛下の大命に依りて行動するもので皇軍の尊嚴神聖はこゝにある。

寫眞は今しも楯頭高く天皇旗懸る御自艦上にて大元帥陛下には伏見軍令部總長宮殿下より具さに戦機を御説明を聽し召さるゝ光景で仰ぎ見るも只畏れ多き極みで浮る。



てしと相一の閣内又將てしと班首の政軍
歴大軍海つ立ひ負背を軍海大なる輝光
。影近の將大生半角大



班首の軍海時常非

時常非て以を身御き尊の業王技金もく長
ふ給せば帯を任意の兵用防國の軍海國帝
の下殿王恭博宮見伏 帥元 長總部令軍
。委英御



賢正の國帝 人武的型典 ! 海東の界世
力の限無てしを民國 石柱大の軍海が我
の將大郎八平海東帥元めしぜ感をさ強
。影近

督提名つ立てつ負背を機危

官長司令部守備員頭
將大身修野永



官長司令部守備佐佐
將中政光内栄



官議參事軍
將大郎三吉村野



官長司令部守備兵
將中徳尚田藤



官議參事軍
將大輔英本山



官長司令部隊艦三第
將中郎次信村今



(官定議)官議參事軍
將大治寛藤加



官長司令部隊艦二第
將中吉三根高



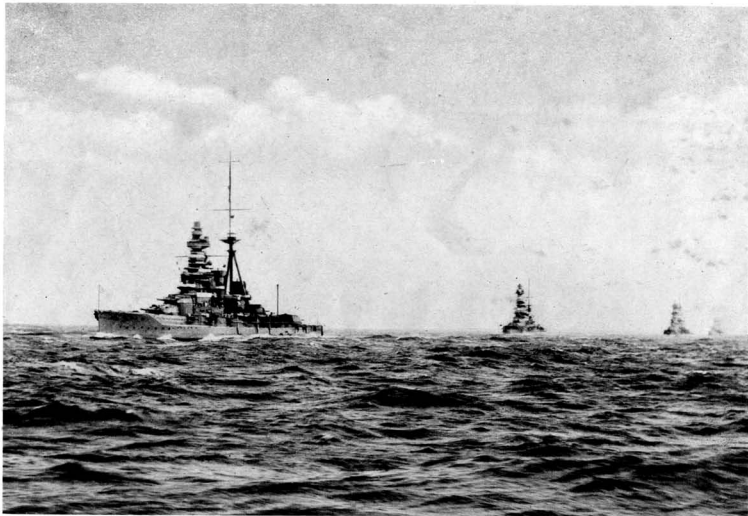
官議參事軍
將大造勝林小



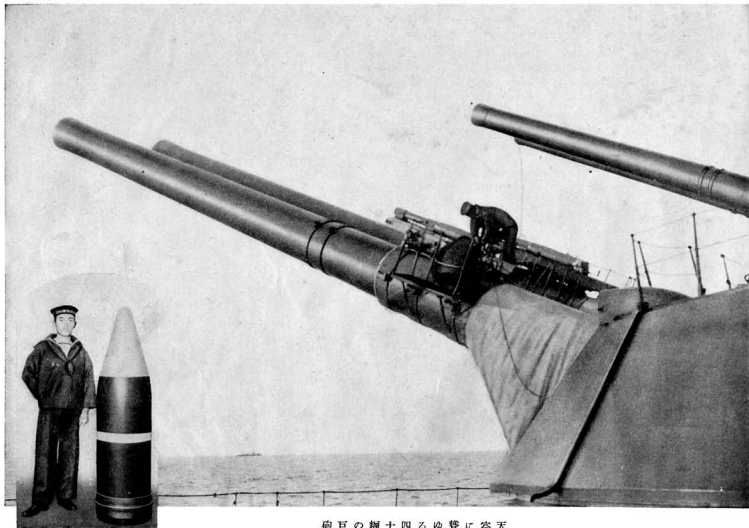
官長司令部隊艦一第兼隊艦合第
將大正信次末

報忠盡、武勇膽剛。くなはでみの益兵るな級巧艦軍る許を銳精り獨、はのる居てし壓抑を軍海の強列てつ波を輝光るた然爆が軍海本日東極
こるれら得に所適時適が村人き如の斯。るあでとこる居てし居群く如の雲が將名たけ長に揮指率”
。る居てけ掛を頼信の艦滿は民間に肩双の督提名く置にき安つ山泰を家國てし面直に’
。りあて業要一な大偉の偉軍はと

進航の除艦力主が我るす脱睨を洋平太

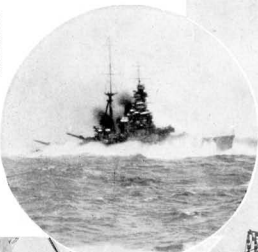


艦るあ力のこに一は命生の飽同萬千九　！ぞ言の首提きしも頼き強力るた何！！みのるあつ特唯ず非にるむ攻は我。たけ受け引は洋平太」
一を困窮てしと乎斷。敢果速神のそてし而。を型陣の除艦力主が我るす睨を海々堂に南に北は波に西に東。よ見。だのる居てつゝかに除
？ヤリあてし果争戰米日。るあでのるむしせ騒震を海四。動鳴地天かんか開を口砲の砲互の割十四のこ度とひ。！を姿雄るざげづ互も強
。いなれま望は和平ばらなたつか無が信自と力武の後背もでい注を力に作工交外に何如。た題問る知ぞみの神。期時唯
！！「みのるあつ持は我。たけ受け引は洋平太」。を言の首提き強力　！け聞び再

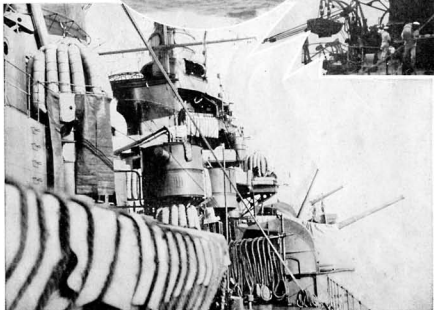


砲巨の徑十四るゆ聳に空天

飛揚・彈揚は或る回旋・仰俯の身砲る餘もに間十。砲巨の割十四るたれらせ備装に艦戰。るあで砲主の艦力主はのもるす決を役最の戰海
 砲主のこはるな大偉す有を程射な大砲の(半里七)米萬三。び飛を所高の尺千八萬一約は丸彈の貫十七百二發。る依に斜機て總は等填裝
 索出準照てつ從。げえ見底到はてに鋼砲は艦廠の鐘巨大遠るあも米萬三てさ。るをてれさ備裝門二に塔砲一はで軍海が扱は砲のこ。るあで
 る來出が事ふ胆を離に由自てつ依に置裝撃射盤位方謂所。りあが塔標指火砲に上頂の權。らかいな
 !!をさ大偉の彈砲と砲巨の徑十四よ看。るあでのたれ生り依に義意たしうこは情機の等「奧陸」「門長」の軍海が我



主力艦の戦闘
主力艦が全速力を以て決戦の光景。
四十度の瓦礫八門は彼方を睥睨する無限の威力
艦首に連立つ激浪と艦尾に福巻く白波を見て、
其の壯麗さは想像出来やう。



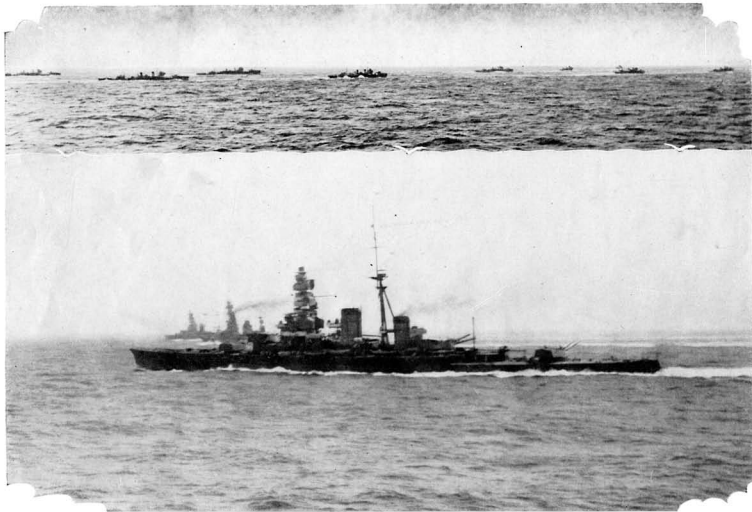
戦機迫れる合戦準備

軍艦が今や戦端を開かんとする前、大砲や水雷を發射するに邪魔になるものは取り退けて甲板を綺麗に片付ける。

これが即ち合戦準備である。艦橋から男らしい「合戦準備」の喇叭が艦内に響き渡ると船員は迅速に自分の持場に駆けつけて定められた作業に就く、艦橋等の戦闘に極めて主要な部分は防弾用として釣床が張着され、舷外に吊るした短艇は艦内に入れられ、短艇吊りのダビットは倒され、防水扉、防水蓋、天窓、舷窓等は一瞬にして強く閉ざされる。

艦内倒る所には火災に備へる爲め海水を光し水洗濯桶やホースが準備される。機関の等は露々として海神を威壓し、無煙の中にも静肅厳然として艦内の空氣は漲り勇士の血潮は躍動する。黒汐の彼方を見詰める海の子等の眼は何時しか血走つて行く。嗚呼勇しい合戦準備。

ひ谷を敵に既！戦緒



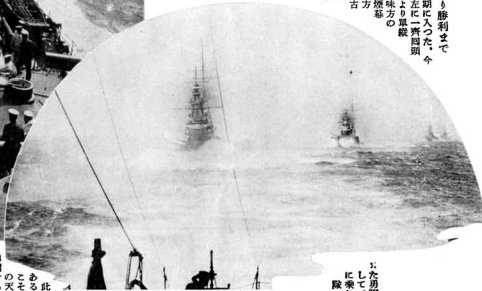
方味を電一第のしゆ見艦敵てし見發を敵一の敵もく早は機空航の方味。たし接近相と々堂て以を形陣或撃てい置に方前を列索糧は隊艦大の我彼は開戦中空るな烈壯翔飛てり作を群は機行飛たれ艦を敵母に已時此。るす進邁く如の虎るむ求を物候は艦洋巡速快方味とれ果そこはす。たし發はつ移に開展るな利有く早速は隊艦合翻。るかてしとんれさ落てつ切や今は戦海大るへ負を命運の國皇。たし明判々急は在所の力主敵。たれさ始開る居てし配陣を陣敵てし立行く如の石雲は官長、く雨を天氣意の滅撃け掃を旗陣歌く高頭楯に操一は艦艦の隻十數百。たつ入に形陣開戦や今て

11前分五始開戦戦ぞれと呼鳴



艦隊より勝利まで

戦は漸く艦隊戦に入った、今や我が主力隊は左に一斉回頭を行つて單梯陣より單縱陣となつた。敵味方の中間に介在して煙幕を展開せるは味方驅逐隊だ、前方古鷹級四艘の巡洋艦は敵水雷敵隊を撃滅中だ、これに掩護されて敵主力に肉迫するは、世界の花形味方水雷敵隊だ。敵は戦闘機攻撃機を放つて、我艦隊に迫り、我が航空機ま×

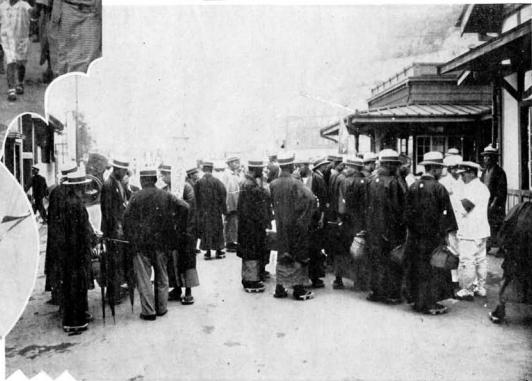
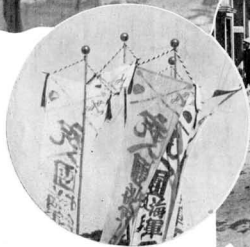


また勇突撃に乘じ敵主隊の牙城に迫り一舉にして之を撃滅す。この状況は、徐々徐々徐々徐々に迫り、烈しき戦も一段落となつた。

此の時である！夜暗の天下だ、我々も勇躍せる味方水雷敵隊と巡洋艦隊とは捕物を求めて走り廻る肉迫襲撃の我が夜戦隊忽ち暗を明く魚雷の掃發、閃めく敵の防禦砲火、眩惑する探照灯！敵は死物狂である。我が夜戦部隊は敵に息づく暇も與へず強襲亦強襲完全に敵を叩きつける。

希望に満ちた首途

陛下の海軍人となる日は来た。善哉
 沐浴済らかな心身で父兄と共に鎮守の
 宮に國家安泰、武運長久を祈する頃
 は最早村人全部が「目出度う」と
 押寄せて来る。愈々出陣の日に海軍
 青年の各團旗に守られて感涙の潮に押
 流され乍ら村はづれに差かゝり、
 此處で家族や村人と別れの挨拶が交は
 される。淡くしめやかなる。近頃の
 驛前にはやがて同僚と成るべき幾十の
 青年が親しげな顔で成るべく、推して居
 る萬歳々の喚に送られて、車は動
 き出かけた。期待に満ちた。旅友よ、
 目指す軍艦の驛には早や先輩が迎ひに
 来て居て何かと世話して呉る。



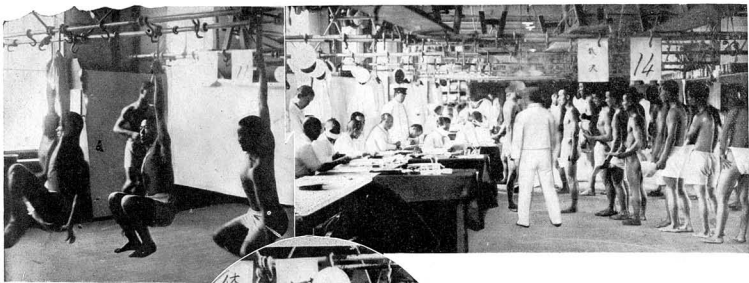
血潮高鳴る

入團の日

君國の爲め、廿年來
住み別れた懐しい故
山、別離の哀を振り
切り、歡呼の聲に送
られて入團の前日軍
港に到着する。
割當てられた旅舎に
て先輩新兵揃から種
々明日の注意を聞か
されてから今晚は好
く寝る様にとの忠告
があつたが床に就い
ても故郷の事や、明日
の入團の事などが心に浮
び、まじりともせずに一
夜を明かすのである。
今日は愈々晴れの入團の日、
若人達の五體は躍動する、



●海兵團正門は早朝から何千の
入團者と附添ひ人として人波を打
ち、さしにも廣い練兵場も定期
迄には雑音に魂を奪はるゝばか
りである。
入團者は各兵科別に何府縣の立
札の前に親切な先輩の案内で少
しの不安もなく所定の位置に就
く。さりながら尙ほ合格か不合
格か一抹の不安が漂ふ。



微に入り細に亘る體格再検査
 徵集官が海軍兵として合格の選決を下す迄には諸種細査
 體格なる検査の結果であるが、牛渡經濟の今日入團の日
 迄には、不慮の災厄、自己の衛生上の不注意から諸種の
 疾病に犯されて居るものも少くは無い。毎年幾十萬人か
 の壯丁の中から選ばれて来て此の日不合格と言ふ現はし
 切る者もある。入團した此の日も十有餘の各検査場を廻
 して愈々此決の場所迄無事通過するには全く生きた心地も
 しない。自ら徵兵検査とは全然其意氣を異にして居る。
 殊に少年航空兵の如きは特殊の性能検査を必要とし、感
 覺、聽音、張力、活力、肢感検査等其他嚴重なる検査を
 全部パスせねばならぬ。
 斯くして後始めて各賞共に備る海軍兵となるのである。



服兵水のれ憧る着てめ始てれ生



あてれらば並が衣軍の宛分一人はに上の机や早とる來に班の分自てれき卒引に長班歌り定も班歌屬所。び喜の生蘇に聖の格合！格合
 哭てへ欲迄方き穿の靴とか方り被の子帽はてき等飾標。着上。ツヤシらか下ンボス。て捨ぎ脱とリラチは服衣た來て着らか舞故。る
 見るば逐で姿の此。たつなにんさ兵水な派立の前人一がるあはで味氣レテか聊にきなチヨギの衣軍る着てめ初。さ切親の長班歌るれ
 率御てし出を精に掛軍らかれこ。よたへ遣見。たつなに派立君〇〇ウヨイ」だび喜いし恥ラウもるすを珍換に々人れ哭て來てつ送
 ！魂和大や心ふ匂に香の服。よき輕身の服兵水。るすとればれ晴も心れらけ付力らか人友と「よむ頼公





又圍して第一覺える喇叭は嬉しい、カッ
 ヲムク」と聞える筈だ。腹自慢
 の主計兵が調理、然共本位百分の材料萬
 點の味、先づ和會生活者の中流の調理だ
 らう。例は味噌汁、煮は牛肉、夕食は魚肉
 等時には汁粉、又は食ハツカビスケツト
 が食卓に上るが入圍當時は喉につまつて
 目多白屈させる事もある。管食事は一
 食分宛副長、主計長が點検する。宛前に
 見える様なメニュー製の船に一食卓毎に
 主計兵が處つて食事用意の喇叭で各食卓
 當番に渡し各自の食器に分配するのであ
 る。殊に観察日等の食事は白飯で副食物
 が種々と盛られた外に菓子、果物、洋酒
 等々食卓を賑はす。

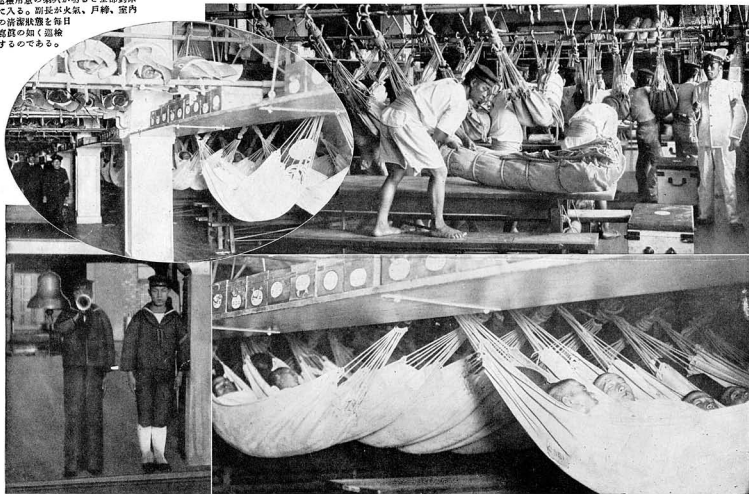
(C)は艦内勤務者の食事。



興味高點の食事

活生(床釣)クモンハイ良地心寝

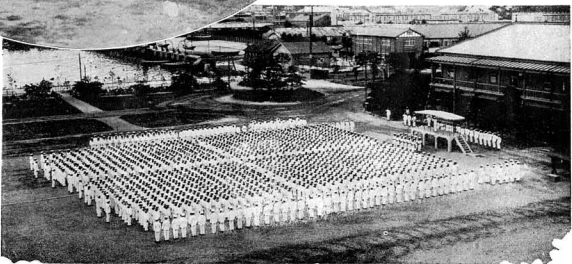
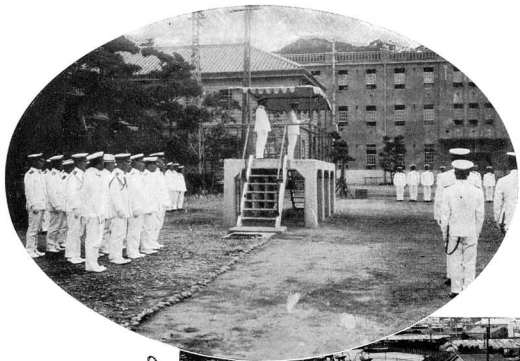
臨検用意の喇叭が鳴ると全部釣床に入る。副長が火氣、戸締、室内の清潔状態を毎日客員の如く巡検するのである。



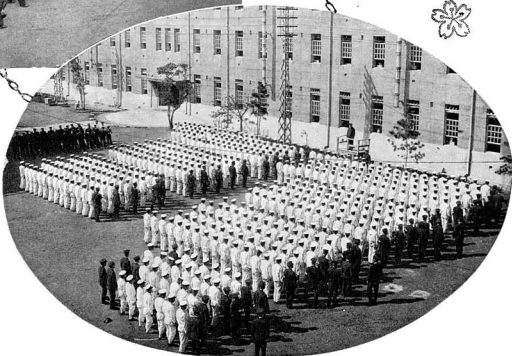
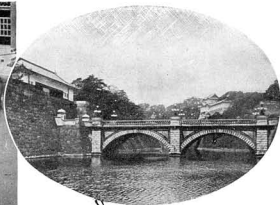
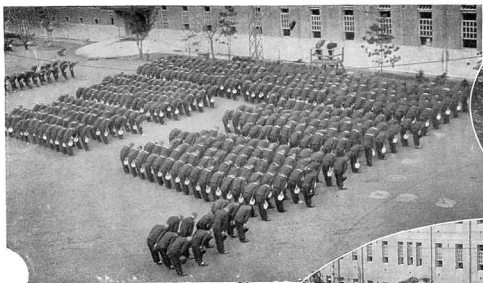
あるあでのぶ結を夢で(床釣)クモンハの此どん暗は子の海り通の歌ふ云と「ロシイヨる寝人一でクモンハトイロチがンサ兵水キイ愛可」丸には時るけ付片。り吊に裏井天様ぬらとを所場で内寝い快は果効のクモンハ。だ感快ぬれば味はてく無で者活生軍海は地心寝い良のこ舉一る來出眠安くな少揺動ばれ寝に床釣もで時いし激揺動の艦で天荒。るす用使てしと用彈防の板甲は合場の戦上海。れらめ納てつ括く。あるあでのるす用使を床釣のこもで者務勤上陸でのぬらなはてく無に子の海得兩口」「だ田山ヤリア」「ッだ誰はのたち落てけば寝るか床釣夜昨イ一オ」。あるあも合場るす口閉分隨てシラグクは時當た寝に床釣てめ始。るるなに氣平てれ馴ばれすも月ケ二一もド一ツビエの夜たしう新「……………ハツハツ

輝く入園式

輝く此の日、待ちに待った入園式の日は来た。教授長の細かい注意や分隊長の服装點検を終へ愈々広い式場にと幾千の新入園者が一糸亂れず整列した。折から囁きたる奏樂程に鎮守府長官は幕僚を従へられて登場、訓示慰問を述べ、外國家ノ權益抑々我海軍ハ内國民ノ安寧ヲ維持シ、外國家ノ權益ヲ擁護シ、正義ヲ四海ニ志クテ以テ任務トシ、畏テモ上ニ大元帥陛下ノ視シテ統率シ給フ所ナリ。テレバ身軍職ニアルモノハ其光榮並大ナル共ニ其責任亦重大ナリト明ヘルベカラズ、而シテ諸子ノ先輩ハ日清戰役以後果次ノ征戰ニ於テ力戰奮闘克ク見敵ヲ滅滅シテ帝國ヲ泰山ノ安キニ置キ御機成を萬里ニ



ノ外ニ輝シテ大御心ニ副ヒ奉レリ。今ヤ諸士ハ此榮アル際更ニ有スル海軍長官ニ入りテ陣國ノ大任ニ當ラントス聖訓ヲ奉報シ、雄健努力整頓ナル軍人精神ヲ榮ヒ誠忠奉公ノ實ヲ誓フケヨ。
今し愈々使命の第一歩を踏まんとし光榮輝として頭上に輝く。全員齊しく感奮興起し誠忠を誓ふ。あゝ其使命重且大である。



規律正しい操業整列

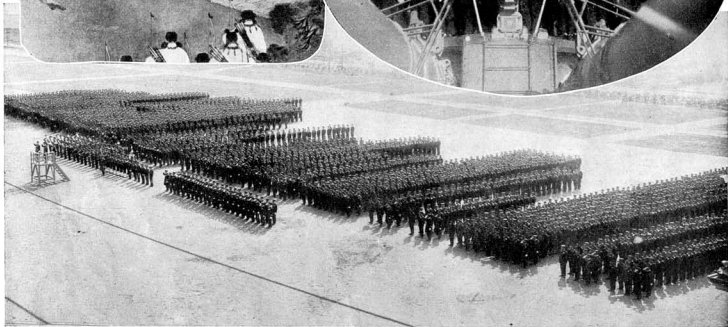
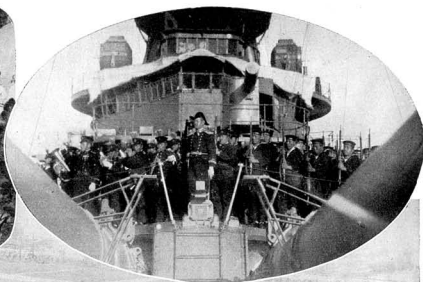
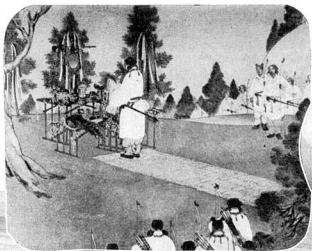
操業の人間の仕事をするに何時に始めて何時に終るか一向わからぬが、此處は軍隊何事をするにも規則正しく何時から何をすると命ぜられる。例によつてパイプが鳴り「整列」と大きな聲で吹鳴る。これは當直分隊下士官の役目だ。分隊長が號令をかける。數隊長が整列を正す。いいところで分隊長が「後〇分隊長ロシイ」と號令室の上の教育主任に掛けられ、やがて「操業ニ就ケ」上命ぜられ、これから分隊個々の規定操業に就く。毎日午前と午後操業整列が行はれる。

すがくしい朝拜

けたたましい起振喇叭が曉の静寂を破ればやがて總員は新鮮な空気の際る舍前に整列して遙かに皇居を拜し大御心に敬ひんとす。此覺悟。敬虔な此の心。之れ忠誠ならずして何ぞ。所くして毎朝一日の誓ひを立てる海軍の姿。

日 祭 祝 する 拜 を 居 皇 に 遙

寫眞(上)艦上に於ける紀元節の遙拜式
寫眞(下)普通祭日の遙拜式の光景



るすA 晴も満は氣瑞の祝奉りよきま朝日此。るす祝奉を歳萬國帝、歳萬壽垂てし拜を方の城宮に遙はに日祭祝ずは間をとるた活生上艦とるた活生上陸
興餘の講禮無く能はに中海航洋遠。だ景情一の日祭祝亦ものぶ喜て見を旗の飯白にりぶ方久がるあも時る出の飯赤はにまた時、る出が走馳御の飯白らか朝
打ふて合り語を奉來出の上陸日一日今ばれなにもに夜るす艦歸てし過とびのびの日一いし嬉、れさ可許を陸上はのもの中泊碇内港がるすもれば行がどな
るあでのぐは舞を日一の日祭祝てしく新、どなるあものもふ情を友戰たつかな來出陸上めたの直當に物産土きしら珍、者るず興ち

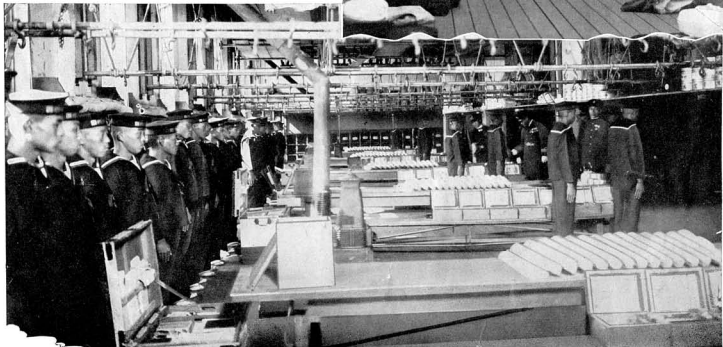


被服の點檢は斯くして

日ノ出海軍の精神を表徴した水兵服は御上より御預りの大切な品である。だから各自は紐一本、ボタン一つでも失はぬ計りか符損や不整頓に成らぬ様何時被服點檢があつても黙クチャになつて居ない様ノ平常からキチンと整理するのである。寫眞は被服點檢用意。

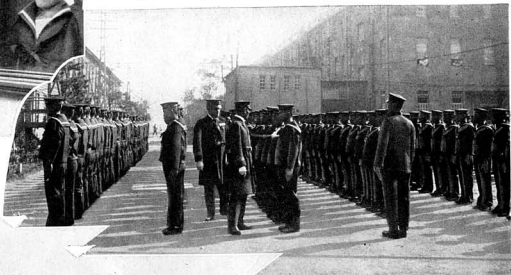
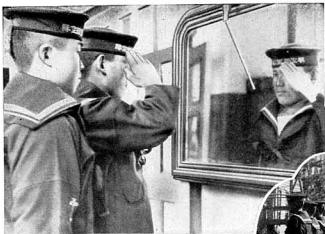
團内整頓状態を檢べる點檢

軍隊は集團生活である。宛てて整頓が亂れ勝ちであるから時々團内整頓の整頓清潔状態を點檢する寫眞の様に食器から手箱、釣床、衣袋等綺麗に整頓し點檢を受けるのである。兎角入團前キチンと整頓するのは良い事と思ひつゝ、キツクバシナした癖も斯くして矯正されるのである。

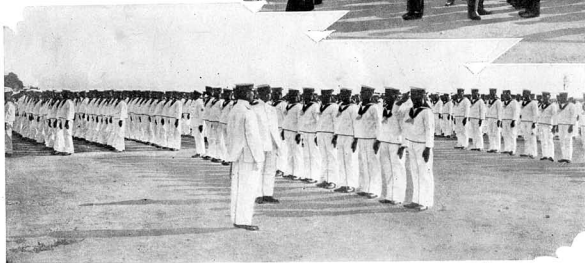


容儀態度を檢
べる分隊點檢

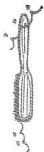
嚴然たる容儀と態度は職
はずして已に敵を呑み何
者をも屈服せしめる。毎
土曜日に行はるゝ分隊點
檢は其の内容各個の服装
容儀を點檢するに在る。
最初の内は團長が前に來
ると目がクラ／＼して何
を聞かれても唯ハラ／＼
して思つて居る事の半分
も答へられなかつた者で
も日が廻つて從つて度胸
も大きくなり、如何なる
事を開かれても軍人らし
く「スラ／＼と答へられる
様になる。然然たるその
軍規、軍容、威容を整へ
んが爲めには種々な訓練
を必要とする。×



(右) 冬服を
着用した場合
の點檢
(上) 大體に
向つて敬禮の
練習
(下) 夏服を
着用した場合
の點檢

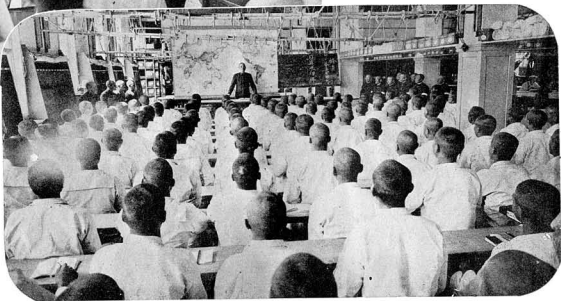
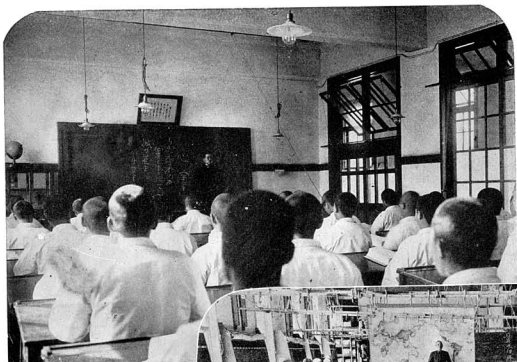


×
見よ兵舎の入口に掲げられた
大鏡、分隊點檢前の大紫呂振
り、鏡に向つて一指一指の亂
れをも整へて敬禮の練習とな
す眞剣なる姿。軍帽の振り方
襟袖の結び方に餘念なき姿。



軍人精神演習の雄弁

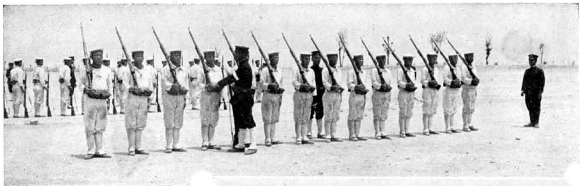
分隊長は会員を導いて、身を修め忠貞報國の道を醇々と説く。其の片言隻句をも聞き洩さじと水兵達は食ひ入る様に分隊長の緊張した顔を見まむ。頭先の体業を練じ、現世の國際情勢を説かるる熱辯は聞く者をして幾度か感奮手に汗を揮らせる。かくして水兵達は眞に國家非常時の大決心が湧然として心の奥底からわき出でる。世界大地圖を背にして説く熱辯は迫れる一九三六年の危機を深く、水兵達の胸裏に刻み付けられて行くのである。



如何にせば氣を以て衆を制するか。量に代ふるに賢光、兵器の力は二に二を加へれば四になる、人の力は二に二を加へれば必ずしも四ではない、訓練修養の如何によつては八にならば十にもなる。五ヶ條の要訓を奉讀し、光輝ある國史を永遠に繼承せよ、と分隊長は常に精神修養を説かれる。



銃銃教練 砲術とは名のみ徒
歩教練で小銃を手にせぬのは
何だか怪死りぬ感がするが愈
々銃銃教練が始まると先づ第
一銃銃は軍人の魂で特に草
屋漢すべき事を聞かされる。
次に銃銃の名指だが仲々六ヶ
敷い。一連を終ると道へ銃
立ア銃、棒が銃、それから各
射撃姿勢、折敷ケ、伏せ、散
開、各種行進等々愈々本格的
に訓練される。
「山崎銃口左へ」「田中肘ヲ少



＊
少シ引ケ」「中山右肩ヲ
少シ下シ」「腰ヲ曲ゲテ
ハ敵が見ダラ突クソナ
ヘ」と教員は親切に教
へ
陸軍の歩兵のやうに年甲
小銃を以て練習、訓練さ
れるのは異り他業課目
の多い海軍兵は五ヶ月位
の短期の間に全部覚え
成堂々たる帝國海軍軍
人として列強海軍の模範
となるのであるから教
の者習ふ者亦真剣其のも
のである。



徒歩教練 教官が手を
取り「股ヲマツテ手ヲ
テ爪先ア下ケ、勢ヲ上
テ出セ」と歩、リヤ
の徒歩の姿勢も出来る
来ると横隊も縦隊の行
進、脱目も振らず正
面を脱んで二



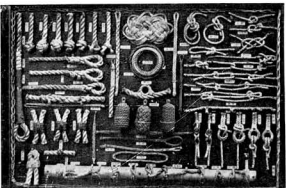
嚴肅なる軍容は砲術から
命令一々赤熱の軍情も燃々たる非難もいかに
か恐るべき。君國を背負つて立つ軍人の使命
は實に萬死に一活を求むのみだ。兵器の精
組、兵数の多寡我に於て何からん。看よ上
熱氣が如き夏の日も、嚴寒骨を刺す冬の日
も徒歩教練に、銃銃教練、懸拳として立て
る勇士の姿を。教員、教官の懸拳たる教導に
軍人精神が假へられ、
海軍の勇士の血は永久に
國の義心に燃えて
行くのである。



不動の姿勢 軍人本
本の姿勢で前んで字
の如く動かないと云ふ此
の姿勢、これ程簡單で
六ヶ敷いものはない。
眼前に白刃閃く共、砲
彈炸裂するも動ぜざ
るに於ては容易の
業ではない。
「オイ山下何カ覗イテ
居ル様だ、對ア出シテ
頭ヲ引ケ与佐藤オ前ノ
「渡邊猪ノ目ノ様ニ日
ノ玉ヲ眺メナ」

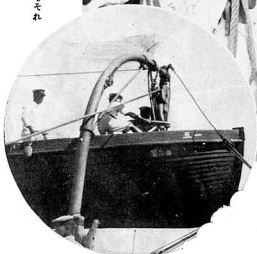
重寶なる結索

海軍軍人は勿論船乗りとして種々の結び方の心得は是非共無くしてはならない。一本のロープを結び付けるにも軍人精神が籠り、確實と、迅速に結ばねばならぬ。小は通船より大は三萬噸の戦艦に至るまでこの結索なくしては何の御役にも立たぬ。マスト上の作業或は舷側の各種作業、さてはボートの上げ下ろし等々結索の巧拙の如何に依つては益々人命迄犠牲にする時さへある船乗りとして思ふ存分に専公する身には、この結索の術とは實にその生命である。



各種結索見本

此の様に澤山の結索にもそれぞれ使用區別がある。



結索の取

一、

泊は安き多島海
備の索は大結び
行手は遠きヤル
ニデヤ

白帆は高し帆索
結び

二、

世紀の流れ足早
文化儼れる流の
上に
今朝疑る古への
章き技を君知る
や。

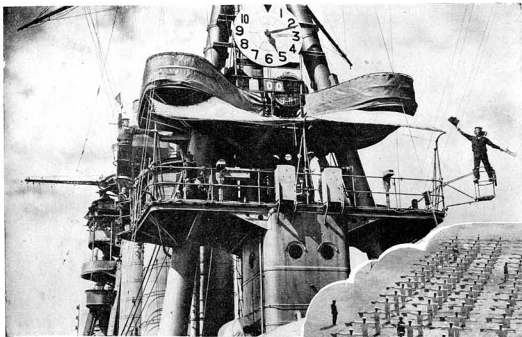
三、

身を托したる我
艦の命の綱を過
たばいかで勝利
の語くまむ
あゝ結索のたま
ものよ。

左は引き上げら
れた錨艇上に結
索作業の光景で
一本の綱によつ
安全に艇は止ま
るのである。

手旗で綴る四十八文字

近代文明科学の發達に伴ひあらゆる通信機關が進歩した今日、時代遅れの感ある手旗信號は統治中の艦船や陸上部隊との間に簡易に對話が出来る。始めて習ふ時は一二三の原割からイロハの讀りに進罪も解らずに苦しむが練習を積んで覚えれば至極便利だ。聲の届かぬ處に居る友との對話にも早速應用一寸失敬この手旗も宮原上は艦橋の手旗信號。下は手旗信號練習の光景。



赤と白との御旗をさしげ

四十八文字み窓にかけば

空の小鳥が飛んで来る。

小鳥来い来い海兵團は

いつも春風おもてを吹いて

花は紅白野はみどり。

飛んで来たなる御土産やるか

御歌聞かしょか小鳥と小鳥

いつも忘れずとんで来い。

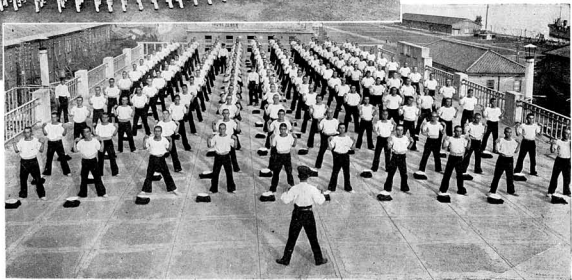
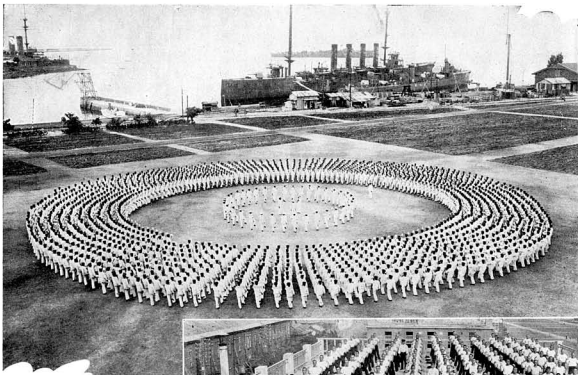


まゝ勇ましい軍歌

軍歌は士氣を鼓舞し正氣を養ふ。土曜、日曜、又は祭日、軍港の彼方、陸上の此方より海の子帯が勇ましく、軍港歌の「メロデー」が流れて軍港の天地を掩ふ。一死無量の武骨な武人にも柔かく勇まじき情緒が染はれる。

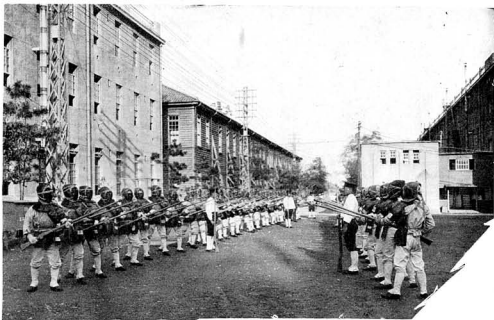
○守るも改むるも無難の 浮べる城ぞたのみなる
浮べる其の城日の本……

○四面海なる帝國を守る 海軍軍人は
忠と勇との二文字を 胸に銘じて……



肉體美は體操より

陸下の軍人は堂々たる體格の持主でなければならぬ。「身剛なれば心自ら剛し」入關前は各々其職業を業にした關係上足が曲つたり手が延びなかつたり體格柔組となると狭い艦内生活で運動不充分から身體の發育が助けられる。この身體の發育を平等にするには體操に依る効果は最も大である。故に海軍の子等は朝夕此の體操を行ふ。見よこの剛々たる男性美！斯くして保健は益々向上されるのである。



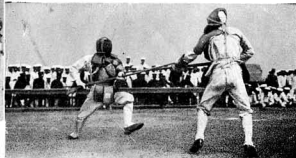
白兵戦に備へる銃剣術

化學萬能の近代戦に於て銃隊戦間最後の決を與ふるものは實に猛烈な白兵戦である。此の白兵戦の力は一ツに銃剣術の巧拙如何にある。戰術如何に巧妙なるも、火器如何に精緻なるも突撃主體を銃剣と頑強なる體面に置く以上其の技はまさきに重く、之れが訓練も亦白熱化するの富餘の餘裕である。

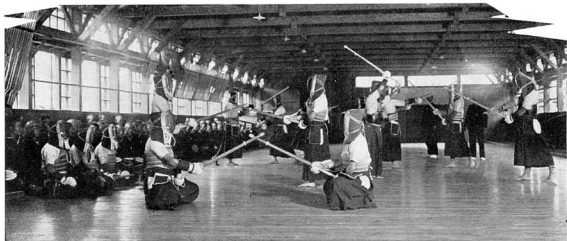
青史三千年擡として輝く我が武道の精神、一度び及向へば肉を斬き骨を碎き血雨を降らせずんば止まざるものは實に銃剣術だ。



ドイツと
丹國より出づる
掛籠男ましくサ
ツト突き出す銃
劍、岩をも貫す
此の意氣。
看る世界に比な
き日東男子の妙
技。



劍戟火花を散らす劍道
 軍人勲鑑に「小敵たりとも侮
 らず大敵たりとも懼れず」とも
 の御言葉通り日頃勤を磨き技
 を練るものである。我が國傳來
 の妙技、劍道は柔道と共に日
 本精神の發露である。今や一刀流の切先鋭く攻撃又
 攻撃龍虎相搏ち皮を切らして
 骨を刺す猛闘血戰これぞ眞に
 武士道の精華大和民族の意氣



肉弾相搏つ柔道

我が國固有の武藝の一つが此の柔道である。相手に一寸の
 隙も與へず、態々迫らず、相手の姿勢を崩して間髪を入れ
 ず素早く技をかけ相手の力を以て相手を倒す。其の妙味眞の内
 彈相搏つ爽快さは日東弟兄のみぞ知る。
 看よこの負けじ魂二ツは一ツの魂まりとなつて跳展、巴投
 げ、さては押込み等々秘術を盡し柔道場の猛練習。





海に親しむ游泳

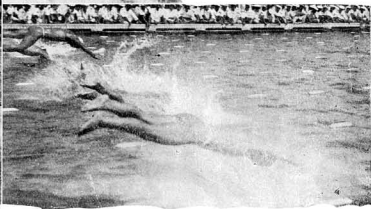
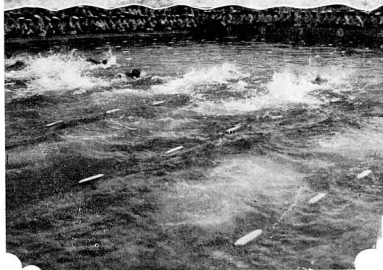
海軍の游泳は訓練であり、必須の武技である。赤痢色の美しい肢體に潮吹きを立て、サッ／＼と波流を體に切れる様はアールの水に鷗程を放ち水泳などと其壯きを異にした克己事だ。二列縱隊を作つて堂々然の波流を蹴つて遠泳の號聲も何のその、阿童の様に自由自在に水神の演で舞れる愉快さ爽快さは浦上の陸人にも想像出来ぬところである。

「オ！イ山田だ金田か、土左衛門ヤカボチヤでも浮くんだよ、山家育ちのお里が知れちや。此處の御水はからう御座ると神の賜が突つてるよ」と水泳上手な職女に諭はれても仕方がない、浅い波打際にも溺れか付いて一生懸命バチャ／＼する内二分浮き五分泳ぎ一週間も経てば泳げる様になる。これも眞劍味を持つた練習の賜である。



換け付く盛夏の午後海岸で裸で帽子だけの身軽さに成つて游泳に先立ち先づ露肌の如くウオーミングアップをなすのは水中で起こる痙攣を防ぐのである。看よ整然たる其體操を規律正しき軍人の一編が置はれる。

壯麗なる水中騎馬合戦
 「われは海の子、蛙の兒」と云ふ屋海軍兵連は水泳のみではなく有らゆる水技をして水に親しみ、大海原を馳地と同じ氣持に成る様努めるのである。騎馬合戦と云つて四人一組となつて一人が肩の上に乗り騎手となつて、漕平艇十組かに分れ波を蹴つて互に敵の騎手を引きづり下さんとして、押し合ひ揉み合ひ溺る様は誠に言語に絶した壯絶さ快絶さである。斯くして健康の上にも頑強なる體操は水に親しみ乍ら助長せられて行くのである。



人魚は閉る競泳
 待ちに待つた晴れの日は来た。日頃の腹筋を十二分に發揮するのは此の時ばかりと、握りに握り抜かれた選手は高鳴る胸を押張めつゝ、スタートルに立つて、コースを見つめ、用意の體合にも飛び込まん勢ひ、ドンと一發選手一同はレブキを立て、水中目がけて飛び込み、力泳又力泳。スタンドには應援團の聲援に益々加はる急ピツチ、人魚かと疑はるゝ。嗚呼快なる壯なる哉海の子の生活。

~~~~~





観艦式は斯くして

軍艦にはボート、ランチ、カッター、ピンネース、水雷艇、傳馬船等々の小艇が搭載されてゐる。これを檢閲するのが観艦式で一艦だけで行ふ行ふ時は艦長之を閲し、艦隊で行ふ時は司令官が之を觀艦する。その時は綺麗に磨き出された之等の小艇に小さな軍艦旗を挿立て、司令官は艦長の前を挨拶するのだ。其の時期は必ずしも一定してゐないが、時に應じて實行する。多くは旋泊中であるが、此の観艦式によつて士氣を鼓舞し、訓練の状況を閱して有時に備へるのである。



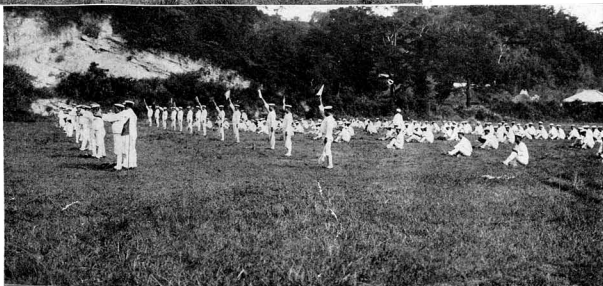
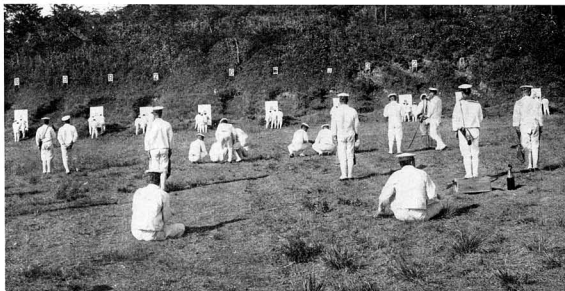
血湧き肉躍るボートレース

波を縦切るボートの轟進、風に響くオールの響き……海の子の晴れのボートレースの日は来た。

擲投された一粒擲りの選手は白鉢巻も覆々しく我が艇こそ、今日の榮冠者と機も折れよ、腕も折れよとはかり猛烈な力漕振りは男性的で、勇壯な海兵の競技の一つとされて居る。

其意氣、其の猛烈なる氣魄は開田川のボートレースはマ、事の様に見えやう。ボートとは云へ、一朝事ある時は敵艦目がけて突進もする艦載の大ボートだ。女性的なスボート気分では一寸も動かぬ。そのボートが矢の如く海面を走る様は實に勇ましいものである。

單射銃學なトーマス



生れて始めて拳銃を肩に掛けた者は誰しも先づ拳銃  
 業に手を入れ一寸握つて見て激突む、欲練に先づ最  
 初各部の名稱を教はり彈込メ、射撃姿勢、射方止メ、  
 安全装置或は理抜ケ等々の操作を教へられてこゝろ愈  
 々實彈射撃の日が来る。標的の前に立つてこゝろ愈  
 い所からあの大きなかゝと自信たつぷりに引金を引  
 くと轟然たる音と共に弾は宙に上り上身は強い反動  
 で押されて吃驚させられる。狙ひは充分定つたから  
 満點黒星に命中せよと思ひの外因的の片隅に僅かから  
 度度胸も坐りコツも自然に會得出來て見事滿點の信  
 號が出た時の愉快さは亦格別である。

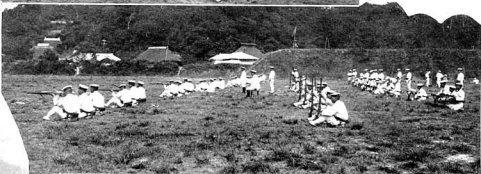


快よくコダマする銃聲

海兵は軍艦に乗つてのみ戦争するものと早合點するのは間違ひだ  
上海戦の如く時には陸戦隊として陸戦にも参加せねばならぬ。故  
に小銃射撃の訓練も亦等閑に明す譯には行かない。一發必ず一敵  
を斃すの徹と技を練るのである。

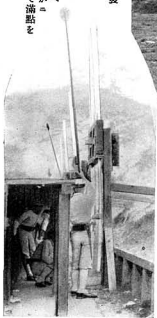
富岡は射撃場で實彈射撃の光景「杉山少尉の番だ、山の鳥が杉山  
サンの彈丸は飛んでも無い所へ來るから心配だと云つてるヨ」  
「グズ」云はずにオ手並拜見して居し、仰々射撃の秘訣は「引金  
を無念無想秋の木の葉の散る如  
しダ……」

何たる名句ぞ、實に心と目と呼  
吸が一致してこそ名射撃手とな  
ることが出来るのである。



(上)伏射、(中)據射、(下)立射

ズドンと一發  
の音と共に  
標的はグル  
ルツと廻  
る。觀的員  
は彈痕を調べ  
る。點數標が  
「ムーツ」と出て滿點を  
示す。





### 心も浮き立つ上陸用意

上陸には入浴、午飯、臨時等の區別があり、海の子連に一番楽しい事はと訊ねると返座に皆陸を指して上陸と呼ぶ。此の楽しい上陸用意の喇叭が鳴りパイプの心地よいリズムが隔なく響き渡ると待つてましたとばかり海の子が軍衣も軽やかに着替へて、上陸員整列の喇叭も遅しと待つのである。何故斯く楽しいのだから。

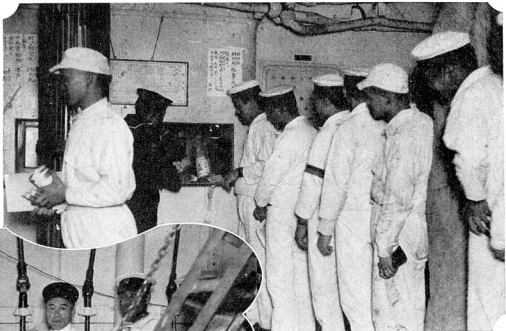
陸上部隊にも艦上生活者にも酒保も娯樂機關もあり、何の不自由も無いが？云はずと知れた男計りの集團、上陸（外雇）して緑の草、赤い花、街の情緒殊に海上部隊の者にとつて土の香を求めて小島の緑に飛び廻る楽しさは門外漢の味ひ知れざる處である。



### 衣囊 海ノ子の衣裳袋

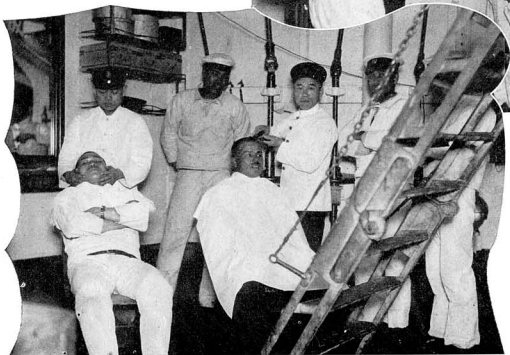
海軍下士官兵は衣服全部（夏冬共）をキチンと畳んで鞆一ツ寄せサズツク製の袋に入れて藏つて置く、此の袋を衣囊と云ふのである。よく軍池様稱で水兵達が周り三尺長サ三尺位もある白い大きな袋を肩に擔いで歩く姿を見受ける、これは補充交代等の場合で、海の子等は入團から満期迄自分の勤務先變更の都度持つて行くのである。

衣囊は衣囊より服を取り出し着換へて分隊點檢か、それ共楽しい上陸用意か、海ノ子等の面は輝いて居る。



妻が延びてはと上陸前の  
身だしなみ

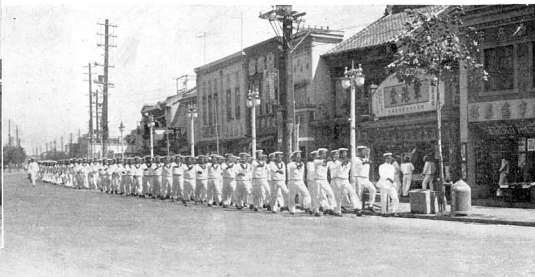
無精は軍人の恥と身の廻りは特に綺麗にする。大きな軍靴になると刺夫(ぬい)が柔込んで居て銀割五錢、刈込十錢位でやつて呉れるが、金庫から土曜日に上陸前は中々忙しい。まご／＼してゐると刈る事が出来ぬ故各毎に備へ付けの理髪器具で戦友同志で刈込む。此れからも「ホイ中々上手だな、此れからも「ホイ／＼頼むぞ」「頼むぞ」。「頼むぞなよ」「上陸だから綺麗にやつて呉れ下宿の娘が待つて居るんだ」「ワッケルナイぞれ／＼と朝ちらかな会話の中に綺麗サツパリと。



腹の虫喜ぶ「酒保許ス」

一日の日課が終り大騒が西の役方に行む頃「軍艦旗御シ方」の式が行はれる。やがて「釣床御シ」の喇叭の發酒保許ス」の喇叭が鳴ると、待つて居ましたとはかりに酒保の前は押すな押すなの大衆足跡に作業の激しかつた時などはへし合ひ揉み合ひの大騒御だ。四十位の鐵を生やした下士官でさへ、大きい船難航、大風御を口にドシ／＼放り込む。中にはビール日本酒サイダーに満を引き一日の勞苦を痛ひ疲れを忘れる者もあり、酒保は鐵のオアシスだ。酒保には飲食物の外類享樂貨、日用品等を販賣もして居る。

所會集つ待を子の海



裕大論勿は蘭樂樂種各、れして建でり集の基金な細帯の兵官士下は所會集兵官士下軍海るた々室つ立え壁に角一の部港要、港軍各  
 るあで所安慰の兵官士下るあ庇備設る來出（でずら足錢十か僅）泊宿も人千數に時一は或賣販の品用日らか物食飲、場  
 あで園樂るあ力越のへ等子の海は行所會集の日曜日程れそ、い無は所いし慰いし樂位所會集もてつ言といし程いし樂が何代時兵新  
 一てしそ、お遊つ且ひ食に儘がふ思に書讀、に横將、基園はてき、に氣湯の井天、にりわざ舌の餅福大、に味の粉汁は泉の命生、る  
 。隊一の子ノ海の行所會集ても滿に悦喜と所會集は真寫、る歸ても滿に氣元と望希てへ貯を氣笑の間通一る來、安慰日



幾日目に土を踏みしめ上陸

「山村今日上陸番?」「ウン風だよ」「アレ  
 して木村の前をか」「イヤ先月は風がタハラ  
 して悪かだ」「何の上陸だ」「油虫サ」「ウマ  
 クラって居るナア」との会話。  
 軍艦では鼠や油虫は駆除されたり不潔になる  
 為め見付け次第に駆除する。其の駆除方法と  
 して兵の一、番寄上陸を、鼠なら一匹油虫  
 百匹取った者に一回入海上陸を許可して居  
 る。何と妙案では無いか。  
 平日は夕食後より上陸番に上陸が許可され翌  
 日の朝食時迄のんびりと休む事が出来るので  
 ある。上陸員を満載したボートは波止場に向  
 った。恰もボートの様に男んで清き付け  
 る。足も軽やかに土の香を感ふて、目指すは  
 妻子の待つ我が家か下宿?集会所?楽しい嬉  
 しい上陸の一夜の幕は切つて下るるので  
 ある。  
 寫真(上)は掃蕩に着いた上陸員と市内でコ  
 ントラクトに興じる海ノ子。(下)下宿の臺  
 所で戦友と何かの手料理の最中。



名勝古蹟を訪ねて

軍隊に在役中内地は愚か海外の地迄も遊  
 戯して各地各所で色々見聞し、新知識  
 を廣める愉快さが殊ははれるのは獨り海  
 軍兵のみに許された特典である。

狭い艦内生活と日日の訓練作業に忙殺さ  
 れる慰安の爲め軍港や入港地に艦が碇泊  
 すると附近の有名な神社佛閣に参拜して  
 武運長久を祈り敬虔の念を強からしめ、  
 或は名勝古蹟を訪ねては感慨新たに往時  
 の有様を偲ばしめるのである。

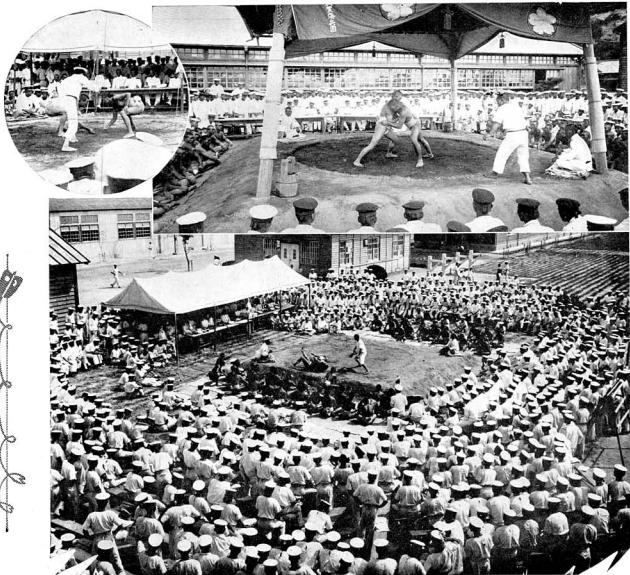
宮原(上) 神社に参拜の海の勇士連。

(下) 艦の野邊で寝食をし一日の英気を  
 養ふ海軍兵。

「待つた」なしの海軍角力

上古垂仁天皇の御代野見宿禰と常麻蹊速の力闘より以來角力は國技として賞讃、今日の隆盛を見るに至つたのである。此の角力は何等の飾りも無く底の赤裡々の勝負であり、我が海軍では日常別課に於て武技として奨勵して居る。一度立ち上つたら最後待つたもクソも無い。猛虎の如く武者振りついて取ッ組み合ふその勇猛な力闘振りは、蓋し水兵達の角力ならでは見られぬ痛快さである。

観祭日の角力は各分隊送り抜きの選手推挙争ひにその猙獰な角力振りは又一段の痛快さである。





運動なら何でも  
御座レの海の子

海上生活者が野球をやる？不思議に思ふ人もあらうが何うしてなか／＼水兵さんの野球は上手なものだ。而も其悍猛な打撃振りには素晴らしい。遠洋航海の時外國の港に入港し能く其の町の強チームと試合することもある。其他籠球テニス、蹴球何んでも御座レで、軍艦の乗組員も、陸上部隊の海の子も、其れ／＼球技は大いに獎勵されるのである



骨よ若人達の血潮は萬  
鳴り天地は微笑む。  
空を飛ぶ熱球、地を走  
る肉弾「アツ」同一襲  
球は籠の中へ一斯くし  
て體力は衰はれ協同一  
致の精神は培はれて行  
く。



ズラリと吊揚げた火繩、手を使はずに鎖以  
に火を付けて走る競技。



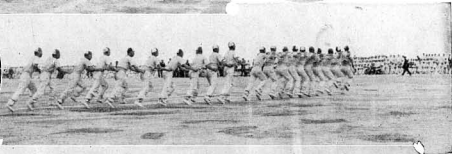
各自足首を繋  
ぎ合せワッショ  
ヨワッショの  
掛聲で歩調を  
合して走る百足  
競走、一人でも  
轉べば共倒れとな  
る困難競走の粋。



バトンをシツカト振りしめ、  
我組こそ一等とスタートした  
トラック競技随一の花形リレ  
レース。  
転るんでは起き起きては轉ぶ  
一人一脚競走、人生のコース  
も亦斯の如しか。



章歌天走りのワッショ  
決勝點は目前に！



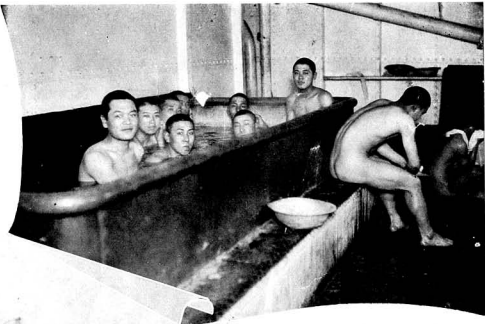
天下珍無類の陸上運動會

危急存亡の先方に點キ  
走る御手のものゝ武裝競走



「海の兒達」をからと  
て海上、艦上ばかりが  
天啓ではない、陸上に  
於ても亦法の勇士に  
た。國成を世界に發揚し  
た。この勇士達に發揚し  
た。氣な生活が深山に  
邪氣の中にも陸上運動會  
は、各隊の乗組員と云は  
ず各隊に至るまで華や  
かにも亦朗らかな一日  
を歡ぶことと云ふ。其の奇  
技なること天下に類な  
く、其體カラなことに  
於てこれ亦無敵の運動  
會だ。





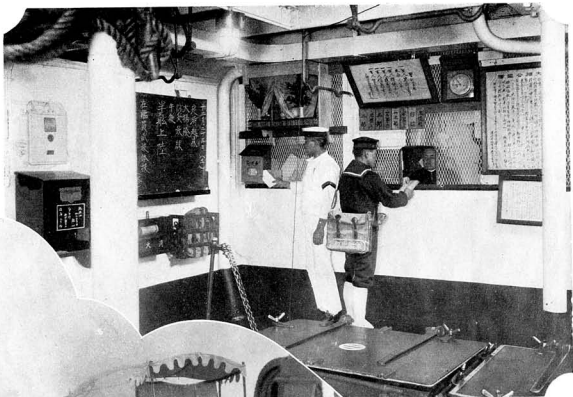
鹽水のバス(風呂)

バスと言つても聯合自動車と間違つてはならぬ。海の水は風呂の事をバスと言つて居る。海水の不自由な艦艇では風呂に入る機會が稀く、だが汚れ作業をしたり、機関部員の如く百二十度の温度の機関室にて汗と油や石炭で汚れ切つた身體を洗ひ落すには是非風呂でなくてはならぬ。水の不足から航海中などは浴槽の水は海水を沸かして入るので淡水は一人當り約五合入の水桶に四杯支給され、先づ一杯の水を手拭に浸ませて全身を洗ひ二杯目で全身の石鹸泡等を洗して浴槽から上つて三杯目の水で鹽水を洗ひ四杯目は身體の汗を擽き取ると云ふ寸法で、新兵時代は入浴しても水不足の爲め汚れを落切れずに閉口するが目が廻つたに従つて上手になる。軍艦では毎日等級、年限、善行章等の區別で上陸して外泊入浴させる之れを入浴上陸と云ふ。



朝から淡水に苦しむ海の子

東の窓がノム、と紅を帯びて来る。艦橋で富直將校が「總員起し」と命令一下傍に居る信號兵は「起キ、起キ、起キ、起キ」と叫ぶ。朝の音も勇ましく吹鳴らせば傳令員は「ビーツ、ビリビリ」と夢路を辿る勇士の耳を驚く。静より動へ、一日のスタートは切つて居られる。朝の日照甲板洗を終へると總員「顔洗へ」の號令で各自は盥盆の金盥(約五合入)を掲げ水當香より一杯限りの水を買ひ齒を磨き顔を洗つて朝食を攝るのである。嘘の様な眞實な淡水の節約振は海上勤務者のみの知る経験である。



### 艦の大玄關

艦の碇泊中、後甲板の左右には舷梯と云ふ階段が設けられ、乗員は此處より艦に入り、或は艦を離れるのであるが、准士官以上は右舷より准士官以下は左舷より出入するのであるがパイプの構造、衛兵伍長、衛兵司令、當直將校の敬禮裡に艦長が呼聲の光景。

此の舷門は文字通り艦の表玄關で碇泊中は番兵が嚴然と立つて出入を監視する。

### 風紀を取締る先任衛兵伍長

海軍の艦船団隊に在つて副長、當直將校、衛兵司令の命を受け特殊、整頓、規律に關する事項に従事、或は衛兵を監督し、又下士官以下全般の事務を掌る役を先任衛兵伍長と稱して上級兵科の兵曹がその任に當つて居る。阿は各科にも先任衛兵伍長の職務を分擔補助し、其の科の下士官兵に關する事務を掌るものを科特務下士官と稱して居る。

寫眞は先任衛兵伍長並前の景。

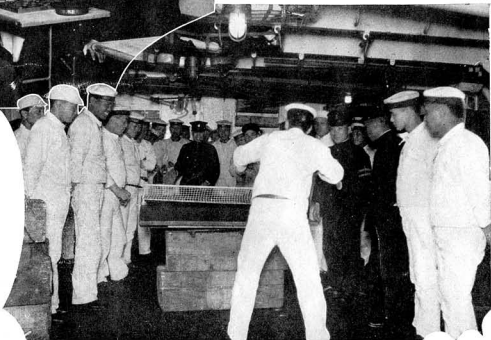
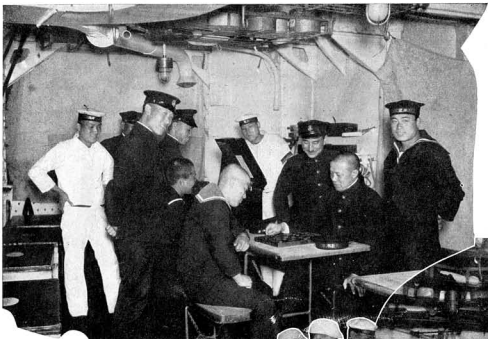






### 海ノ子の華、上下の親しみ

海軍々人は上下の親しみが特に深い。上官を呼ぶにも聲へば陸軍では何々上等兵殿、何曹長殿、中隊長殿、幕隊長殿と厳めしく呼ぶが海軍は何々サン、何兵曹、副長、艦長と殿を付けずに呼び、敬禮も何だか四角張らずに親しみを覚える。又上官から下級の者へは成る丈け言葉も慎んで居る。かくてこそ協力一致の得統的日本海軍精神が益々培突されて行くのである。

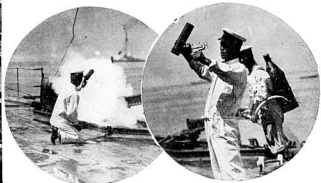
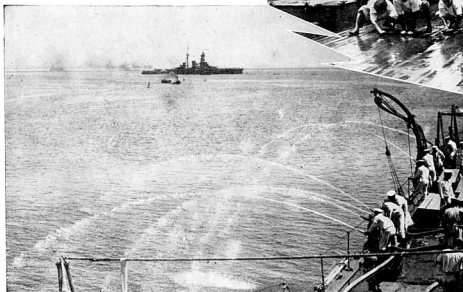


### 休憩時間に競技に耽ける水兵達

休憩時間に僅休か一時間餘りの楽しさは亦格別だ。甲板に出て將校も、下士官も、兵も一團となって、デツキビリヤード、輪投げ、キャッチボール、ビンゴン或は圍碁、將棋等別らかに許された遊技に耽るのである。實に忙中間、和氣霽々たる風情である。寫眞(上)は蓄音器で藤太郎の美聲に聞き入り乍ら天狗達の將棋の大決戦。(右)ボン／＼とビンゴン競技に自他の腕を競ふ下士官兵。



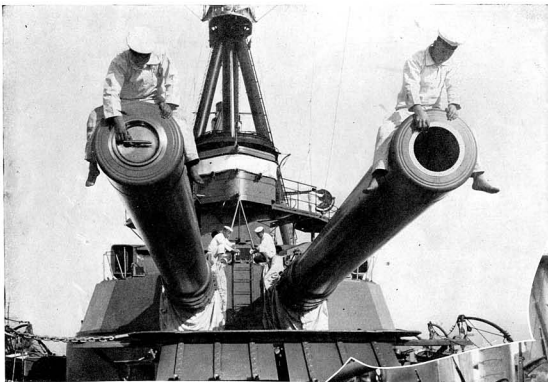
塵掛けと艦と胸！甲板沈  
 死なば諸共、船もろ共。甲板の汚れて居  
 るのは乗員の恥だ。だから甲板はいつも  
 綺麗にする。總員起しの喇叭が鳴る、ソ  
 レ起きると釣床をツツヤと片付ける、上  
 甲板の喫煙所ではもうお早ヤウの連  
 環で大騒ひだ。  
 暫くすると「解散直整列」の號令で水兵連  
 はスポンの繩を捲り勢揃ひ「甲板洗方掛  
 れッ」の號令で持場へ飛んで行き寫  
 眞の如く刷毛でゴシゴシ振り始める。甘分  
 もする中に廣い甲板は綺麗に磨かれる。  
 之れが如何なる爽い日でも露の目録であ  
 る。甲板洗は男性的で男壯活潑である。



災火ワスる鳴クシマタタケは鐘時

行を練致火防日耀土週毎め爲るへ備に災火の慮不放る居でん積を薬火は艦軍に疎がるす意注もし罪とはてし出を事火ずは間を陸海  
 のり預おりより下階ばせ定想とたつ超が災火に艦戦火し着るす練訓く如の既寫を案作な雷射資糧運送及び驗試檢點の器火消種各、ひ  
 し出い思を陥鉄の防固るす生りよれ之。るなに事るめ沈に底海を艦の圓萬個一約たし造建し費を時日の年ヶ三と命人き輩の名百四千  
 。るあで災火はきべる恐乎鳴。るあでのるす生を粟に肌もて

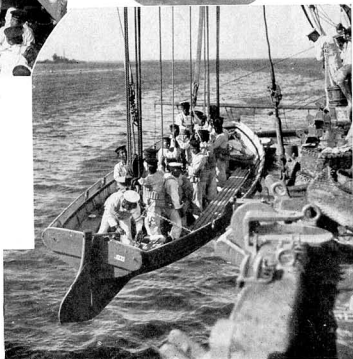
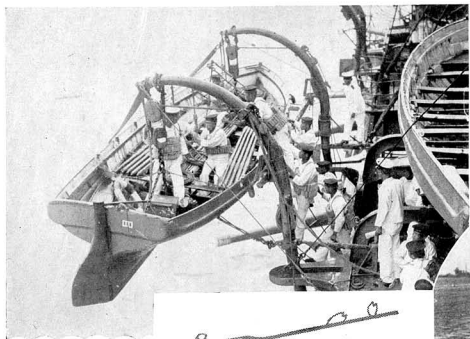
一點の曇りも見せぬ銃器の手入  
 日本海軍陸戦隊の名は遠く義和團事件以来國  
 際的に有名になつてゐるとは云ふものゝ十數  
 倍の敵を向ふにして奮戦した上海事變の戦間  
 こそは、實に吾國海軍陸戦隊史上の事だ。  
 其の陸戦に無くてはならぬ銃器の手入は水兵  
 さんの日課中重要なものゝ一つである。玉磨  
 かざれば光なし一點の曇りは愚か曇りさへ見え  
 ぬ處に磨き出すことの銃こそは、御國に御奉公  
 する戰士の魂だ。兵器の手入亦重慶護は兵の  
 寸時も忘れてはならぬ務めだ即ち一羽有事の  
 際にも萬全の器態を發揮せしめんが爲め毎日寫  
 眞の様に手入する。



我が兄の如く慈しむ大砲  
 艦の前は、後に、右に、左に、何門  
 何十門と云ふ砲！殊に四十程の我が  
 戦艦の主砲等は要塞そのものだ。否  
 それ以上だ。此れが一時に砲口を開  
 いた時の物凄さは何にたとへんもの  
 もない。海軍最後の決を與へる此の  
 砲を一羽有事の場合に萬遺恨なき程  
 毎日欠かさず、水兵は各自受持砲の  
 手入をします。看よ今しも巨  
 砲に訪がり砲口の手入に餘念無き水  
 兵を。この巨砲は一砲塔に二門、二  
 砲塔四門砲艦の前後に雄大な姿を現  
 して居るのである。  
 砲口に着せられた蓋を取る時こそ、  
 實に三萬米の彼方の敵艦を木葉散塵  
 に撃ちますのである。それ迄は我が  
 兄の如く愛撫して脱も砲も磨がく







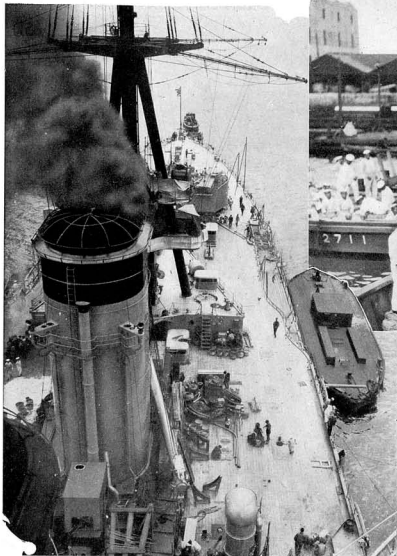
衝突を入れぬ救助艇作降

「人が落ちたッ」「左舷救助艇準備せよッ」「左舷救助艇用意」「左舷救助艇員並列ッ」けたたましい傳令のバイブの音と聲が飛ぶ。

艦橋のベルの音によつて機関部には傳はるや今迄二三ノットの速力で走つてゐた三萬噸巨艦も直ちに後停止す。

艙室では腰力が丹り灰落を閉め甲板上の救助艇には十二名の艇員と艇長とが救命杵を磨て艇の止るのを待つて居る「おるせッ」の號令で今迄ゴビツトに備へられた救助艇はもうスル／＼海面に下され波を蹴立つて落ちた溺者を指して一直線に進む。

千三百の乗員は唯其方向を見入つて溺者の救はれたか否かを氣遣つて居る。やがて救助艇は勇しく歸航する「誰だッ」と誰やらが叫ぶと「これだッ」と赤い旗の附いた救命杵を捧げた。これが救助艇作業教練の一幕で萬一の場合の訓練である。



### 目まぐるしい糧食搭載

糧船は半月分や一月分の糧食を入れる倉庫を持つて居る。戦艦になると一千四百人位の食糧が必要だから大したものだ。假に一日一人當り米五合としても千四百人では約十八俵も食べるので此れに野菜魚肉類、味噌醤油等を加へれば夥しい量である。いざ出港となると主計兵は軍需部より取寄せ何處にあんなに積まれるかと思はれる程積込む。

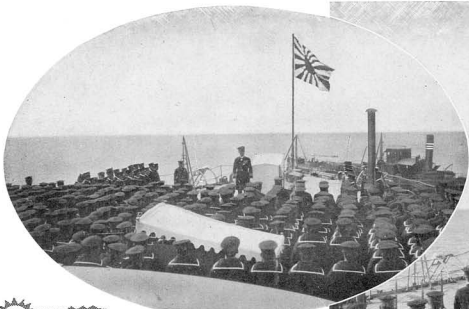
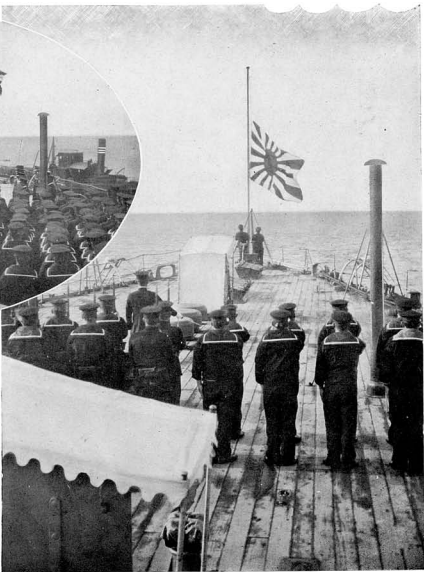
### 水の上にて水を積む

淡水は人生の糧である。飲料水、洗面水から汽罐の水まで風呂、洗濯の水等々是非無くてはならぬものである。水船より尨大なる量をポンプで吸ひ上げタンクに貯蓄する。寫眞は艦内の水船より水を積む光景で、船長の淡水を大切にすることは想像の外である。



各は校將直副。るす列整に舷兩トツテは連兵水。る漢き響く高空の港は帆剛の「列整直舷兩」  
 揚は兵團機。るす備準の方け掃頭が隊分特受の類はで帆早前。たじ命を「意用港出」に隊分  
 を機力返の色赤が兵隊信とるげ上見を機艦。つ待をの下の令號でけ掛を手にムドンへの機艦  
 運送るす動業は體軸き世を烈風はりよ突強る居てげ上を氣萬で室機はで部機機。る居てけ付取  
 費萬。る上が號信の「港出」。く高頭機もし折。く割を鋼の船演が手船演で下の機艦。いしら機  
 。す出き前は青玉の海くしま勇てし魂木に々町の港は寄の々々

く巻取と巻十何は積炭石を舷兩の機りよ朝早め爲む急炭石ふ云と噸百何千何力頭兩の體  
 。るれらめ始が積炭石な烈猛命懸生一は隊分各き就に量配たれら當割に毎隊分各とる船が食器  
 がい無も腹く其を汗でつ成に黒炭管も兵も官士下も校將。雲の敷宜裝假も體を身に服機作日  
 。るあでみのつ特とイラ。オ進出もでついるあでん積は際際。だん積も食糧か積も炭石でき



### 莊嚴なる軍艦掲揚

軍艦旗は帝國艦の旗であり、天皇陛下の御心現れである。軍艦旗を掲げた戦艦はゴート通船に至る迄本國領土の延長であり、何等外國の法令に従ふ義務が絶対に無いのである。

この軍艦旗は海軍の軍旗の如く大元帥陛下より親授されるのでは無いが年中之を掲げる必要上、大小洋山の軍艦が艦に有り、陸軍軍人の軍旗に對する精神と何等變らぬ精神と有り、帝國海軍軍人の精神と勇武とは一に此の軍艦旗を中心として確立し立つと云つても過言ではない。

故に海軍艦艇は軍艦旗の掲揚の儀式は最も莊嚴に行ふのである。午前八時當直將校の「海軍」の命令一斉に衛兵隊は一齊に「孫統」の敬禮を行ひ上甲板の將士は齊しく軍艦旗の方に向き響手の敬禮に齊にさし昇る旭日を俣つた紅の色旗を軍艦旗は映きたる君が代の喇叭吹奏につれて静々と掲げられ莊嚴にも亦勇壯の氣は大海原に洒ふ。又日没の降下は掲揚と同じ儀式を行ふのである。寫眞は軍艦旗掲揚の莊嚴なる景。

### 總員集合！ 後甲板

「總員集合後甲板」と艦橋よりの喇叭、後甲板より例のパイプをくわへた傳令は中甲板の昇降口を覗いて吹く、中甲板の傳令は下甲板の傳令に知らせる所として聲令は迅速に達せられる。將士は軍の如く後甲板へ！ 鐘聲と共に響る軍艦旗を前にして廣く艦内の總員は瞬く間に順次に整列する。

甲板士官の「良ロシイ」との報告を受けた副長は之を艦長に傳へる。そこで艦長は力の備つた聲で訓令をして乗員の士氣を鼓舞、整齊させられるのである。

寫眞は後甲板にて艦長の訓示の光景。

官教な切親る勝もに親 了終も有教兵新の間月々五！へ艦のれ懐  
 〇く輝は望希に手行がた、乗配船艦へつみし情をれ別員教



思ひ出の海兵團ヨさらば



永らく海上勤務に就いて  
 原たる海兵団は新兵と  
 交代の爲め昔懐しい思  
 ひ出の海兵團に補充空  
 代に入閣。



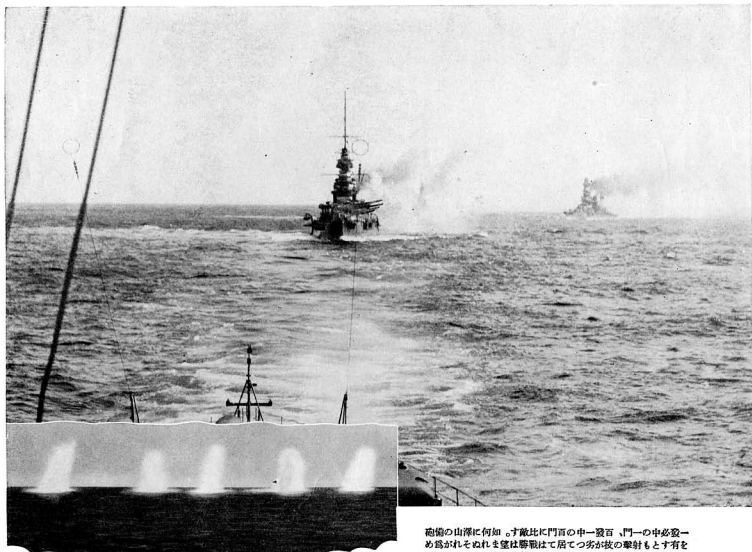
海を完備無業！へ除艦りよ艦面換  
 ぞれそ果結の選人で此此のに團兵  
 士隊分、旅隊分。らせ命を担乗れ  
 百のれ別と友戦はてさ官士下任先  
 くよ操機つら度出目舞ら旅左業

し輝の日今る輝てし華く無差を新き道に身き輕、活生軍海き早ばへ思  
 天下以長間と「光の霞」るた々咲るで美の除艦軍。た來は日の期滿さ  
 波萬る起に時一人るへ迎。人る霞見。る出を門開れら送に友戰の勢  
 〇から朝は期滿のれ晴。〇霞を地天の港軍は寒の呼歌



の海も日の期滿る飾を従故、も日の團入た唐を服兵水でめ始！團兵海  
 輝光、上團兵海呼鳴。る居でれま込み雨！深に特は象印のてつ取に子  
 ！！れた地重托の遠永兵海國帯るあ

る切を空は丸弾り唸は口砲



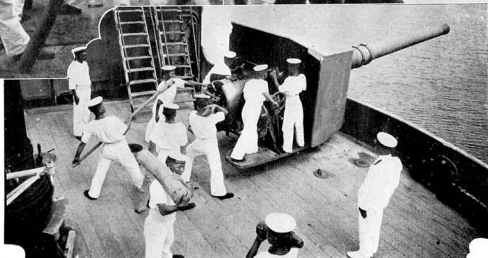
砲台の山澤に何如。寸敵比に門百の中一發百、門一の中必發一  
め爲がれそぬれま儘は響戦はて居てつ劣が技の撃射もとす有を  
るあでのる練を技ひ行もを撃射彈貫はに時は行が練訓撃射  
り依に下落丸彈は下、で景光の撃射彈貫もし今は上真高。るあでのる寸撃射て以を彈貫し航曳が艦航曳的標、しと的標を艦曳は撃射彈貫  
。那利たて立を柱水大

攻撃の第一線  
に立つ砲員

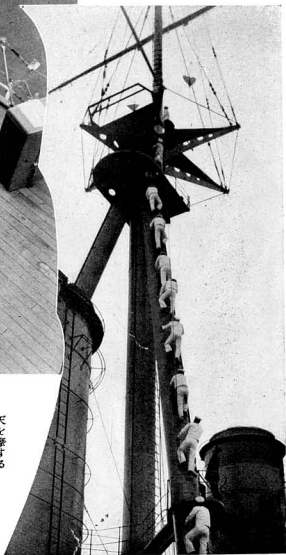
「砲門」「撃来！」  
「右砲撃右六十度敵の  
一番砲！」次ぎ次ぎと發  
せらるゝ命令に砲員は緊  
張！砲は向けられた右  
（三五）「三〇」齊  
打方！最後の命令は下  
された。それとばかり  
砲員は彈丸を發遣する  
さながら巴々の魂を打  
ちこむるが如くに……  
射手旋回手の眼は壁透  
\*



寫真 左及下は艦砲教練で左は高角砲下は副砲。  
右は右舷砲門！百發百中の砲員は斯くし  
て教練さるゝのである。



\*銃に、その手は銃控に、照尺手は目  
盛盤に、一番砲手は閉鎖棒に……  
その意氣その動作は目づから既に  
敵を存んで、無形の彈丸「日本魂」  
は敵艦の胸に命中してゐるのである。  
今日射撃に於ては世界中の  
軍の最高軍にある技術は年中喜慶  
の如く白熱的訓練の賜である。見  
よ！尤る筋骨！眞剣なる訓練  
實に修羅神の化身にも似て男壯  
活潑光。



### 天を摩する

橋登り！ 水兵

寫眞は勇ましくも亦スマートな橋登りの練習である。船内には登るにつれて自然に足が縮み體が張れ氣のみあせり下を見なくても良いのに、下を見る。何しろ數十丈の橋だ落ちたらと考へるのは誰しもであるが、練習ですら、登り降りが出る様になる。

この橋登りは時用に拘はらず或は狂亂怒濤は艦を木の葉の如く翻弄する日も航海中は晝夜の別なく此の天を摩する様様に登り艦の保安に飛脚中重大なる種種の任務に就くが爲である。

### 距離を測定する

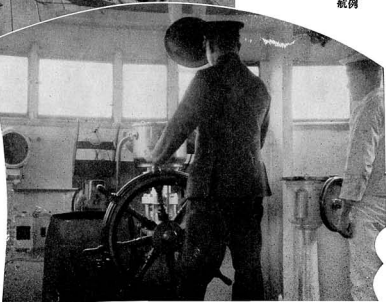
測 距 員

敵艦見ゆ！ 距離三萬四千メートル！ 三萬三千メートル！ 刻々彼我の距離を測定する任務の測距員。  
測距員は一々之を艦の要部に傳へるのである。測距も艦の保安上戦隊上大事である、測距が正しければ第一彈より敵に彼我互に溶せる事が出来るので彼我互に高速度で不軌なる運動中の測距は容易でない。測距員の任務も亦重大と云はねばならぬ。





保針の大任を増ふ操舵員  
 軍艦の中には職務により別けてある科長がある。例へば航海長、砲臺長の如きがそれである。航海長は艦の航海に關することを擔任する人であつて、その命を受けて職務を分擔する人を航海士、掌信頭長、掌見頭長、操舵長があり、操舵長の下に操舵員が居て航海長の命令一下、手足の如くに活躍する。「面舵十度」「取舵一かい」命令のまゝに操舵されると三、四噸の大艦も僅か一人の力によりて自由自在に運転されるのである。寫眞は艦橋の操舵室。



船體船具の保存を  
 掌る掌帆員

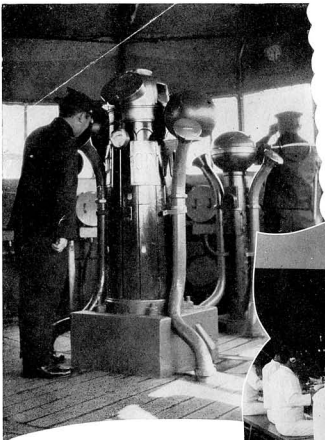
艦の保存手入れ整備は出來得る限り自給自足でやる様整備されてゐる。帆令は甲板が錆れば錆を掻き落としペンキ塗りの部分はペンキも塗る。さて掌帆員の任務だ艦内には帆布の使用や結束の用途は實に廣汎に涉つて居るこれ等の製作修理等保存整備はこの掌帆員の任務であるこれ等は一通り海兵團四等水兵教育中隊はり之を運用術と云ふので掌帆、操舵、傳令等皆之に屬して居る。寫眞は今も掌帆員が前甲板で天幕の保存手入れ、海の子が錆落しに餘念の無い光景である。



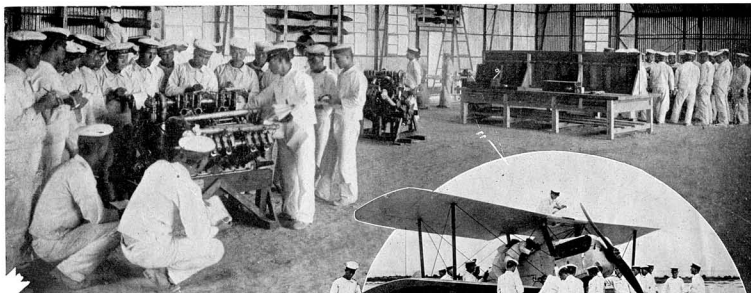
## 電波と戦ふ

### 華々しき電信員

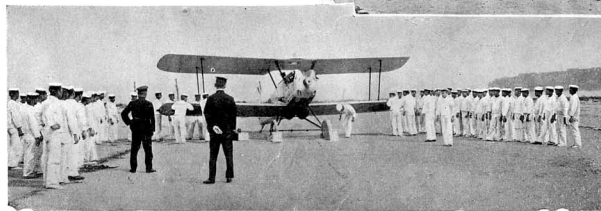
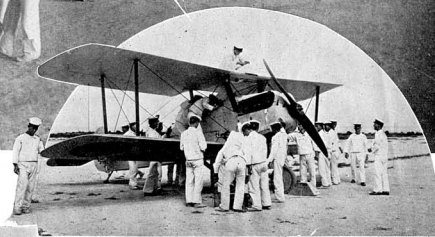
現代の海戦は先づ無線電信に始まる。最も早く敵の所在を発見して最も早く味方の行動を決定せしむべく通信するのがこの電信だ。ワートン、ワットワ、と一秒間に地球を七週する電波の集力！「敵艦見ゆ！情報は即時に何百何千マイル離れた味方全艦隊の戦術意識を奮ひたしめる。或は敵の無電を妨害する等主要なる任務に就くのでこれを教育する機関が横須賀に在る海軍通信学校で電信兵は十五歳以上十七未満志願兵又は徴兵志願者より採用される。これ等は海兵團で約三ヶ月の新兵教育を受け後普通科電信術練習生として海軍通信学校に入校約一ヶ年の教育を授けられて初めて一人前の電信兵と成るのである。



艦の耳目と成る信號兵  
艦の眼と成り耳と成る任務を  
掌る者は信號兵と云ふ。手旗信  
號其流信號發火信號等を見た  
り報せたりする重要な役を演  
ずる者が信號兵である。それ  
は實に軍艦の眼と成り耳とな  
るのだ。霧に遮られる鳥影、水  
平線に現はれる商船の煙から  
近傍を通過する潜艦の姿、僅に  
見える潜水艇、輝く空翔ける航  
空機等夜は燈塔の光は勿論暗黒  
の海に深密に出没する敵艦や魚  
雷、機雷の発見に全艦隊を雙  
眼に集中し艦の保安並に取上  
任務に就くのである。

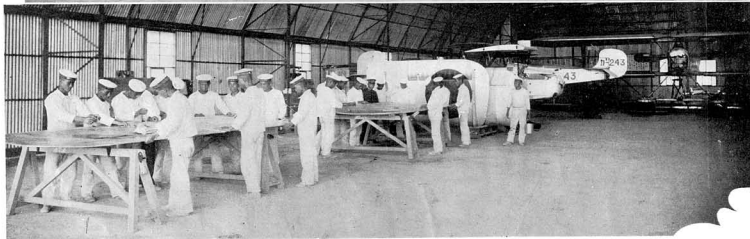
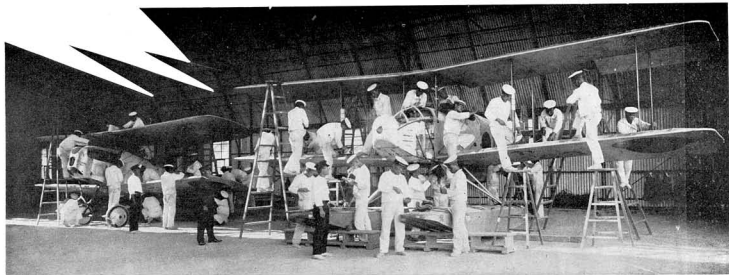


\* 一機當千の  
 技能、軍人精  
 兵を持つ航空  
 兵一人は物質  
 には換へ難い  
 大切な者であ  
 る。今や果立  
 ちしたる此等  
 の航空兵は將  
 來戰の第一線  
 に國威を双肩  
 び立つのである。  
 寫眞(上)は發  
 動機の見學、  
 (中)は航空機  
 の總體見學、  
 (下)は航空機  
 操法の光景で  
 ある。

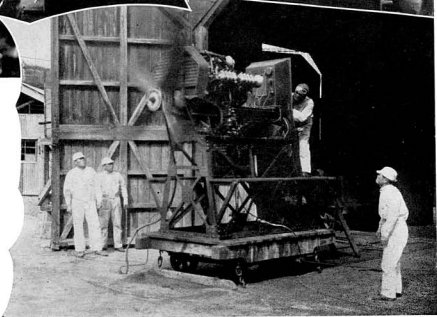
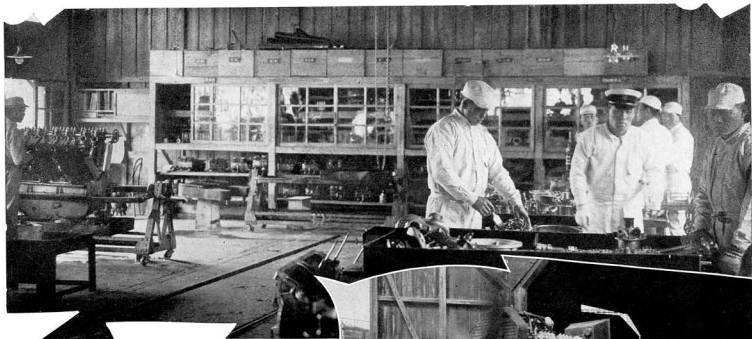


近代海軍の花形航空兵  
 近代戦には先づ制空權獲得とそ重  
 要な要素で航空機は各國共其の性能  
 に全力を傾注して優秀機の製作に努  
 力して居るのであるが、如何に優秀  
 を誇る航空機でも操縦技術が劣つて  
 居ては何の役にも立たない。それが  
 爲めに我が海軍では航空兵制度を創  
 設して滿十五歳よりその養成をして  
 萬遺憾なきを期して居るのである。  
 \*

機 體 整 備 員 の 活 躍



此の機を空と海とを往復するに此の機を空と海とを往復するに此の機を空と海とを往復するに  
 任大重等職は或、察、職して期飛を上原海大ぶ荒き吹風強は或し騒拜くしま勇晋爆に上空の米千數。る居てれか分にと員  
 本一線強。ねらなばねせ揚貨を力努の断不の員備整はに影るせさ勤活に分存ふ思すへ興も安不も障故の等何に機空航るび帯を務  
 。るあできべふ思そこ心奮力努の員備整。いな來出はにせが忽ばへ思を事の居てれさは員が命便き重れぞれそにケ一控割



### 發動機整備員の使命

一分間に二千回もプロペラを回転させる二噸もある機體を飛燕の如く飛翔さす發動機は如何に大きいが想像出来やう。これを自由自在に分解組立調整をして器能を十二分に發揮せしめるのが發動機整備員である。心の緩みは故障の因、瑣細な所にも大きな注意が肝要である。仕事は確實に検査は厳密に、飛行員に何等の不安も與へず戦闘任務遂行の助力者として整備員の存在を忘れてはならぬ。整備員の技術が劣つて居ては如何程の優秀な飛行員も幾千の航空機も何の役に立たぬ。整備員と飛行員は實に車の兩輪の如くである。

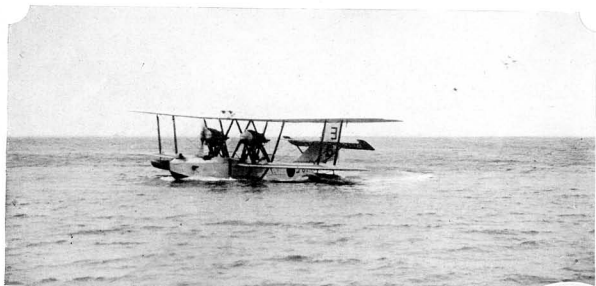
寫眞(上)は發動機整備員の分解調整。

(下)は組立てられた發動機を試運転の光景。



天晴れ空の勇士と成る

航空操縦の練習は特に真剣に教育される。その爲め機師から發動機が廻り、操縦術にまで一通りの基礎教育が終ると教官指導の同乗飛行が繰返され空飛ぶ鳥の仲間入りをする。そして各航空隊又は航空中隊や艦隊を有する各種艇に配属され亦監理訓練が行はれやがて飛ん有事に備ふその意氣に燃ゆる雄々しき姿は海軍航空兵である。



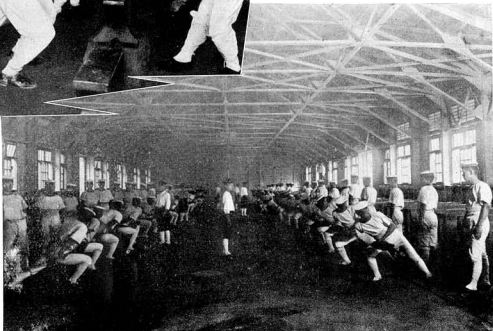
現在我海軍航空隊は左記八ヶ所に設けられて居る。

横須賀、霞ヶ浦、館山、大湊、呉、佐伯、佐世保、大村。

寫眞 上は飛行艇着水の訓練  
下は陸上機出發の光景

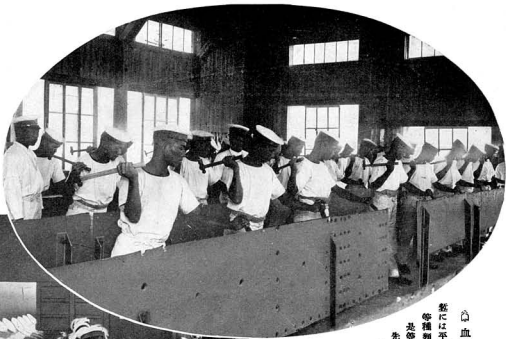


十能の砲撃英火教練  
 砲撃を英火教練。そんなものがあるのか？石炭を  
 焚べる位は砲撃を撃へながらでも出来るではない  
 かなどい云つては認識不足だ。十能一杯の石炭で  
 も焚き方の上手、下手では経済ばかりで無く高氣  
 の降り下りに大きな支障を来し、従つて機械の回  
 轉期間に大なる影響を及ぼすものである。故に機  
 關兵は新兵時代、否、海兵に成つてもこれを練習  
 する。寫眞の様に機軸の端にこの構え、一二三の  
 呼稱でキチンとした姿勢で連続二十分三十分  
 と砲撃が始められる。労疲を耐かす機械、機械  
 を動かす高氣、高氣を造る罐の英火はかくして練  
 習されるのである。



△ 熱と力の罐の響き統治工業  
 海軍に統治業がある？勿論英國兵必須の技  
 術だ。砲の少少位の修繕に一々工場の手を乞ふ  
 のは機軸の恥であり、ましていざ戦争と云  
 ふ時敵弾に見舞はれて一キドックに入り修理  
 するやうな態は事は勿論出来ぬ。砲撃運用  
 のその中で解く間に緊急の修繕するだけの技  
 術が必要である。  
 その爲め新兵時代から寫眞の様に重い砲を操  
 りかぶり、金鼠もヘコメとばかり打ち下ろす  
 誰に命は赤い内に打てと云ふ。成程赤い内だ  
 然る程な熱と力の罐の響き！金も身も心も  
 共に燃えられ立派な機軸兵と成るのである。





血の出る鑿工業も辛い試験

整には平鑿、鼻槽子鑿、管切鑿、鉸鑿、目打鑿、半圓鑿……等種類丈けでも十指に餘る。

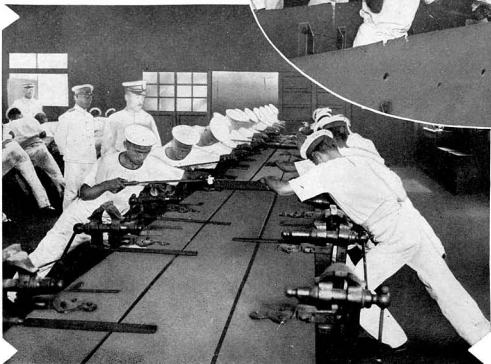
是等を実際に使用する教練と来た日には是亦大變だ。兎先ばかり見て手種を打ち下ろすと手を痛め、手の方へのみ氣を取られて居ると及先が鐵板から外れて小口で指を切る事位は最初は五度や六度ではないが痛い苦しい辛い試験も度重なつてやがて一人前の立派な軍人の技術となり、天晴れ御國に御奉公の出来る日が来るのである。



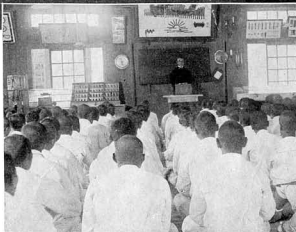
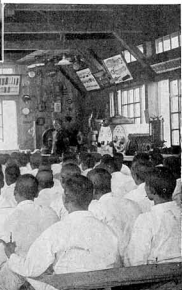
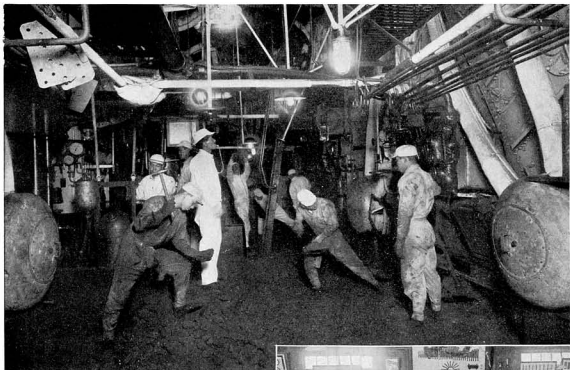
鐵を以て鐵を削る鑿削工業

鑿削工業で大鐵の型を造り、これを鐵にて削り、任意の寸法に仕上げるのがこの鑿削工業である。この鐵には平鐵、半圓鐵、圓鐵、角鐵、三角鐵等があり、これ等には大、小の區別があつて其土究目、中目、細目等に分けられて居る。これ等を適所に使ひこなしピツタリと鑿定の寸法に仕上げるには並大抵の事ではなく練て熱と意氣で削るのである。

寫眞は四十耗の大鐵を使ひ滿身の力を以て鑿削工業の猛教練の光景。



機関の原理を座學にて  
 軍艦を動かす機関には蒸気機関、内火機関、電力  
 機関との三種類がある。此等の船用機関を遠征なく  
 運轉する機関兵はその原理を正確に深く刻込まねば  
 ならぬ。その爲に機関補習班を授けられ、兩解又は  
 船形模型に依り原理を懇切に僅か五ヶ月の新兵教育  
 の間に一通り會得するのである。この座學が終ると  
 團内實習が始まり、蒸氣を噴し機を運轉させて電  
 燈を灯す、斯くして新兵教育無事終了左腕にスッパ  
 ナのマークを付け三等機関兵として艦船に配乗さ  
 れるのである。

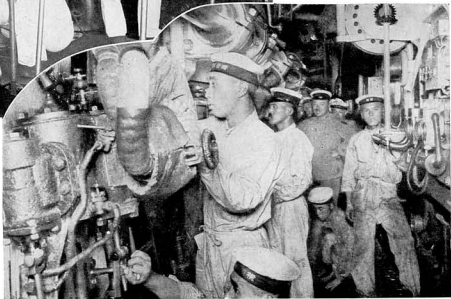


豪快なる艦の心臓！ 煙室

大海原の経済を駆つて走る軍艦の勇  
 姿あの運動力こそは十何萬馬力を有す  
 機械の力によつて動くのだ。その機  
 械を動かす偉大なる力は煙の蒸氣から  
 生れるのである。此の大山の如き煙は  
 十數個あつて高速運轉の場合ほ殆んど  
 一度に使用せられ山の如き石炭も同く  
 間に燃えさる。その豪快さは何に例へ  
 ん物もない。煙室員は華氏百度を超え  
 る熱氣と闘ひ活潑し普通勤務四時間で  
 交代する。ピッチ給炭！ 壓力が降る灰  
 落開度何段、水争がる、石炭出せ、焚  
 火員火鉢用炭、灰出せ、其の目まぐる  
 しい活躍こそ實に阿修羅の覚れるが如  
 く勇壯にも豪快なるシーンである。  
 汽機は艦艇の心臓だ、而かもそれは  
 百何度かの高熱を有する心臓である。

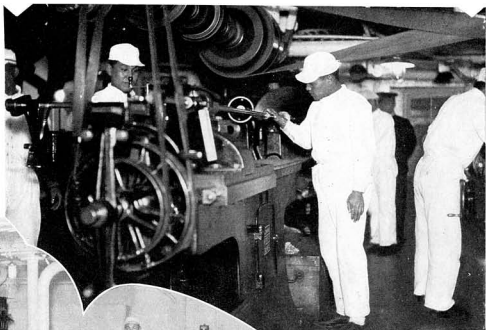
### 主機械を操縦する機械部員

概ね我が海軍の艦には二個の推進器が装備されたこの推進器を回轉さす機械を主機械と云ふ。主機械には主にピストン式とタービン式とが使用せられ大きな機械が右舷機、左舷機とに別れて居る。この外に種々の補助機や又これ等と關聯する大小無数の管等が附屬して恰も人間の臟腑をそのものだ、その複雑さ、微妙さ、假令一ヶ所なりとも故障を起せば艦の速力に大なる影響を及ぼすもので機械部員は一瞬一秒たりとも油断はならぬ、油が漏れては機械は焼ける。接続部は燒けぬかと手で觸り機械の回轉の音に變りはないかなどと全神経を耳と目と手先に、其の苦心努力は尋い處と叫ばざるを得ない。



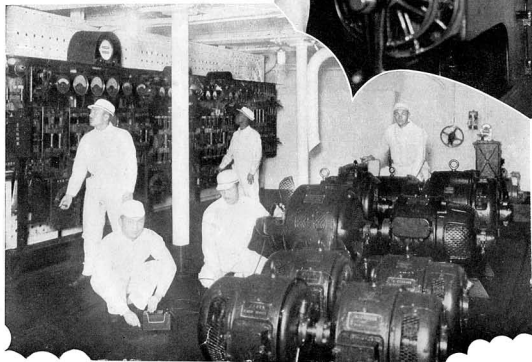
### 神秘の交錯—機械分解

機關兵は立派な技術者である。艦には推進機關の外に大砲を動かす水壓機、火藥を冷す冷却機、魚雷を射走させる空雷駆控ガンから掃雷機、發雷機等々無数の機械が人間の内臓の如く殆ど神秘的交錯をなしてその何れの一つが故障しても一艦の動きは完全を期し難い。此の複雑精密なる科學の粹を集めた機械を機關兵の手に依りて分解し内部の故障の有無を檢し恰も名醫が人體を檢するが如く或は又名匠が心ゆく迄製作を成るが如くに匠一個、矚子一ツ小さな埃りでも忽せにせず細心の注意を拂ふ。餘々分解調整が粗立終り試運転して艀沿に回轉する有様を見ても滿面に笑をなへぬ愉快感だ。兵ならではの味わわれぬ快感だ。



目に見えぬ電気と聞よ  
電機部員

艦に於て電気の應用は眞に廣汎である。例へば艦内電燈より無線電信、電話、探燈、送風器、掃煙機、排水ポンプ等と数擧に遑が無い。戦艦に於ては人口十萬餘の都市に供給し得るだけの電力を發電する。軍艦で何うして電氣を起す？と疑ふには及ばない。電力機は始め蒸氣機関か内火機関で發電機を回轉しそれから起した電氣を電動機に移して諸機械を運轉させるので大きな發電機や電動機が数臺備付けてある。この發電機や電動機、配電線等に流れる目に見えぬ電氣！メーターとスバークと漏電と闘ひつゝ活躍する機園科の電機部員こそ華かなる任務である。



天晴な腕前！ 金屬工業員  
敵艦炸裂！ 機械破壊！！ 大は主機械より小はエヤーポンプの補助機械に至るまで、その一つが破壊されても思ふ存分の戦力は出来ぬ。若し鉄一ツ、管一本が破壊されても、それは即座に修理せねばならぬので、艦内には立派な修理機工場とも云ふべき設備がある。  
そして此處の工作科工業員は何處の工場に突き出しても立派な熟練工として扱はれる技術者だ、これ等腕達者の者が腕をさすつて敵艦よいざ來れ如何なる修理もオライと持ち帰へて居る。



細工はリユ〜!  
木具工業員

艦内の木具作業！修理製作を一手に引受けるのが工作科の木具工業員だ。その外艦船が坐礁し或は敵砲や魚雷等に依る艦體水準下の損傷箇所を調べ急修理を施したり又は海底搜索等潜水具を付けて潜水作業も行ふ極めて主要な任務を帯びるものである。木具工業員の受持つ作業範囲の廣く且つ其の草結せる技能は一般の船大工等の到底及びも着かぬもので、何時でもオ〜ケイと持ちこなすに居る。寫眞は今しもノミと探ひカンナを廻らせて餘念のない艦内作業場の一場面である。



高等の技術を磨く練習生  
軍艦と云ふ狭い天地であるが爲め何事も自給自足をモツツとして技能を高める事に各兵科共に分業的作業であるが、海兵團新兵教育中各科共通の教程は授けられるが愈々艦船に配乗されると各自は受持配置が定められ新兵教育で受けた技術は只概念に過ぎないから艦船で實地に就き技術を磨くのであるが、科擧の終を架めた兵器、機関、要具の操縦取扱と更に更新頻繁なる今日艦船の實力發揮には尙十分なるが爲各科共希望に依り成績優秀者並行方匠の者に練習生として特別の教育を授け技術の實力發揮に努め機関科には機関術、電機術、工術等の學校其の他の施設で専門的教育を施すので普通科、高等科とに別れて居る。

妙なる管律も  
意氣と努力の叫び

練習場から流れて来る軍樂の餘韻は  
隔々として低く訴ふる如く或は勇壯  
百雷一時に轟く如く、時には勇壯輕  
快な軍歌の響も他兵科の後進の的と  
なつて居るが、軍樂兵の訓練や努力  
は一過りのものでは無く、殊に軍入  
精神が飽つてゐるまでに一般音樂學  
校の生徒達の練習とは全然比較に  
ならない。其の叫びや、苦心と研究の  
交響樂である。

各個奏法訓練を終へると愈々合奏調  
練が始められる。各個奏法の時は一  
人前に奏せられると自信タップリだ  
が合奏となると中々管律が揃はな  
い。指揮棒を見れば樂符は見えず一  
曲の奏樂も容易の樂ではない。斯く  
してこそ立派な音樂家となり服役を  
終つても一流音樂家として世に立つ  
事が出来るのである。世界に有名な  
「軍樂行進曲」の作曲者西戸口藤吉  
氏は我が海軍々樂隊が生んだ往年の  
樂長である。



軍樂兵の巢立ち

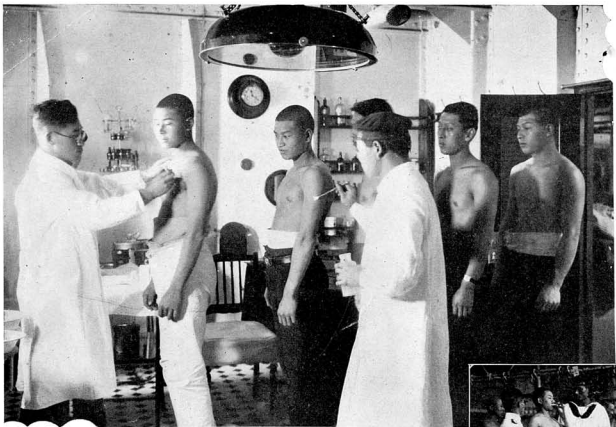
軍樂兵は立派な海軍々人である。十六歳以上二十一歳未満の全  
國志願者何千名の中から厳選せられた一粒桐りの優良兒である。  
毎年六十名位横須賀海兵團へ入團し、最初から軍樂器を扱ふの  
では無く新兵中は徒手、拳銃、銃、銃教練等或は砲術、修身  
座學等の教育訓練が行はれるのである。

徒手教練が出来て海軍々人としての體操態度が出来てから軍樂  
器が渡され五ヶ月の新兵教育が終つて更に軍樂補修生として一  
ヶ年の訓練を受けて後各鎮守府及第一、二、三艦隊や練習艦隊  
等に配属されるのである。始めは軍樂器の名稱、取扱法等を教  
はり、それから各個奏法訓練が行はれるのであるが一つの樂器  
が奏せられる迄には並大抵の練習ではなく、教へる教員も骨折  
だが教はれる者も眞剣だ。寫眞は各個奏法訓練である。



偉い看護科の任務

看護科は傷病者の看護、調劑、治療の助手とし殊に海戦に於ける看護科は非戦闘員と雖も砲煙彈雨の真只中に在つて傷者の診療者として重大なる任務を帯びる者である。  
 初めて海兵團へ入團した看護兵は三週間に基礎教育を受けた後海軍病院に於て實地五ヶ月餘りの新兵教育を受け更に病院に於て六ヶ月間の實習を受けた後各艦團部隊に配置されるのである。成績の良い者は普通科 高等科の看護術練習生の教程を経て下士官、准士官、特務士官と昇進の途が開かれて居る。

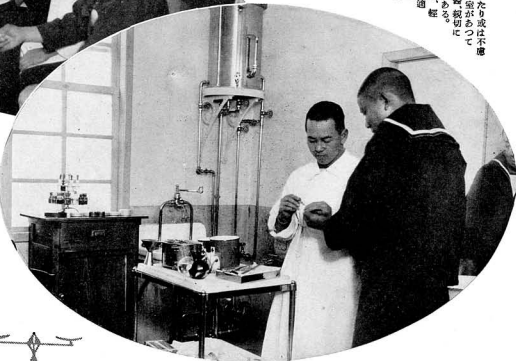


健康の指導者  
看護兵

傷病者のみを看護するのが看護科の任務ではない。毎月一回は各艦團部隊に於て月例検査と稱し總ての下士官兵は丸裸になつて身體各部健康状態の検査をする。又悪性の感冒、腸チフス、天然痘、赤痢等傳染病の豫防注射等が行はれる。若し一艦に一人の傳染病患者が出來たとすれば忽ち艦全員に傳染し飛躍に大なる影響を及ぼす爲め上の寫眞の如く豫防注射を行ふのである。斯の如き場合海軍の看護衛生に對する主要な役を帯ぶ者が看護兵である。寫眞下は入團の日の身體検査。



親切な診療は治療室で  
 隆々たる親身も時たま病度に襲はれたり或は不慮  
 の傷害に罹らぬとも限らないから治療室があつて  
 毎朝診察される丁寧に診て貰へる軍醫親切に  
 して呉れる看護兵の有難さは又特別である。  
 海軍では診療の結果入院、病室、休養、軽  
 業、水業止等々傷病の重症に依り種々適  
 切なる方法を講じて居る。時には重患  
 者が熱の爲め軍醫や看護兵に無理を言  
 つて困らせる事もあるが親身も及ば  
 ぬ親切な看病！これも看護兵なれ  
 ばこそである。昔から一に看病二  
 薬と云つて病人に對して常に温  
 雅、柔順、親切、丁寧に介抱に當  
 り唯一の慰安者たる事に心掛ける  
 看護兵の心遣りは全く偉いもので  
 ある。



治療室のメニュー

胃が痛くて下つ腹が割される様で頭が破れる様  
 だ？昨夜何を食べたか「ハイ上陸して少しばか  
 り食へました。先づ天丼一杯、汁粉四杯」それ丈  
 か「それから大福二十錢と、道で職友と會つた  
 のでお酒を少し、才前の少々は少しもあつたら  
 ん。一體どの位か「ハイ八で二升ばかり」それで  
 少しか中々大食派だなア……ヒマシ油と健胃劑を  
 吞んで休業だ「ハイ」ハイではない氣を付けろ。  
 費は未だ良く無いかい「ウン今日の上陸番だ久  
 し振りで土を踏む事が出来るが軽業では上陸も出  
 来ん、一つ軍醫に治りましたとチラカスかな、そ  
 して上陸と云ふ方法だエヘン……上陸の爲めの  
 全快かセヤ「八の上陸の道しつと見ると病氣  
 は益々悪くなるヨ、ハ、ハ」  
 オイ山田は益々動容を激したよ小林はミルク製  
 造だと言「今度は君の番だらう氣を付け」人の  
 事より自分様こそハ、ハ、ハ。

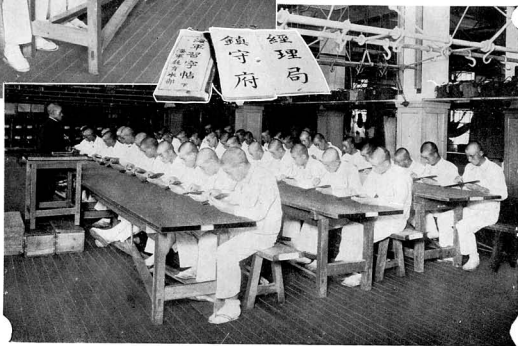
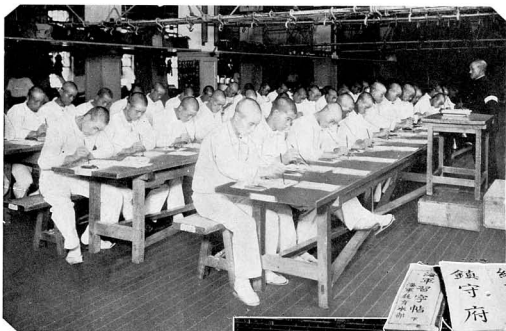


### 主計科の任務

主計科下士官兵の任務は非常に廣い範圍に涉つて居る。朝から晩迄算盤を弾いてゐる者もあれば公文書の送受簿書から書類の整理などをやるものもあるし被服、糧食や醫品などの取扱に目を廻して居る者もあるかと思へば兵食調理に當つてゐるものもある。

主計科には掌經理術と掌財術の練習生を教育する爲め東京に海軍經理學校が設けられ主計科下士官兵の教育と將來主計科の士官となる生徒が養成されて居る。

寫眞上は海兵團新兵教育中習字の時間、下は算盤の時間で一生懸命稽古の光景。

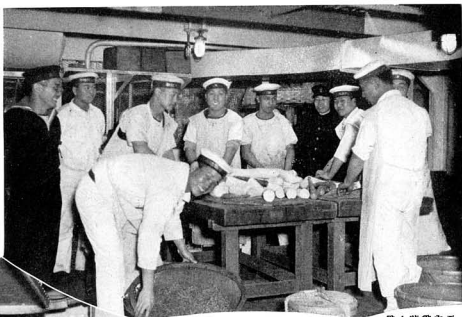


### 主計兵とは？

海軍の會計、經理を一手に引受ける外庶務室も掌るのが主計科である。

その内物品會計として被服とか糧食(調理室も)醫品などを取扱ふのが掌財術の特修兵と無章の主計科下士官兵が行ひ、そして庶務とか金錢會計とか取扱ふのは掌經理術練習生教程を修めた掌經理兵たる主計科下士官兵で海兵團新兵教育を終つた主計科から選抜されるが水兵や機關兵からも選抜される。掌經理術練習生の外に掌財術練習生といふのがあつて主として物品會計と庶務を専門的に修める事になつてゐる調理もやれば營養學等も修めるのである。



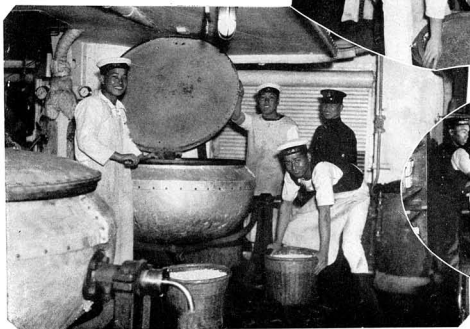


掌厨兵の心盡し

三度の飯も柔かし堅しと云つて中々口にあ  
わねが海軍の食事と来ては心配するに及ばな  
い。立派な新達者な主計兵が材料豊富、調味  
満足の食事を献立して呉れるからである。

殊に乗員が真夜中の夢路をハンモックに  
辿つて居る頃から起き甲斐／＼しく朝食の用  
意。写真に見える様なこの大きな釜に米は二  
俵、三俵、五俵と投り込まれ、たたく間に飯  
が出来る。祝祭日などの忙しさは又格別で乗  
員の官兵料理への心遣りは親が愛児に與へる  
食事の撰定同様主計兵ならばこそである。

写真は艦内専攻所の一場面で廻丁の捌も餅  
かな主計兵と大釜に飯を炊く光景で總て乗炊  
は蒸気である。

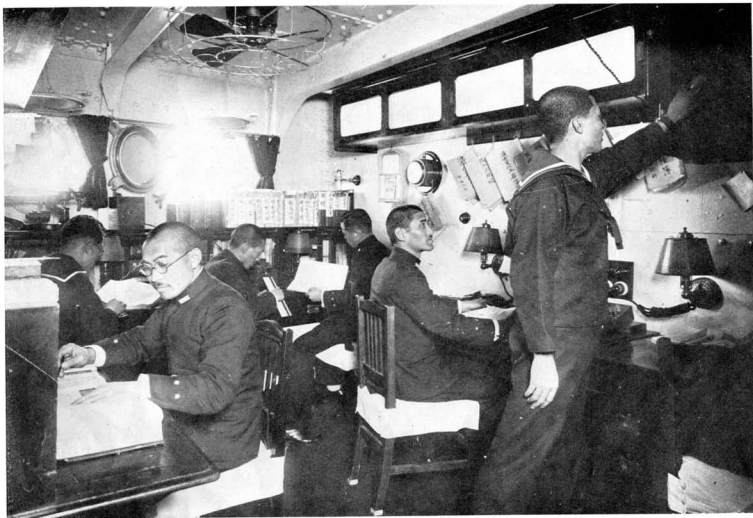


艦橋などでは四斗炊の  
一日分米六石  
五斗、牛豚  
肉五十二  
貫、野  
茶百八  
十二  
貫\*

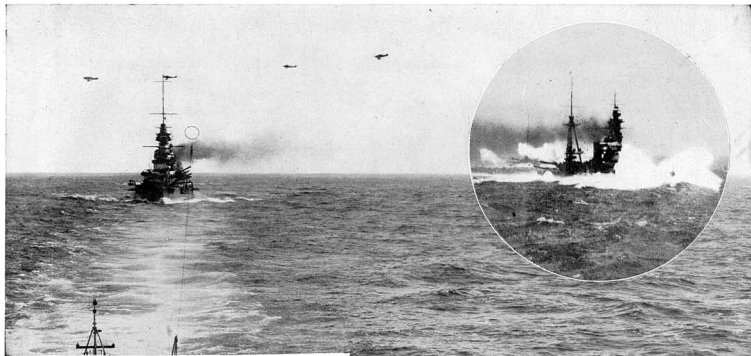
大釜が數個あり、總員

\*漬物三樽  
魚肉六十五  
貫と云ふ  
驚ろく  
數量が  
調理さ  
れる。

科 計 主 ! 役 房 女 の 内 観



役おのひ遣小御はてさ服らから事食の員乗、め務の結主、りあが長操るす當相に長家らかだれそ、だ庭家なき大のつーは艦軍  
 てへ整くなも由日本の何はに活生當日の員組乗でまどな事の服被、食糧、らか納出の金現の日のそ日のそ、るあが科計主承を  
 。るあで科計主がのるれ呉てし配心でまる至に品物の★數るす費服で保酒らかつーレマホるめ休をれ被  
 。るあで景光る居てつ家を計會務庶で室務事科計主の艦軍は眞寫

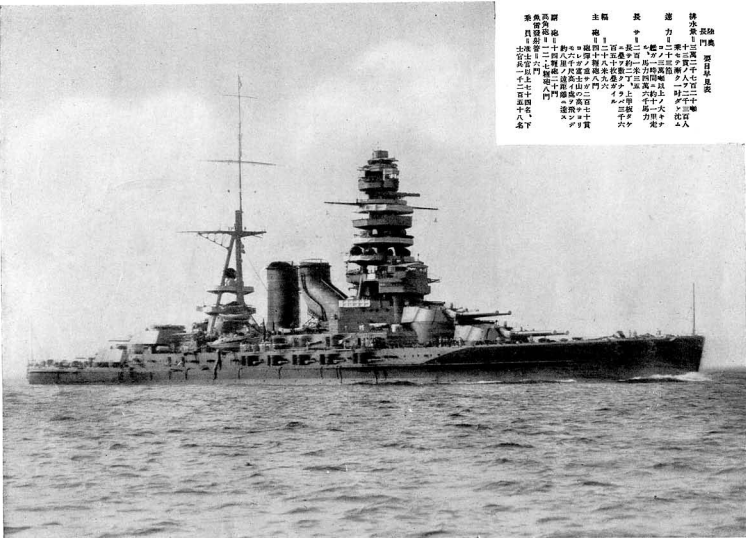


### 雄雄を決する主力の戦闘

敵の主力隊は水平線上僅かにその姿を現はしてゐる。兩軍の距離正に三萬五千米。遙かの空に兩軍の飛行機は互に砲艦を決せんと入亂れ一騎打の最中だ。狼狽せる敵艦よりは已に砲撃を開始してその砲弾は味方の前後左右に落下して大水柱をあげてゐる。精銳期に有利なる展開をなせる我が艦隊は一舉にして射撃効果を収めんとグン／＼距離を縮めて居る。照準は開始された見よ主力艦の巨砲！敵に指向せる大仰角！！嗚呼！たる軍大な光景ぞ、距離恰もよし、轟然我が旗艦より第一弾！待ちに待ちたる大蓋は切つて落された後機艦之に激つて猛射する。砲聲股々、硝煙濛々、大海原を壓して壯烈の極を盡して居る。



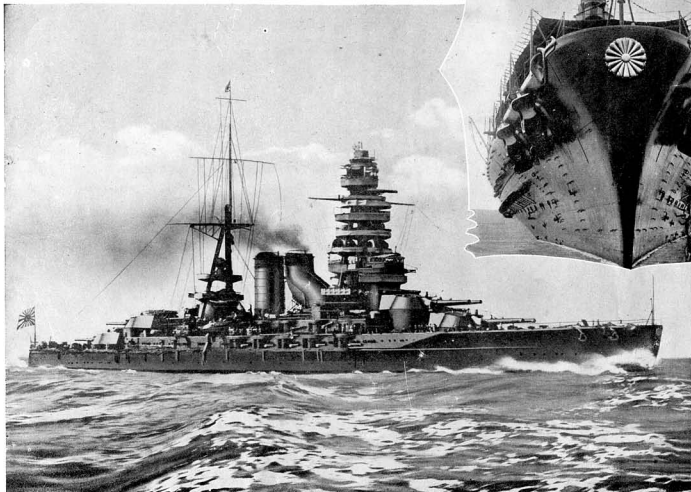
|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 排水量 | 十三萬二千七百二十噸                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 門長  | 三十三萬八千二百三十人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 速力  | 二二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百 |
| 主砲  | 四二八口径九六センチメートル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 副砲  | 一四七口径五七センチメートル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 高角砲 | 一四七口径五七センチメートル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 魚雷砲 | 一四七口径五七センチメートル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 乗員  | 士官兵一萬二千二百五十八名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |



太平洋の護衛艦隊

あるまで實至の本日は昇世、艦隊の雄無の練を技と榮。夜日が員乗の比無忠誠にれそ。艦隊最大最中艦戦のけ於に日本は「美陸」英に議會ントンシア。いなら劣もとる勝に「ソルネ」る誇が國英「ドンラーリメ」るす慢自の國米も「門長」のてしと艦隊の「美陸」平大り張すき影の旗艦軍のこ。たつかなが艦戦のす敵西に艦の此中昇世時當で艦戦大の題問たしが艦を昇世してとんれき棄渡つてつに米（工族廠工横年十正大）資勇の「美陸」るす説誇を洋平太と々堂は員寫。うらあでか勝渡く如の名の共は洋

門長艦戦の艦城金



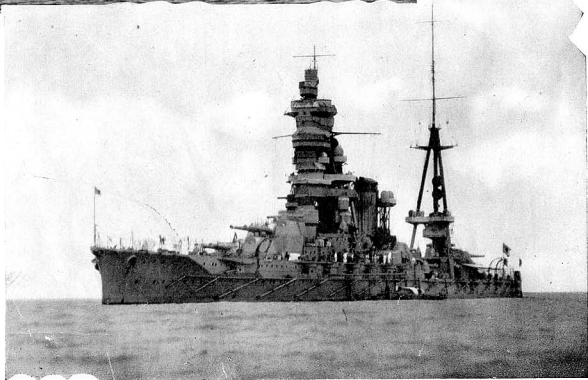
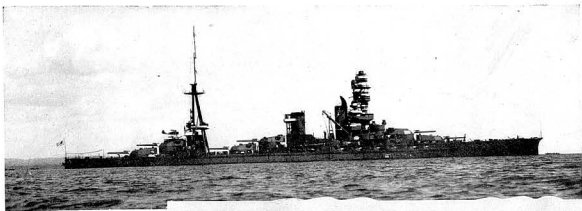
仰ぎ見よ艦首の標幟と輝く大菊花御紋章  
 何を語るか、云はす知れぬや、大御座下御艦  
 海を奔る士は、神谷舟屋忠臣蔵を演はざる者を見  
 驚く勝旗を翻へして全速航行中の勇姿。

艦旗、でさ漬物ふ云と(寸六)吋六甲裝の板甲(寸一尺一)吋二十甲裝の旗艦に共く「同裝兵其てしと艦妹姉の「奥陸」は「門長」艦戦  
 と艦戦るな何如は彈徑す出き吐りよ門八砲主の置十四き開を口砲度一。るあでのものそ城浮で除艦敵無るす艦を海々堂に共と「奥陸」  
 (工號廠工英年九正大)ふ、ましましれもけつつやく無もりまた一も編



主要項目

伊勢 日向  
排水量 二萬九千九百九十噸  
速力 二十三節  
長さ 百九十五米〇七  
幅 二十八米六五  
主砲 三十六糎砲十二門  
副砲 十四糎砲二十門  
魚雷砲 一二糎七型砲八門  
魚雷發射管 四門



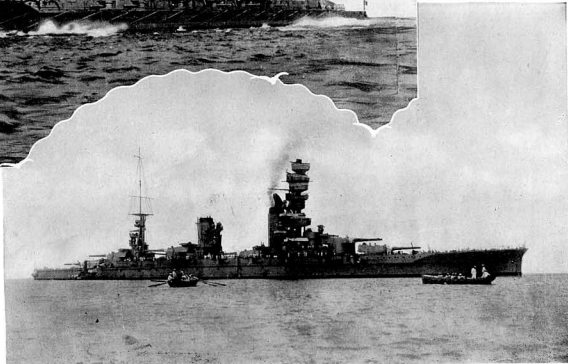
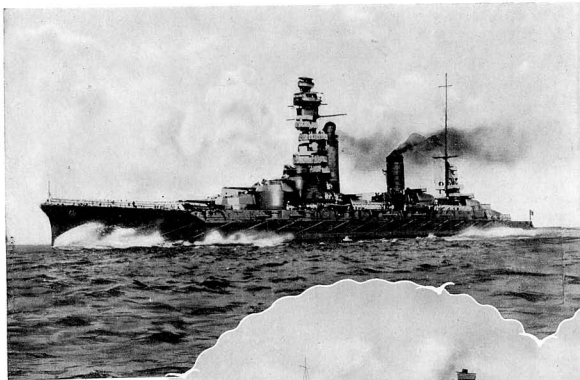
由緒ある其の名も伊勢・日向

天願を經る伊勢、天孫降臨の地日向、共に我歴史に由緒ある兩名である。その光輝ある名を擔ふ戦艦「伊勢」「日向」は我が第一線に立つ海の護りである。看よこの雄偉の雄大さ！現在アメリカの艦隊も今日では日本の型に倣つて改造する氣運があるとか。さわれ眞似の出来ないものは世界に冠絶する我が海軍精鋭である「伊勢」は川崎造船所「日向」は三菱造船所に於て建造せらる。

寫眞(上)「伊勢」大正六年完成。(下)「日向」七年完成。

城山・桑扶 艦間戦るふ與を決の後最

主要項目  
 排水量 二萬九千三百三十三噸  
 速力 二十二節  
 長 九十二米  
 幅 十八米  
 主砲 三六六六五〇二  
 副砲 三六六六五二門  
 高角砲 二七五門  
 魚雷發射管 二門



艦間は攻、防、運、通信の四項要素より成る。艦は此等の要素を具備し、海上兵力の骨幹をなし、艦に於ては戦後の決を與ふるも主力艦たるを要し、其中心地は艦に在らざるべし。能く戦艦は三六六六五二門と云ふ重砲しき攻撃力を有す。  
 尚ほ艦は戦場の大體を占め、艦は戦場を維持し、戦艦に對しては防禦力に依りて大でなければならぬ。何れも戦艦十二時もある金銀は、戦艦に對しては戦艦の防禦力に依りて大でなければならぬ。戦艦は戦艦の防禦力に依りて大でなければならぬ。戦艦は戦艦の防禦力に依りて大でなければならぬ。  
 上は「扶桑」(大正四年竣工、竣工工)  
 下は「山城」(大正六年竣工、竣工工)

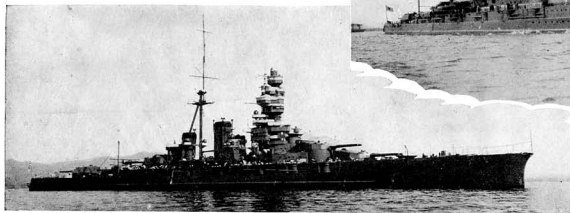


主要項目  
 艦名 霧島 金剛  
 排水量 二萬九千三百三十噸  
 速力 二十六節  
 射程 二百九十九米二一  
 主砲 二十八糎九六門  
 副砲 十六糎八門  
 高角砲 十二糎八門  
 魚雷發射管 四門



寫眞  
 (上) 金剛 大正二年英國會社竣工  
 (中) 霧島 大正四年川崎造船竣工  
 (下) 霧島 大正四年廣工船竣工  
 現在戰艦十隻ノ内金剛以外ノ全部  
 我國ニテ建造セラレタリ。

三拍子揃った戦艦  
 金剛・霧島  
 我が海軍には戰艦十隻(條約ニ基キ練習艦トシテ)比較一ツ加ヘ其防禦力中速力廿六節と云ふ戰艦として素晴らしい性能を有する「雄名」「金剛」「霧島」は世界に誇る大海軍國イギリス・アメリカも有せず、尚且我が海軍が誇りとする快速戰艦である。一たび戰艦に臨み此の快速を利用して有利な位置を占めんか戦はずして已に敵を戰艦せしむるに充分である。現在我が國戰艦の總數は二十九萬八千四百噸である。

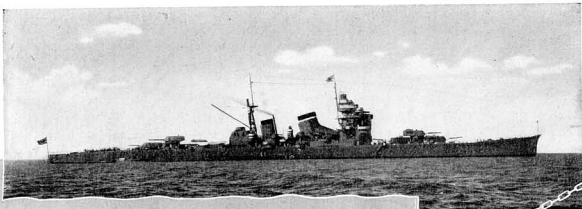




### 艦洋巡ふ間と瀾怒く巻逆

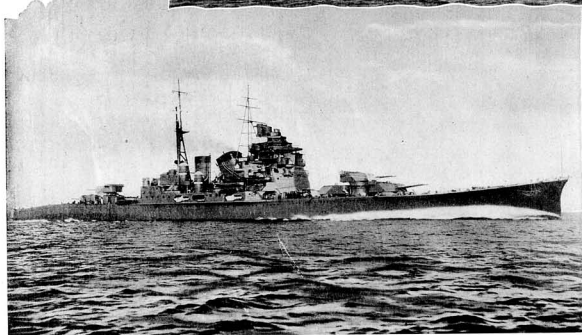


に波は物動移の上艦等船通、ト一ボサせもと物を雨風は員乗。たし下を命令の「備準天堂」は長艦やるす按に報通象氣の「る宗聖氣從」  
つ持てし羅勇とれ來浪激の丈高てつ張を綱にうやる來出の行歩つつ個はに板甲、し塞閉は口降身、け掛を覆はに器武、し轉固株ぬれは波  
中は殊飛のそ、せ寄打に傾艦トドてえ越乗を塔砲は浪大たつ掛シノに板甲前。るれき弄敵に右左地天は艦、雨風暴大る米ひ舞てがや  
もに今は艦でのものそ流奔は上板甲とへ舷右りと舷左、へ舷左りと舷右てつ吹に艦横をり極大。す星を數倍大てれ波にく如の艦へ板甲後  
。(試に補四業作ん壯々益氣意の員全がるあてき憤憤る知のみの青海航理太は横るす航難ひ間と瀾怒亂狂るは思とかるす波を雲に底海



主要項目

排水量 九千八百五十噸  
 馬力 三十三萬  
 長さ 二百七十八米  
 幅 三十九米  
 高角砲 十二門  
 高角砲 十二門  
 魚雷發射管 八門  
 魚雷發射管 八門  
 魚雷發射管 八門  
 魚雷發射管 八門



主要項目 妙高

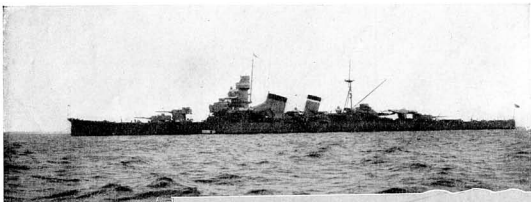
排水量 一萬噸  
 馬力 三十三萬  
 長さ 二百九十二米  
 幅 三十九米  
 高角砲 十二門  
 高角砲 十二門  
 魚雷發射管 十二門  
 魚雷發射管 十二門  
 魚雷發射管 十二門  
 魚雷發射管 十二門

世界の舟楫我が一萬噸級

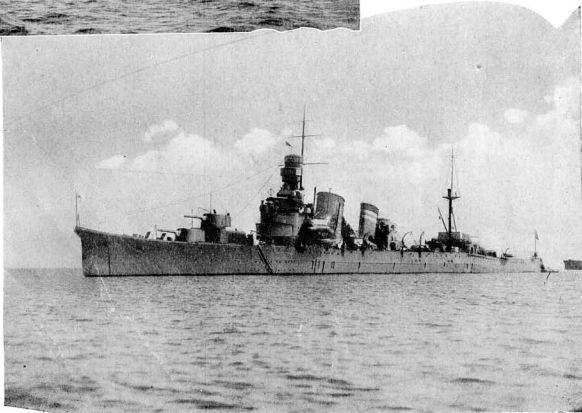
洋艦の妙高、愛宕

量より質へと我が艦隊の全質全部を盡して  
 建造された「無敵艦」の異名を有する我がとな  
 等洋艦の出陣は昔非を重例し譽威の的とな  
 さんか、戦艦よりは其の雄姿を海上に現は  
 の快運を利用し、戦艦我がもの顔に雄横に駆け  
 望の的が「妙高」「愛宕」の存在は世界決  
 年横工船竣工

cc-cabbe



主要項目  
青葉  
排水量 七千百噸  
速力 三十三節  
長 サ 百七十六米七八  
幅 十五米四七  
砲 二十釐砲六門  
高角砲 十二釐砲四門  
魚雷發射管 十二門  
但シ夜笠モ同型

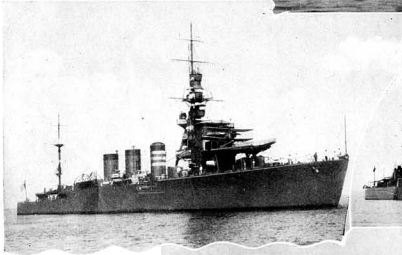
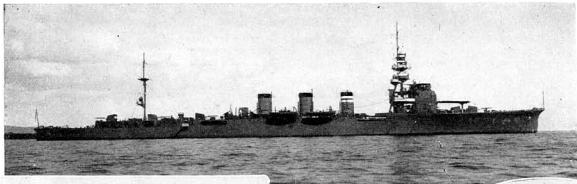


主要項目  
古鷹

排水量 七千百噸  
速力 三十三節  
長 サ 百七十六米七八  
幅 十五米四七  
砲 二十釐砲六門  
高角砲 十二釐砲四門  
魚雷發射管 十二門  
但シ夜笠モ同型

無敵巡洋艦「青葉・古鷹」  
速力の早い無敵艦でも大作の既出に出て海の如き恐ろしい無敵艦でなければ速力が鈍る、だから巡洋艦に造られたらお終ひだ。  
航路母艦でさへ何より速力の無敵艦からの砲撃、飛行甲板の破壊だ、それならば無敵艦には敵なまゝいとは誰でも考へさせられるが何うして「快速を以て射撃國外に出でてゴムの様に弾付きり廻り、夜に入るのを待つて十二門の發射管より魚雷攻撃、如何な無敵艦でも心算を誤らしめ無敵艦である。」  
「青葉」昭和二年三菱造船所竣工。  
「古鷹」大正十五年三菱造船所竣工。

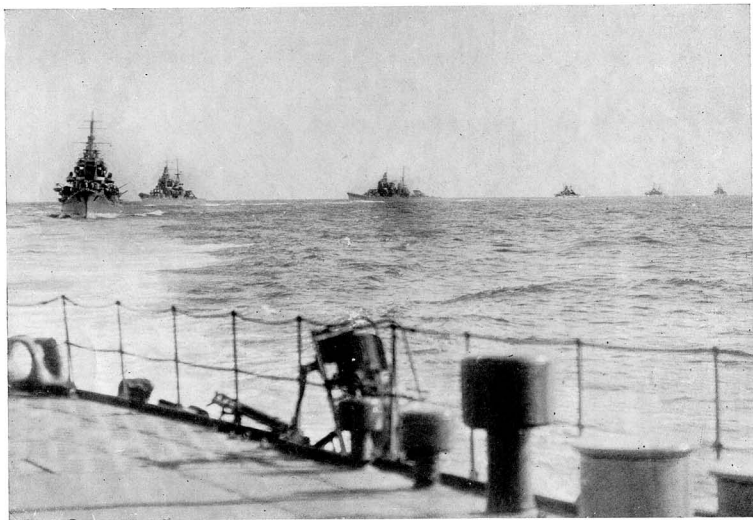
海戦の手段と成る巡洋艦、阿武隈、球磨由良、夕雲  
 巡洋艦は艦に比較すると小形軽快の艦で、攻防の  
 双方に富み、速力も航路も燃料も船中も航  
 力も優れて居るから海戦に於ては、主力  
 の耳目となつて敵艦隊の搜索、偵察、警戒  
 に従事し、敵巡洋艦、驅逐艦等を撃滅し  
 或は主力を攻撃し、又は通商貿易の破  
 壊、運送船の護衛に當ると種々重  
 要な任務に當るのである。  
 寫眞は二等巡洋艦で上「阿武隈」  
 中左球磨 中右「由良」下「夕雲」



主要項目  
 阿武隈 由良  
 排水量 五千二百七十噸  
 全長 一百五十二米  
 幅 十八米  
 吃水 五米  
 主機 二門  
 副機 二門  
 最高速 二十ノット  
 燃料 五千噸  
 魚雷 八枚  
 射撃 一門  
 及 高角 一門  
 球磨 排水量 五千噸  
 全長 一百五十二米  
 幅 十八米  
 吃水 五米  
 主機 二門  
 副機 二門  
 最高速 二十ノット  
 燃料 五千噸  
 魚雷 八枚  
 射撃 一門  
 及 高角 一門  
 夕雲 排水量 五千噸  
 全長 一百五十二米  
 幅 十八米  
 吃水 五米  
 主機 二門  
 副機 二門  
 最高速 二十ノット  
 燃料 五千噸  
 魚雷 八枚  
 射撃 一門  
 及 高角 一門



航進の隊艦洋巡載るな觀壯

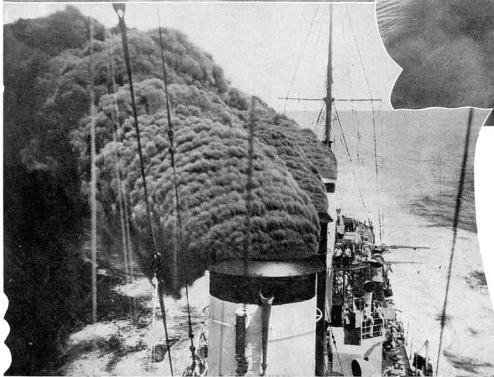
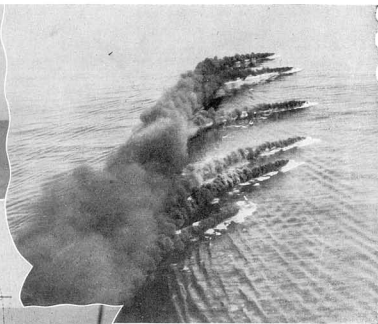
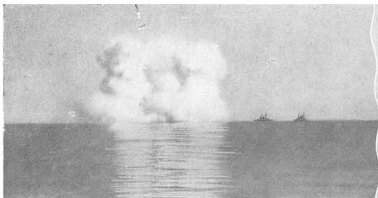


術用運。で軍情の魂和大。化權の神精本日は土將む組乘又りあでの松恐界世て於に等力速。備兵。て於に形艦其は艦洋巡氣噸萬一が我  
銃噸萬一銳新の等我ぞれこ。！觀偉るす遊蕩々堂伍隊。よて立艦を波白に洋大るた茫渺。るあで峯高最の軍海界世れ是て必ずに南隔。に  
。面場なかや罪も載る移に換變向方りよ降從軍や今は眞宵。るあで安雄の艦洋巡





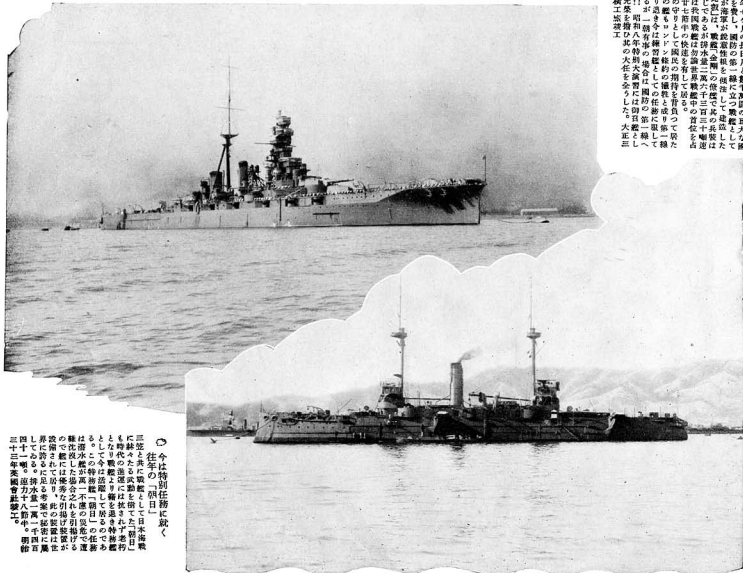




### 天目を蔽ふ煤煙幕

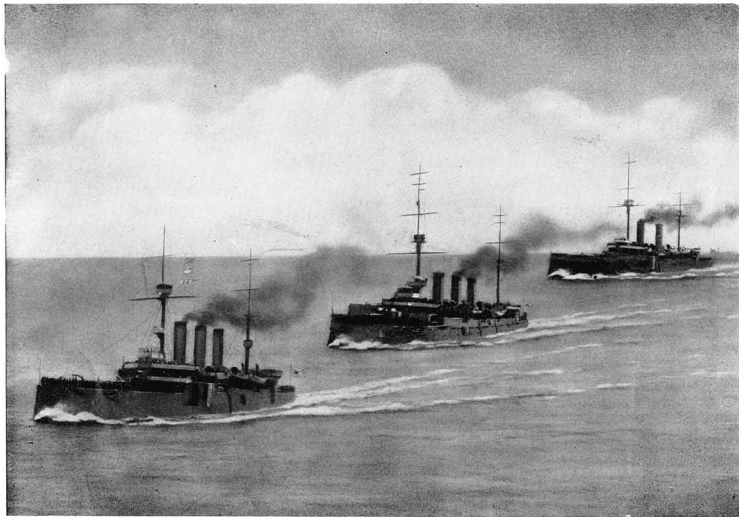
煙幕は飛行機からのみ展張せしめるものでは無く、遠く大砲より發煙彈(發煙劑を溶融した彈丸)を發射して敵艦附近に落下せしめて完全に敵艦の視界を覆ふ場合もある。寫眞左上は發煙彈により發煙した利那の光景である。又煙突から吐き出される煙でも有効に使へば恐るべき効果を齎らすものである。水雷戦隊が白蟻隊主力を攻撃する時突如一隊の驅逐艦は分派せられて敵艦の風上より黒煙滾々たる煤煙幕を展張して敵の視界を覆ふ。これは機雷部の艙室で重油を不完全に燃焼させて煙突より黒煙を出すのであるが化學藥品を使用する場合もある。見よこの滾々たる黒煙！天日爲めに替く、悽愴の氣は漲り自ら鬼氣迫るの感を抱かしむ。  
客艦は風浪に依る煤煙幕を吐きつゝ、高速航進中の驅逐艦。

**軍艦の横経練習艦、比叡**  
 三年七月の長月と数千圓の五六名を  
 帯を費し、國防の第一線に立つ艦艇として  
 「我が海軍が鋭意注視を傾注して建設した  
 比叡」は、戦艦、金剛の後で、其の兵装は  
 同じであるが排水量二萬六千三百三十噸唐  
 力は我國戦艦は勿論世界戦艦中の首位を占  
 め半七兩半の快速を有して居る。  
 海軍の守りとして國民の期待を背負つて原た  
 此の艦もロンドン條約の權を成り置して  
 ありが、然るも今は練習艦としての任務に單して  
 いるが、昭和五年には國防の第一線へ  
 戻り、八十八噸特別大砲を備へた比叡として  
 大正三年竣工艦竣工



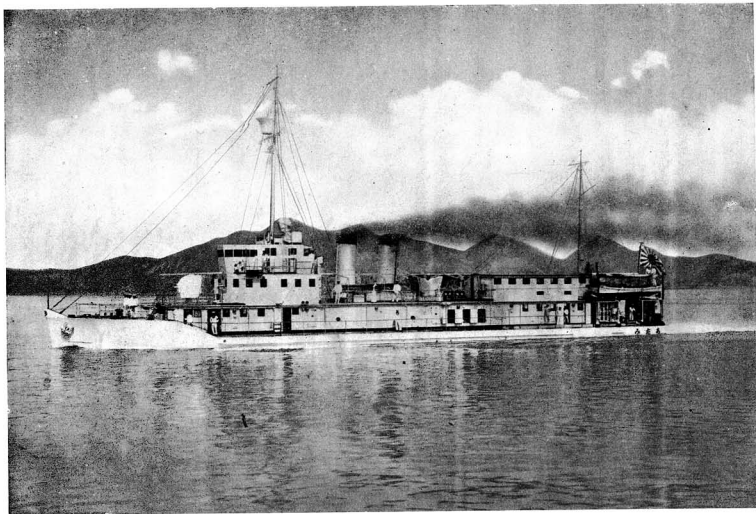
●今は特別任務に就く  
 往年の「朝日」

三笠と共に戦艦として日本海軍  
 に歸する武勳を擲つた「朝日」  
 も時代の進運に抗され、特別艦  
 としな戦艦として居るのであ  
 る。この特殊艦「朝日」の任務  
 は排水量が萬一不慮の災厄で遭  
 難沈没した場合は、一日の任務  
 ので艦には優秀な引揚げ装置が  
 設備されて居り、此の装置は世  
 界に誇るに足る考案で、秘密に属  
 してゐる。排水量一萬一千四百  
 四十一噸。馬力十八節中。昭和  
 三十三年英國會社竣工。



大く造り守を練岸海が我てりあるに方後、がるあでのい無ど始はとこふ云とふ戦に線一第。るあで艦軍るす撃防を岸海てしと主は艦防海  
 造建を艦軍の種此共國各。でのもす役就に務任な要重るむしらかな愛の願後てしを隊艦の線一第るす戦交と艦隊で出に迎千何上洋平  
 日もれ何は隻八の「鳥野」「進日」「日泰」「斐奇」「雲出」「雲八」「手懸」「間淺」の軍海が我。る居て充を艦岸巡。艦戦の式舊にずせ  
 海航きしか廻てしと除艦習練せ業を等游大。管提の來未で隻二る代る交は「雲出」「雲八」「手懸」「間淺」内。るあで者武古の戦海露  
 噸十八百千九=量水排  
 噸十千九=量水排  
 噸十四百二千九=量水排  
 五七節十二=力速「雲出」下  
 節十二=力速「雲八」中  
 五二節十二=力速「間淺」右真寫  
 社會國英年三十三治明=工 號  
 社會國英年三十三治明=工 號  
 社會國英年二十三治明=工 號

河を渡る熱海船



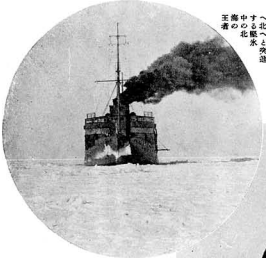
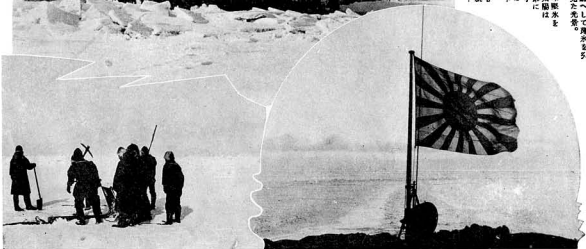
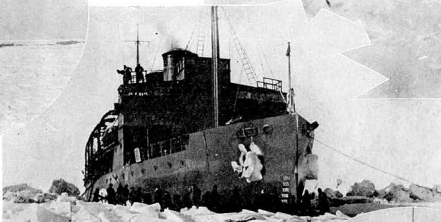
揚や那支南は艦砲の隻三十下以「宅安」が我。いな居でん沈かし此位尺八らか尺二か僅は底艦らかだ。だの目のふ戦で河や岸海は艦砲  
 いさ小。に市の浦上るあも上以漚千何漚百何らか岸海。く深奥の那支く遠。る居ていつに務任るす護保を益膠の人本日てれさ遺談に江子  
 。るあで「海熱」艦砲がのな名有てしと艦なトーマス番一で中船艦軍海國帝。だのる居てしへ願を放艦軍し現を安勇の共もら午  
 。工竣部船造井三年四和昭。る居てへ備を門六就機。門一砲角高射八短。砲六十力速。噸十七百量水排





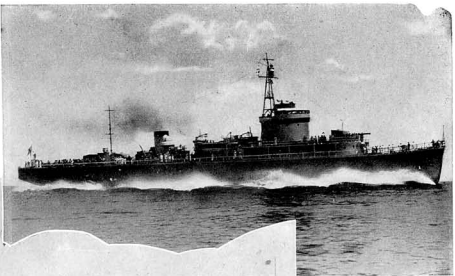
(乙) 氷水のケルル等物  
 凍結し凍ぶる一連一息大  
 難と想はれ、一連一息大  
 (甲) 氷々假泊地出港と  
 なり氷水に閉ざされて  
 居る艦の出港準備に忙  
 殺されて居る乗組員  
 (丙) 自給たる大氷原  
 を全活力を以て氷  
 へ北へと強進  
 する艦水  
 中の北  
 海  
 王者

(丁) 南風に軍艦旗を翻して海水を引  
 いて艦は北進艦尾より見た先鋒  
 (下巻) 防波線に身を包み艦水を  
 射り水鏡を打込むころ太陽は  
 西山に傾き夜は次第に  
 下りて来る。乗組員は今  
 日の航程を顧みて明日の  
 作業の機想を頭に纏き  
 作業を始めるのである  
 艦にも北風の爲め息も  
 僅はぬ北風の作作業に  
 く嗚呼嗚呼命よ大泊



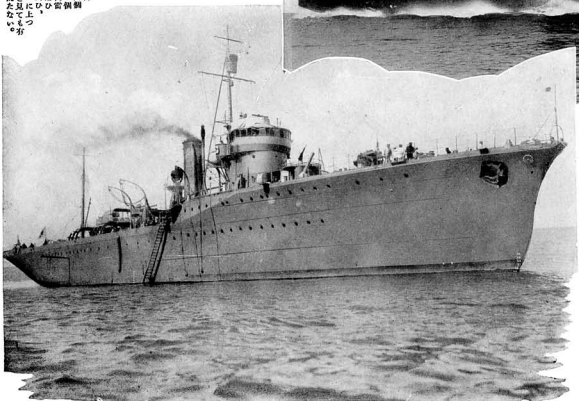
北海の渡り  
 砕氷艦「大泊」

自給たる大氷原と我が北海の守り砕氷艦「大泊」は地味航  
 水原に入るも極太方面に於て氷氷を砕きこの航路の保全と北海航  
 路者の保護の主要な任務に就いて居る。この艦は北海を航行す  
 るに適する様に建造され艦首と艦尾は特の形状をしてある。砕氷  
 艦の外層は特に砕氷に耐へるやうに丈夫に出来て居りビルヂを  
 有せず。軽及推進器は頭丈で水中深く装置されてこれに排水又は  
 リンダタンクと稱する大水槽が設置されこれに排水又は  
 排水にも耐へる我が海軍唯一の艦である。

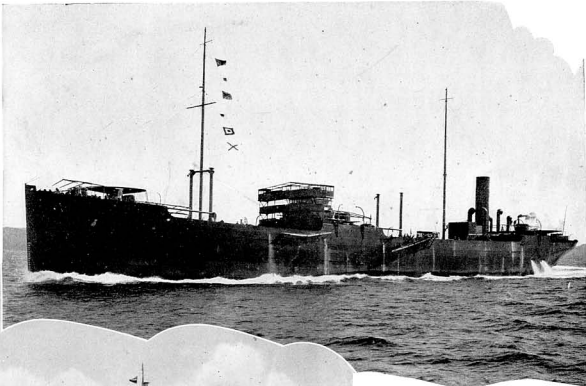


機雷は何を物語るか

機雷に觸れば三萬噸の軍艦でもドカ  
ンと一發で沈没せしめ、或は大戦合  
戦を負はせるのである。或は大戦合  
今歴史を讀むれば日露戰役にて我が海軍式  
主力艦「磐龍」及「磐龍」は英獨三  
の機雷を以て、旅順大砲臺は十二萬四千九百九十個  
製造した。英米佛伊の大戦中使用した機雷  
は英米の機雷は六萬八千六百一十一個と云ひ、  
歐戰費用として約十二億圓の巨額に上つ  
た。海軍の長い我が國では此の歴史を見ても存  
在の機雷は機雷と歐戰艦の必要は首を擱たない。

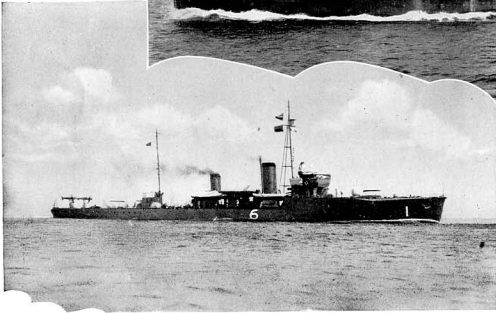


怖るべき機雷を誇る敵艦「嚴島・白鷺」  
現代中武器として主なるものは魚雷水雷、機雷水雷、掃雷と  
されて居る。この機雷水雷を敵艦の通行しきつた海中に沈没  
し艦船が之れに觸るや轟然ドカンと爆發して船内を吹き飛ばし沈没  
致せしめるのである。この危険な機雷を澤山積んで特殊な敵艦  
襲撃を施し敵艦を主任務とする艦を敵艦と云ふ。  
この外機雷は巡洋艦や驅逐艦等も敷設する事が出来る。我が海  
軍には「勝力」「常磐」「磐島」「八重山」の五隻があ  
る。中には千三百四十五噸の「白鷺」は潜水防禦網を持つて居  
る。敵艦としては世界に誇る新式のものである。「嚴島」は千  
九百噸の小形軍艦である。敷設艦として最新式のものもで  
ある。「嚴島」昭和四年買収船渠會社竣工。「白鷺」昭和五年  
石川島造船所竣工。



海を掃除する掃海艇

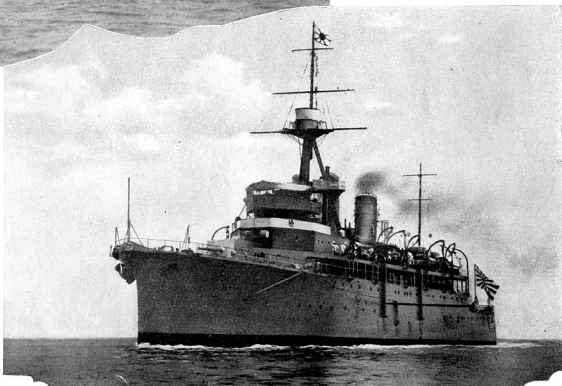
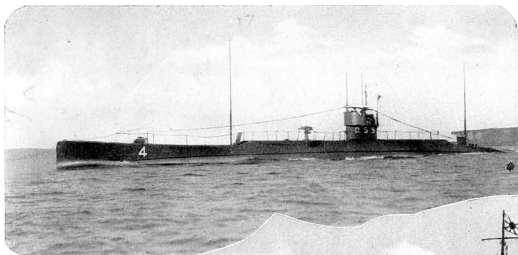
掃るべき機雷は海面より凡そ五、六米の深さに沈設  
 されてあり機雷沈設海中より認めらるる事は困難なる  
 が茲にの任務を帯びた艦を掃海艇と云ふのである  
 此の掃海方法は海中を網を以て操縦し、引つ掛けた  
 機雷は錨頭を切つて海面に浮ばして遠く引き出し  
 火薬で爆殺せしめ又は機雷で沈没せしめて船の航路を  
 開くのである。掃水機六百十五噸馬力二十節  
 昭和四年大坂造船所竣工。



④ 運送の任に當る特務艇十隻多  
 海軍艦を運ぶ数千噸の大舟上に出で、軍  
 やかな近代科學の機雷を運ぶ海軍を行ふ  
 艇も、人員、糧食、兵器彈藥、燃料等  
 は一定の量より搭載する事は出来ない  
 従つて戰陣中糧食、彈藥等が盡きたら  
 と云つて悉く港に復返しに歸る事は到底  
 許されない。  
 この艇の活動に對し後顧の憂無からし  
 むる爲め我方より常に之等の軍需品や人  
 員の補給補充等を行つた任務に就役し  
 て居るのが特務艇である。特務艇には海  
 軍艦運送目的としたもの、爲め機雷も  
 小數である。「佐多」は軍需品「船運百」  
 は燃料「開宮」は糧食の運送に當つてを  
 り特務艇は目下二十四隻ある。  
 佐多は「佐多」排水量一萬四千五十噸、  
 馬力十二節、大正十年横濱船渠會社竣工。

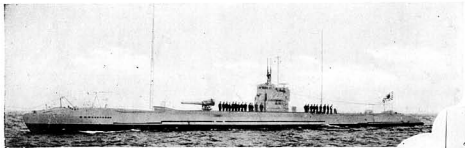


子敵を守る観望潜水艦「掃積」  
 原の親が子敵を守りながら海上を走る  
 原則を適用したのが潜水艦だ。即ち  
 潜水艦を運用しつゝ、糧食や燃料  
 兵器等を補充し、或は乗員の作業所とし  
 ての武備を備へてある。軍艦であつて其  
 の武備は極めて多量である。其構造  
 上搭載し得る品物の量は多く、其構造  
 又委員の居住設備も不十分であるから  
 遠距離を航海するには是非母艦が必  
 要である。航空母艦の様に多くの飛行  
 機を艦内に蔵つて置いて必要に際して  
 出しては飛ばすとは違ひ、潜水母艦は  
 潜水艦を艦内に包蔵する譯ではなく、尚  
 潜水母艦「長蛇」で我が海軍には此の  
 外「迅龍」の用意がある。排水量五  
 千六百噸、速力十六節。



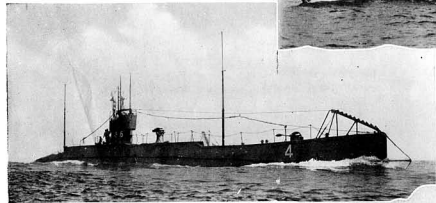
△ 海中我が物類に馳ける潜水艦呂號

「一發必中」をモットーとする魚雷攻撃を業に接近して隱密にと  
 奇襲されたのが此の潜水艦で、水中を航して敵に露見されざる  
 る事が少なく小艇ながら突進し、艦を衝き破りて敵艦を攻撃  
 のみでなく、潜水艦の出現に敵の海軍の方法に時からぬ改良の  
 化が行はれたのである。特に我が海軍の潜水艦は世界の急務的  
 となり、ロンドン條約の締結後にて大軍船行進曲が棄せられ、五大國  
 の名優が平和條約の大空幕を打ち補助艦減少、それ潜水艦全廢  
 だなどといふが、然し見ても見ても日本が要するものは尤も  
 フラットに包んで飲んでも、海軍の長は我が國に取つては是非  
 必要である。寫眞は呂號第五十五號、排水量八百九十三噸、水上速  
 力十七節、大正十一年三月三十一日所發。



孤待大三の艦水潜ぬばも艦戦

動行艦艇に外る居てつ候に船艦上水て於に力積航は艦水潜  
 押を機特るな火のつ三ひな得て企の等機行候。船艦の由上  
 と戦てしと然致もてし對に敵強るな何知は一節。さるゝみつ  
 法等何もては時何にもに敵方るな何知は二節。事る得み機  
 艦水潜三節。事る得し直張てに獨軍く九隊部隊支の等船艦  
 るは機を可慮の理出の其と心機五の機航るへ異に敵が現出  
 五Uの逸機に機大計察。さるゝ等とさるゝ等とさるゝ等と  
 計察り入に途トローゴムてつ候と開包な重敵は「敵三三  
 艦を昇敵全し出出てしつ受と給消の等何同の次同時二か重  
 機航夫。日十四事る留に上浮は艦艇に實でのためしや候  
 るゝあて艦小の噸百八に僅も候。さるゝ前でん及に僅百五十七  
 の艦艇大るゝ噸千二の日今たし直張の機料。あはの火時  
 るゝあてきべる候てし推は力積



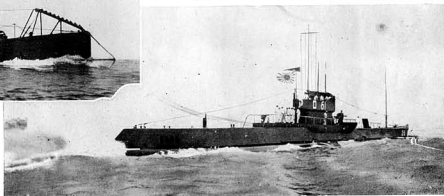
艦水潜の等戦！實至の戦洋海

何はそ。さるゝ居てれさと大敵は力積航其中船艦各は艦水潜  
 タンクに内の機機め爲む急り候。第中亦は艦水潜。か故  
 程でつ上に出排のそみ出でに入注の水海て居てつ時とタン  
 の料燃。水浸。重積。荷負。艦艇外の此。さるゝあてのよ  
 以タンクの料燃。水浸中タンクの等之。さるゝ居てつ時とタン  
 らか初敵重計敵建があるあて爲るれ入を水海するす航洋は外  
 即車む積く多を料燃。さるゝあてしに候る得み機も料燃に修一  
 て機機機内は機機艦水潜。さるゝあて以所する大増力積航  
 艦が量費消料燃てべしに船艦つ時を機機艦艇一め爲るゝ  
 倍二約もてし用使を料燃の量一則は力積航つてつ候くならに  
 一十六第。六十五第艦艇は下。直張。さるゝあてのるなを以  
 るゝあて西十三の艦水潜等號呂外此

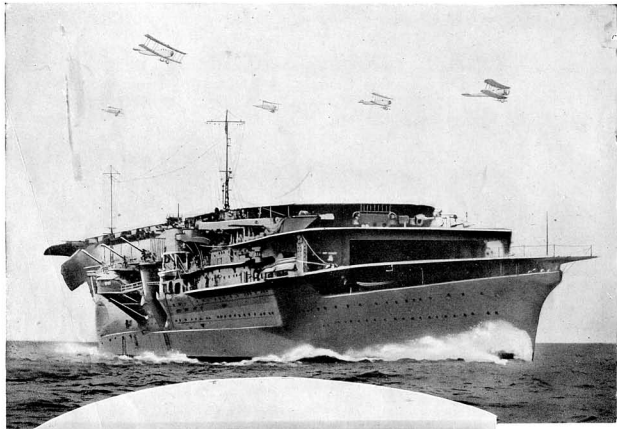
一十五第・二十二第艦伊艦水潜の切乗を洋大  
 潜等一は上以噸千てしそ。さるゝ種二の型小。型大は艦水潜  
 が我。さるゝあてし種と艦呂艦水潜等二は下以噸千。艦伊艦水  
 と僅十六萬一は力積航のたで設給る。岸に昇は艦水潜伊  
 る一途を航洋でのる居てし初に初海機各があるゝあては云  
 海國来てし艦艇を洋等大。は艦水潜伊が我。船車出は事  
 あり給向もてし引引に本目又てしう完を諸任同其り割に岸  
 る居てし向を能性きべす異艦に實るゝあては云。さるゝ  
 あてのるす計行てつ作を除一て以と艦三は艦水潜の等と  
 略。二十二第艦伊は直張。さるゝあてつ云と艦水潜をれとつ  
 施工兵年三十三大。一十五第艦伊（丁號所船造船川年三和  
 を竣工完成末艦水潜等一此はに軍海が我。さるゝあて（工機  
 るゝあて八十二てへ加



| 主 要 項 目 | 排水量    | 水上 |       | 長    | 幅   | 備砲 | 水 | 雷 |
|---------|--------|----|-------|------|-----|----|---|---|
|         |        | 速力 | 14節   |      |     |    |   |   |
| 伊艦三     | 1,140噸 | 17 | 85.2米 | 7.5米 | 14門 | 4門 | 8 | 6 |
| 同 51    | 1,300噸 | 17 | 91.44 | 8.81 | 15  | 1  | 8 | 6 |
| 呂艦55    | 893    | 17 | 70.50 | 7.16 | 9   | 1  | 6 | 6 |
| 同 61    | 958    | 16 | 76.20 | 7.38 | 9   | 1  | 6 | 6 |







海の移動飛行場「航空母艦「加賀」」

アレが軍艦か？ 艦突や衝が全然見えずしかも上甲板は艦首から艦尾迄一層厚平、舟身のやうな特殊な姿  
 これが航空母艦である。飛行機格納庫は甲板の下にあつて飛行甲板との間には巧みな飛行機揚却りの仕  
 掛けが有つてエレベーターと同じ様に迅速に飛行甲板と格納庫との間の揚却りしをする事が出来るやうにな  
 つてゐて大きな母艦になると百呎以上も格納して居る。此の飛行機を揚却るには母艦自體が風の方向に向  
 つて高速度で走る、其の時飛行機は飛行甲板の風速と艦速との合計の速力一秒間十呎以上も滑走して  
 飛び上るのである。そして母艦の場合には甲板上に張られた敷木の網によつて安全に短距離で止まるが艦  
 上機の甲板上の離着法は伸縮機を要するのである。艦内には自立、修繕等の工作場が設けられ其他の設  
 備も整備せられて補給は十分に居る。加賀(ハ)は我が至寶航空母艦「加賀」航行中の母艦上を飛行機の飛  
 翔の光景。(ハ)は同艦を機上より見た所張。昭和三年横須賀工廠竣工。

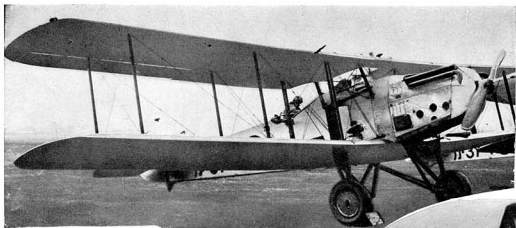








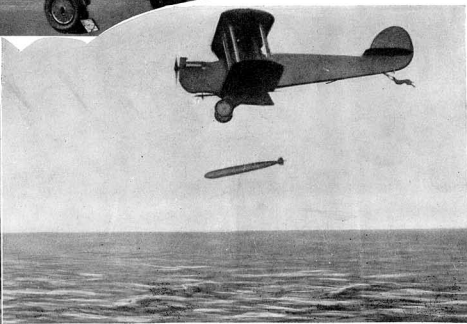




空の戦艦・攻撃機

委たる敵艦にかけて魚雷水雷を射撃する攻撃機！既聞なる艦艇に砲弾を落す攻撃機！これを稱して攻撃機と云ひ、現今では同一の機種を兩方に使用するのが一般である。攻撃機の任務は徹底的敵に大損害を加へる爲に在り、従つて多数の砲弾等を搭載し得る爲に搭載力の大きな要求せられ、従つて大馬力の發動機一臺乃至數臺を裝備して居る。

然し海軍用の攻撃機は艦内に收容と云ふ點より餘り大きなものは用ひられず、各機は五、六百乃至千馬力の程度のものである。攻撃機の機強又は魚雷の搭載力と航続力との間に甚だな関係がある。従つて航続力に於ては多量の燃料が搭載し得る自然の搭載重量が減少する必要がある。

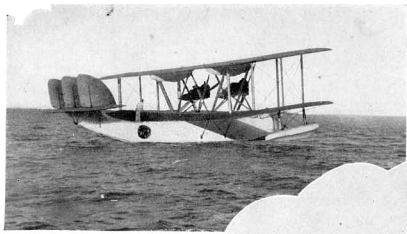


△ じるのである  
 浮山積み込み  
 送距離をよめて  
 ことが出来る  
 攻撃機は之が  
 爲め魚雷機と  
 別れるのである  
 攻撃機は普通  
 五機、七機と  
 編隊を以て飛行  
 するのには爆  
 撃の要を大に  
 するのとは異なる  
 機は機力により  
 駆逐せしむる  
 行機である。飛  
 行機の隊形は  
 A形で操縦の  
 機は操縦の機  
 しづむる高度を  
 高くするので  
 ある。

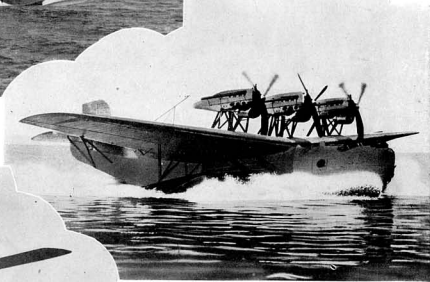
高機(上)一三  
 式艦上攻撃機  
 (中)艦隊攻撃機  
 (下)艦隊攻撃機  
 (左)艦隊攻撃機  
 (右)艦隊攻撃機  
 の機力投下した  
 割合。



空の悪洋艦・飛行艇  
 伯堅艦の威力不足は船を捕ひ  
 遠距離偵察と長き間哨戒艦の  
 任務に當るがこの飛行艇で、  
 海軍用としては勿論日本の如く  
 海軍の航空運用としては大なる  
 価値ある等だ蓋しせばなら  
 ぬ。飛行艇はゴットに翼を付け  
 た様なもので海上に飛上り、  
 殊に耐水性に上つては水上機と  
 は遙に大である。飛行艇は長時  
 間遠距離に行動する爲め大型の  
 ものが出た。實に戦艦中では  
 我が海軍の九〇式飛行艇は、  
 一上は八式飛行艇、双発飛行  
 艇を併せ、中型で飛行艇偵察  
 艦を大なる威力を發揮する。九〇

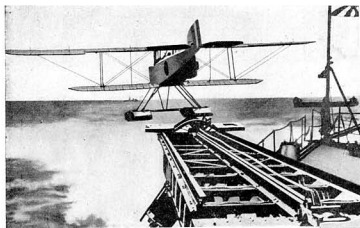


飛行機式九八(上)  
 飛行機式〇九(中) 混寫  
 ロイヤル トーオ(F)



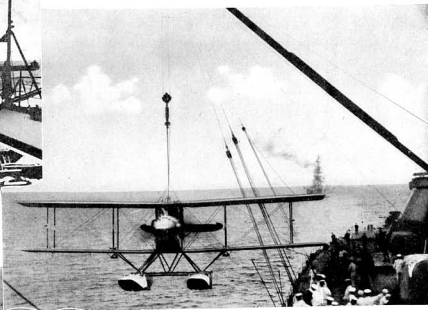
△は金剛型重巡洋艦十三噸、  
 機は八百二十馬力、力十三噸、  
 百七十五馬力、力十三噸、  
 念列五馬力、力十三噸、  
 事して如何に大なるかを知ら  
 ぬが出来る。馬力なるかを知ら  
 ぬし、支那の都市を砲撃し、又は  
 断し、日本を越えて諸島を砲撃し、  
 日本海を越えて諸島を砲撃し、  
 である。以上各種飛行機飛行艇  
 である。以上各種飛行機飛行艇  
 現はれたのは明治三十九年、  
 後三十九年、  
 戦艦の海軍時代は既に主  
 なるは航空艦の發達である。

研究中のオートチャイロ  
 本機は極めて狭少な場から飛揚出来るもので海軍では  
 目下試験中である。



○間斷寸出飛てれ離を車滑や今てつよにトルバタカが機察偵上水 (上)

容状に内掛けか引にクワリデリと艦を機上水たい着に側舷の艦 (中)  
。ることるす



○景光るすとんせ艦離や今てし走滑を板甲行飛が機行飛上艦 (下)



飛行機發着の態々  
現代海上作戦は航空機の威力に依たなければならぬ。故に現今は航空母艦以外の艦船にも艦載水上飛行機を積み込んで居るのである。航空母艦の如く發着甲板を有せざる艦船の飛行機の艦載はカタパルト(射出機)により火薬や彈簧空気が他の動力に依り飛行機を艦外に射出するので、各國とも無窮の兵器として居るが大要は甲板の上に長い空を設け、滑走する車の上に飛行機を載せて非常なる速力で其の飛行機の翼と機体の四個の端まで走らしかして滑走の力と發着機の四個の力で飛行機を車を離れて飛び出ると云ふ装置である。  
艦載、遠征艦隊にはこの装置が二ツ以上もある艦もある。さて飛行機が歸艦するには飛行甲板の無い艦船ではデリック(起重機)を用ひ艦側に寄水せしめた飛行機をクワックに引上げ艦内に收容するのである。



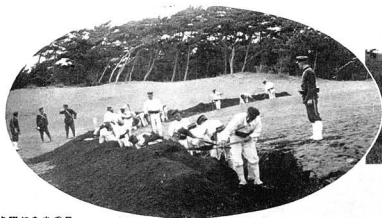


學見艦軍の僚閣

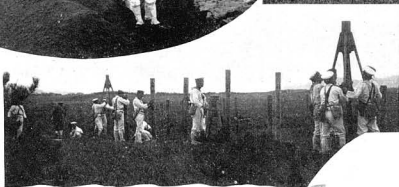


に民國にち直は行一言一なる味談で要重そと諸國の識智事軍もとずら非に人軍は着るす專唱を會社家國。ち立に表師の衆民萬千九もし苟  
 らなばねせ讓認を事な大重の響影すば及に昇世。し影反  
 れま國てに海面四に特識智事軍は等士議代るす與參に政談てへ唱を輪紐の家國てし表代を民國。員面内るすう厚を任視御の下陸。上に殊  
 る時に昇世てし具引を士議代黨及僚閣が相首變犬の時奉年七和昭は眞寫。ねらなばねせ力努振る得を讓認な確緊るす國に軍海國帯るた  
 影撰念記にて板甲艦同ち後。し服感に明説るめ合で人喧の紋符組兼し狀態に備兵重裝ため寛を梓の學科し學見問訪を宕費艦洋遊が我



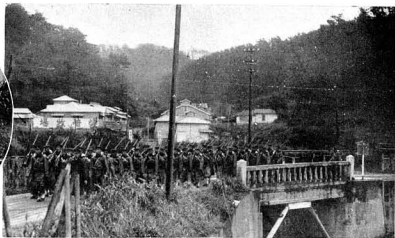
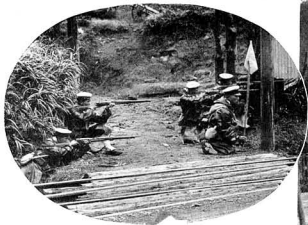


陣地構築に餘念のない陸戦隊  
 看上縦横無盡に張り返す碎地  
 の構築、さては銃網を敷  
 かんとする爲行差振り  
 を、歩軍兵は砲軍の工  
 兵、歩兵、砲兵、機關  
 銃隊、或は砲軍隊  
 等々を一手に引受  
 けて何でもやる  
 彼の上海戦で勇  
 としい休戦を樹て  
 た我が陸戦隊も斯  
 くして訓練された  
 のである。海兵は  
 海上戦のみでは無  
 く敵の港灣に入り  
 陸戦隊を編成して



\*上陸し在留邦人の保護に  
 當り敢えて激戦を辭せざる  
 重要な任務を帯びて居る。  
 炎熱燠く夏の日、或は風塵  
 身を切る多の日、平時陸上  
 部隊も海上部隊も陸戦隊の  
 訓練に重きを置く所以は此  
 處に在るのである。

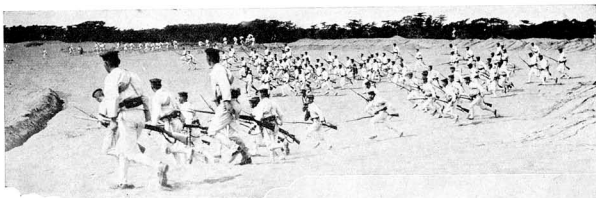




てし熱に將機戦

き如の戦海上く近。るあが要必るす練頭をと法撃攻と法戦な殊特り異はと戦外野でのい多に常非が合場る成と戦街市。上質性其は開戦隊戦陸も事るせびあを射猛の銃個個と銃小てつ狙を共敵る居に階二の家つ向りよ内屋の家町で人換を路這い細はに時。る居てし始終に戦街市は磯和大統たへ敵で等術劍銃。道剣。道柔時平は玉ッ踏るへ射に開戦身挺の此。いなくしら恐もとこるす戦突てて隔を間敷にか僅と敵たまりあるあでのものそ

。士戦隊戦陸の中撃過とんば呼を戦決大一の申雨し利用を物勢掩るゆら有し行潜に近間陣破てし熱に將機戦や今は眞寔



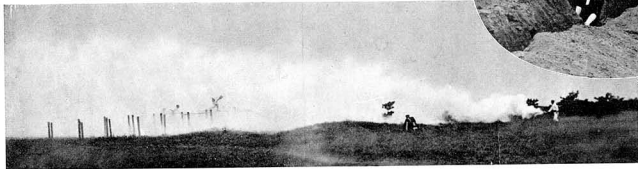
白刃閃く壯烈なる白兵戦  
 戦機愈々熟し敵を搦滅せんと從  
 旗無慮に退られた敵は細破隊は  
 は酒幕の掩蔽に依り必死の抵抗  
 作業をし女軍の突撃勇と闘く  
 である。無壕内に銃を擬して突  
 撃の命を今や賭しと待つ。戦費  
 第一則と通り指揮官の突撃の命  
 令は下された。日頃奮えた銃  
 砲の技を彼はすは此の時とぞ



寫真(上)將に血雨を降らす白兵戦の刹那  
 (中)堅固なる掩蔽陣地に居る女軍  
 (下)白刃隊々たる掩蔽の下に敵銃砲突破の光景

### 決戦の刹那

戦は勢である。人と物とが眞風の一團と  
 なつて碎けよとばかりに敵に向つて殺到  
 する絶大な勢であり、突撃は其の最後  
 の一線である。白刃閃く戦費決つて運命の  
 分岐點上最後の一刻である。  
 先か死か勝か敗か？人先行途未だ尋つて  
 期の如き休大なる瞬間にあるまい。お、  
 決戦刹那の壯麗悲烈は鬼録も逃げん。



噴煙湧き細聲相傳す壯  
 烈なる白兵戦は展開  
 され、一帯打ち  
 の刹那復習中  
 止の陣は統  
 々と響き渡る  
 である。



海軍

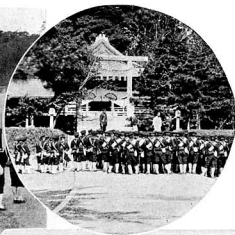
観兵式は終つた。續いて陸戦隊員集合の喇叭は鳴る。其、  
 閱官の面上は輝きに満ちる。  
 「本朝へ一百本日の観兵式ノ講評ヲナス」と成績頗る良  
 好なるを認むるも直は一層の訓練を望むと講評ありて、  
 一段と聲を高め「獨々帝國海軍ハ其クモ大元帥陛下ノ視  
 レタ捷卒レ給フ所ニシテ」から海軍の使命の重大なる事  
 より軍人の本分を遺憾なく盡す練諒々として盡きざる訓  
 示があり講評が終るのである。何れも將士は感激と發奮  
 の面に充ち至誠奉公を願に銘せざる者は無い。

講評に喜び、訓示に誓ふ

### 堂々たる観兵式

日ノ出海軍を改徴したる軍艦隊を先頭に歩武堂々行進する陸戦  
 隊は我が海軍の華々しき一場面でもある。看よ内に軍人精神溢  
 つれば外自ら威風はる。威風堂々として勇往邁進し一糸亂れず  
 隊伍整然たるこの軍容、今や数千の海ノ健兒の晴れの観兵式が  
 行はれるのである。炎熱しく夏の日も風爽身を切る冬の日も嚴  
 へに似へ磨き上げた心技を現すは此の日と將士は唯緊張そのも  
 のである。





威風堂々帝都を  
歴する陸戦隊

看よ世界に輝く帝國海軍の表徴軍  
艦旗を先頭に海に健兒數千の陸戦  
隊は今や宮城二重橋前の廣場に整  
列した。指揮官の「排ヶ銃」の號  
令一下軍樂隊の奏する「君が代」の  
壯重なる樂音は大内山に響き渡り  
滿場寂として靡無し。  
目のあたり皇座を拜し聖壽萬歳を  
奏ふ。軍人の本分を盡さん事を誓  
ふ。新しく軍樂隊を先頭に奏す  
「軍艦マーチ」も勇ましく歩武  
堂々市内を大行進、坊間神社に參  
拜し武運長久を祈願し懇ろに職友  
の靈を弔つた陸戦隊の光景。



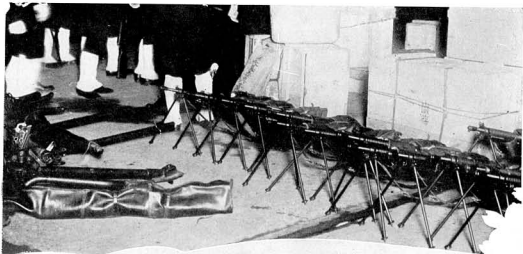
驅逐艦の整備と除敵隊

「キール」を通じて新々〇〇方面の風雲急  
 を告げるや乗組員の緊張の面は艦内に伝  
 える。艦長の力強い命令は下された「出港  
 用意」続いて「出港」世界に誇る我艦は  
 艦は奉の如き全速前進、一掃目指す〇〇  
 港内深く進軍して行く。その壯快さ、敏  
 捷さよ。  
 斯くして除敵隊員はボートに乗り除敵指  
 して砲も折れよと力清波を賦立て、萬道  
 上除敵隊の猛め本能より打ち出す砲弾は  
 天地に轟き、敵の處を突いて除敵隊は上  
 陸直ちに火蓋は切つて落される。街々を  
 縦上げて機關銃の物凄い響をつんざき  
 敵の陣中を先づ奪からしむ。  
 鳴り響きし除敵隊。



高嶺(上)驅逐艦より敵地を  
 掃討する艦長と副長  
 (中)〇〇方面出動の爲  
 め驅逐艦の急行  
 (下)驅逐艦上より小銃  
 にて對岸の敵と激戦中  
 の勇士

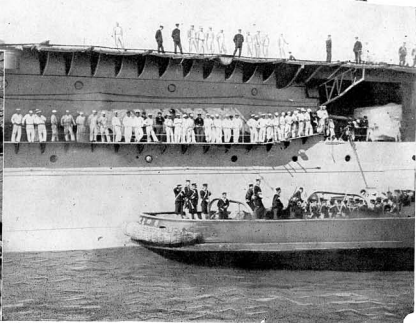
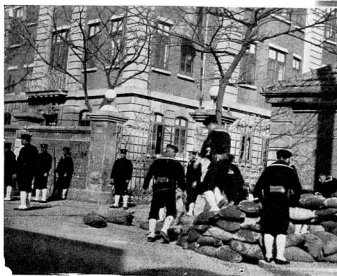




**任務は重し海外邦人保護**

海外に在留する外人の生命財産を保護することは在留国の責任であるが、支那のやうに内亂激發して中央政府の威令行はれず、在留外人の保護など到底行はれざる國柄では、直接本國の官憲とか警備艦隊の方によつて保護される。上海事變は此の邦人の保護の目的に端を發したのである。日本の遣外艦隊は常に北支那の海上から南支那、楊子江上流數千裡に亘つて警備の任に當り、事件突發して邦人危険に瀕する時は即時出動して艦内に收容し、或は陸戦隊を上陸せしめて暴徒を鎮壓す。我諸艦隊は常に諸外國の陸戦隊の先陣を承り光輝ある勳功をあげて居るのである。

寫眞上、陸戦隊の兵器彈藥を陸揚の光景  
下右、陸戦隊が職女に見送られて將に艦發の光景  
下左、土嚢を築き部署を固める陸戦隊員













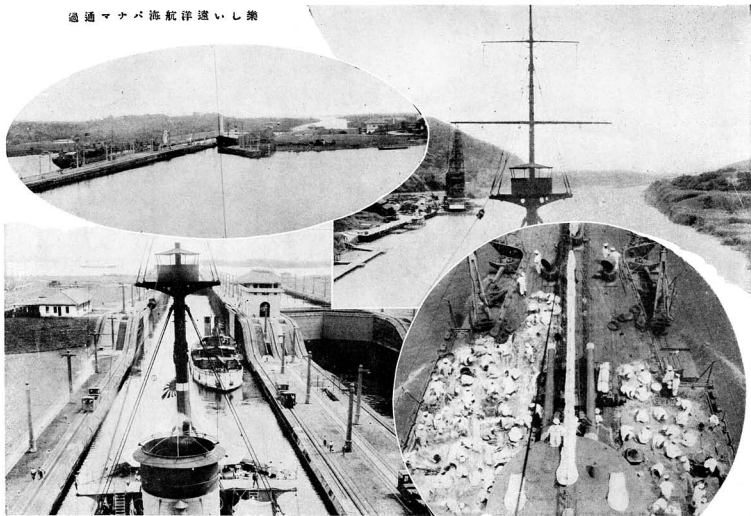
① 海の生命線に湧く感激の風  
 楽しい故郷よりの便りも約半月も経なければ  
 手に入らぬ遠い南洋、海外発展の地、海の生  
 命線へと雄々しく活躍する同胞には片時も恨  
 しみ慰問の上に想いを寄せぬ者は無い。即ち  
 日本国民傳統の愛國精神の發露である。  
 目も毛色の變つた此の地に活躍する者の心を  
 慰へば情と感涙の外何ものもない。此の不  
 便な地でこの精神を持つ同胞ならばこそ、世  
 界に誇るべき等の誇りなる軍艦の入港を心から  
 迎へるのである、それだけに其の歓迎振りは  
 熱烈そのものである。  
 看る今午艦の入港を持ち構へたるランチの饗  
 百には鈴鳴りの邦人が欣喜雀躍手に手に日章  
 旗を振り舞し、サイレンを鳴らし乍ら萬歳を  
 絶叫。艦上では艦員上甲板に出て帽子を打振  
 りつゝ熱誠なる歓迎を受けるのである。

② 上甲板に山なす寄贈の特産物

さて入港すると海軍兵連は大歓迎される  
 全で御祭騒ぎだ。上陸した海兵の歡待は  
 勿論其の地の特産物をドシ／＼艦へ持つ  
 て来て呉れる。例へばバナ、椰子、パ  
 インアップル、パイナ、コ、アアツ等  
 々内地では味えぬ珍しき果物は船中甲板  
 を埋めてしまふ。  
 上陸すると土人は親しげに集つて来て先づ好  
 きな煙草をせがまれる。今では裸の土人の子  
 も巧みな日本語で會話が出来て歸郷の時など  
 は意々波止場迄送つて来てヤコナラ、御饗  
 養良久と別れの挨拶を交す場面も多々ある。  
 嗚呼皇威四海に普し。



過通マナバ海航洋遠いし樂

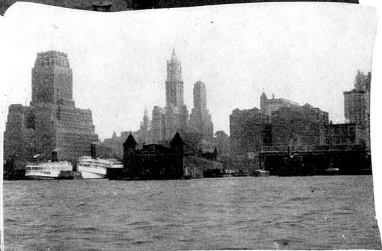


昔の波はのもる少雨。海と空のもる見只是日幾十。潮い黒スド洋大るた々洋。たいつに途社のれ晴海航洋遠の題一界世せ業を生補候官士  
 とへ河運マナバきべふ云とも映明の防々固米や今は隊艦習練たし下南とへ港桑てしそ。ルトナシ。ューパークンバてし斷横を洋平大。みの  
 るれば思く知るみてれき宿は密秘の防固にもにき等の水の門開ぬぎ過にるず通を隻一艦にか僅。たつゝか差  
 る來。「いなふ云馬馬れどれど」「ぜい呉便小の船は水此イ一オ」。景の濯洗でん没を水決の水溜の此際の際の過通河運が隊艦習練が我は眞寫  
 け置て見リカツンを形地の邊四らかい宜もでら乍し濯洗。アないたしも持氣い惡ら更滿り來ウソ。「よだ儲蓄で此此にに争戦米日きべ  
 るあで景情いし結亦もる起に在所が笑擲な氣元と「……………ハツハツア」【よ



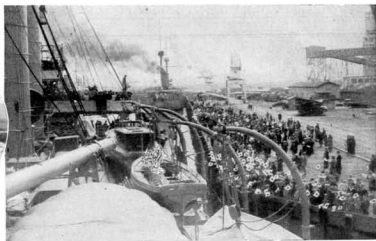
旅艦軍艦と都廳に口河ソドハ

へ口河ソドハのターヨウニは旅艦軍艦か日日後つ艦を造波の界真  
く轟々般てし和相と東艦宮のりよ艦米は東艦の發一廿す製砲るか艦隊  
艦ターヨウニ明の昇世し示を振葉作なか終々空に中の砲煙人外内は艦  
たれ入を雲に雨近を機天艦の尺千  
人邦留夜や早。る續てしと都廳に風に共に旅艦軍の尾艦。旗意日の官艦  
。るすけ竹旗に艦くし男も官艦のナンラが士の名知官頭。友知の國米や  
。るあでのるま始が歡文の國函にかやれ騎てしくし所



物見のターヨウニ

陸上つ取に良乘いな外りよる足で道路はターヨウニ致練の明文代近  
在中兵市。るあでりかばるす機野兵はてし物見内市でみし樂のりよ何は  
し示を神心いし美な様る出の浪に内案の所名や會迎数日毎日毎は人打節  
。るれらぜ感がさ難有の國の本日らがな更今るれ果て  
すば及の其せさ起を念儀的體念ふ武と人本日にも直は動一舉一の員細衆  
組心るす表代を本日定る至に兵水一め戒相に當下上。いさ大に賞は響影  
。るあでのふ明をりこほの本日にから高でん組ムラス。し陸上で



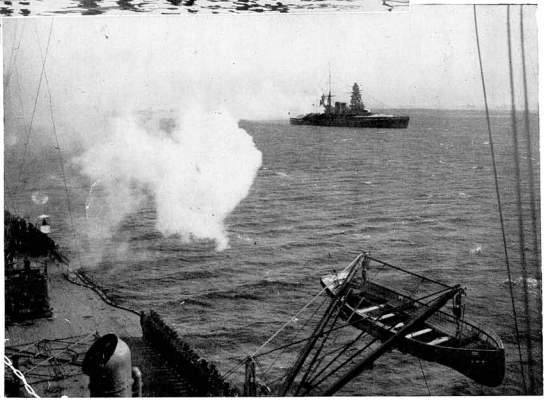
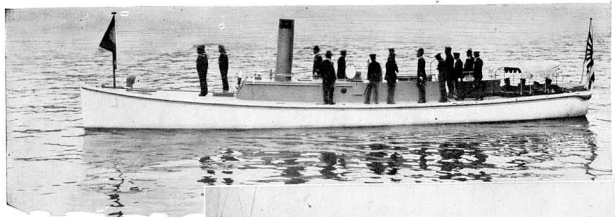
### ○ 艦上は忽ち大園遊場

港々の歓迎は幾日かの海上生活を慰むる唯一のオアシスである。在  
道中は市民の代表者、一國の代表者等はランチを横付けして艇包  
に上る。在留邦人は怒涛の如く感傷の雨を日丸の旗に押し包  
んで艦へへと投げる。上陸すれば其の雨で心よも歓迎の舞を受け、道は花のやうな令  
に道から心からの御馳走に預ることも珍らしくない。其の御馳  
走は別出は安んずるものである。唯し戦時として、國交の断絶  
が原因では覺えない筈を持つて御馳走に悦ぶ夫人も稀だ。

### ○ 畫きせぬ名残を惜みて出港

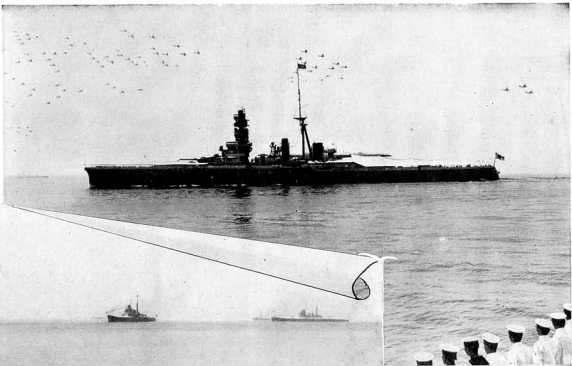
艦に陸上に相互の交歓、すては一日の夢の如く過ぎ去る出港  
する日は来た。畫きせぬ名残を惜む人々の群は岸壁を埋め、日の光  
の旗はムラ／＼と異國の港を覆ひ、萬旗の歡呼は浪を捲き、見  
る第二世が紅雲に連れられて異國の軍艦を舞踏する。其の御馳  
走は別出は安んずるものである。唯し戦時として、國交の断絶  
が原因では覺えない筈を持つて御馳走に悦ぶ夫人も稀だ。

敵々たる皇威砲は碼頭を砲す  
 大元帥陛下に對する皇威砲は、二十一號  
 を五秒おきに打ち出すものである。皇威砲  
 當日は御召艦技藝を演れ給ふ時、御召艦  
 式場に向はせらるゝ時、及び陛下御還幸  
 遊ばさるゝ時との三回各艦一齊に皇威砲  
 の禮式が行はれるのである。又此の皇威  
 砲の場合其の遊演に在在する外國軍艦も  
 敬意を表しこれに倣つて二十一號の皇威  
 砲を發射するのである。皇威砲は  
 官銃は大體艦式砲百數十挺の総稱なり一  
 齊に發々と轟き渡る皇威砲の莊嚴なる海  
 軍禮式が行はるゝ光榮。



大元帥陛下皇威砲禮に御召艦へ  
 登らるる皇威砲の目撃まで、御召艦は是るが如く靜かに停車した。文武  
 習官並敬禮の禮に降りたせ給へる大元帥陛下は御來の隨員を従へさせら  
 れ今午御召艦に御禮遊ばされんとして御召艦に乘御技藝を演れ給ふ。  
 此の時併率艦及び參列各艦は、御召艦の發射する皇威砲に倣つて、二十一  
 號の皇威砲は五秒間隔に發射される。嗚呼天地を震盪せしむる其の所聞の  
 光景！御召艦の餘響は煙として進先に照り輝き、罪難の海軍數十萬の群  
 衆と將士は艤船にも亦聲代に此を享けたる光榮を喜んで歡呼の聲は海軍に  
 どよめき渡る。何人か感涙の涙なくして此の盛典に臨み得ずやぞ。



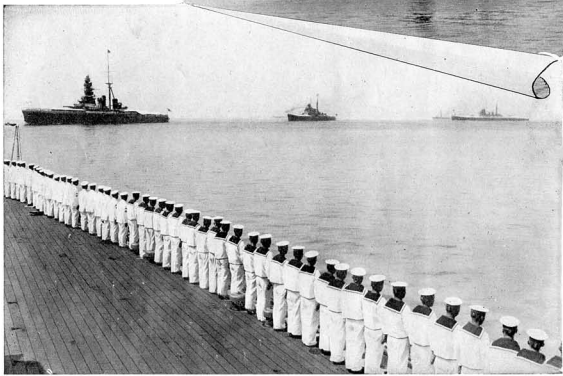


将士爽しく登城の禮を行ふ  
 艦下に懸垂なる 艦下の御旗國は開始さ  
 れた。唄れの音楽に輝く御旗は御光輝艦と  
 供進艦とを従へ輝々と御旗を掲げて航進す  
 る。此の時参列の艦は齊しく登城禮を行  
 つて艦員は上甲板転回の艦首より艦尾まで整  
 列して御旗國を受けるのである。  
 御旗艦の天幕旗は旗として海光に輝き、喇叭  
 「君ケ代」の吹奏に和して副長の發聲で、艦  
 下の萬歳を三唱する。時その御旗艦と艦と  
 の感懐の歡呼！ 海の將士の眼には熱き感懐  
 の涙さへ光るのである。

〇 銀翼を運んで空中大分列式

大元帥陛下の御旗國を受けた百數十隻の大小  
 艦は今や最も華麗なる感懐に光ち満ちた。  
 その時である。天望高く雄雷すさまじく銀翼  
 を運んで轟然と飛来する百數十機の海軍機は  
 大編隊を作つて艦隊式上目ざして高進して  
 来る。海も震れ、山も崩れよと尊くその雄音  
 はげに物産くも亦頼もしき空の勇士の大行進  
 である。

海國日本の空の護り！ 太平洋を駆すことの  
 心築き進軍！ これぞ大艦隊式の當日の海中  
 大分列式の光景。

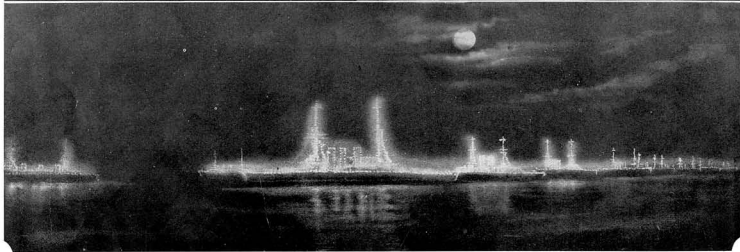
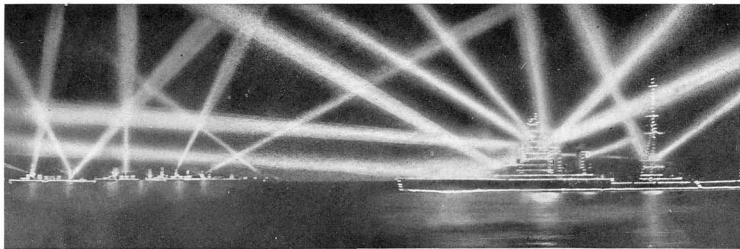




場式艦観大の前空



るすに技不固確を線命生の海の國帝時常非。りあでり藤の洋平太はまさとし歴を瀟灑々堂風威が艦線さ近に百二が我きな類比に昇世鋭精  
 治明は式艦観回一第るけ於に國が我にる願。いなほのものざば叫と震るな偉くし齊は民國の見に間の評一を容俸の此。るあでり守き強力  
 位い多し少りよ量水排の隻一艦運編等一式新の在現で噸二十五百四十二量水排。隻六計合數船血參。れば行て於に神山保天阪大月三年元  
 。し列並に場式大の漚三幅。漚六さ長。が艦線の噸千六萬十八隻九五百に海はに式艦観大の回六十第月八年八和昭。がたつあでのもの  
 。量の開視御を場式大は眞寫。るあがのもいな得じ驚慨感の昔今に物ほ事るたい仰を開視御るあ輝光の前空のこが機空航の機十八百ほに空

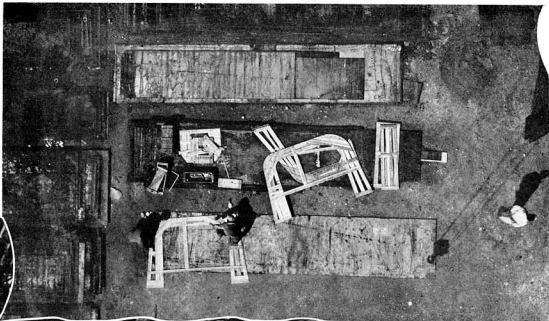


### 観壯の燈海探るむしせ惑眩

二。れは矢に時一は黒暗の外池間瞬のそたつ光く高頂橋が光閃の柱一  
は光の燈海探たれき射放。芒光く閃に齊一りよ無繼る餘に百二條三條  
光らがなさし岳を觀偉大一は空の池。りぐめけ飯に右左下上は或止靜  
!!上線の光るむしせ惑眩!!よ觀壯のそよお。るあで標の樂聲文の  
化と城夜不り通字文は海の夜に燈海探。にヨシーネミルイてしく斯  
。景光の夜當式觀觀大は眞寫。るあのです

### ンヨシーネミルイの城夜不

ら西く漸色暮てい傾に西に既は日。たし了終事無は式觀觀大るあえ榮  
とリキツクに海の夜。たれらせ撒は鈴鐵滿と旋經軍の艦各頃るすとん  
出現を城夜不てして然燦は。ヨシーネミルイの艦各るたしは現を聖艦  
ち亮は光のび吹び再はに面海の場式な暗渡して爾祝を榮光の開慶。し  
は思は衆民の萬十數たせ寄押とのもん見を景夜を觀壯のこ。たち滿  
。ふ藏を地天の港は聲の呼歎。し叫絶を或萬す



◎ 建築準備は進む並掛等

現場で出来た製板は今般は並掛場に通す。こゝは一名野蠻場とも云ひ、必要な鋼材を並べて製板の符號を記入して次の加工場へ送る。

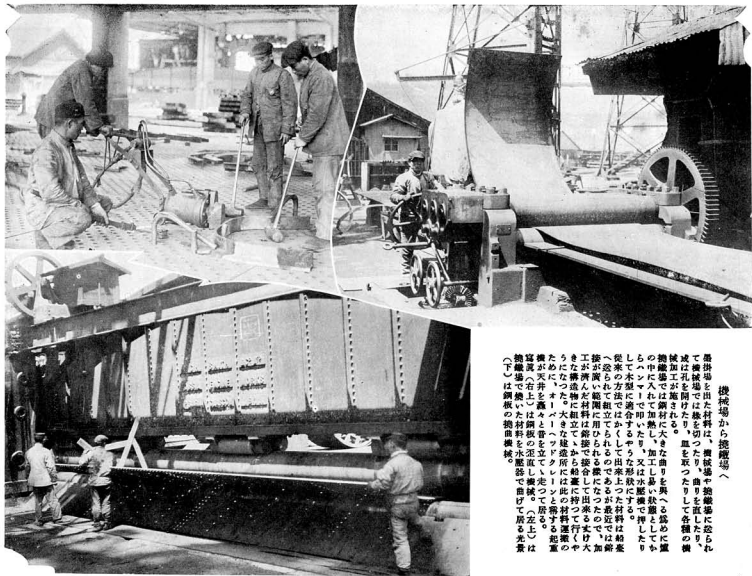
この並掛場で始めて船體を形成する鋼材が現はれたのであつて、此の時既に薄い板にはピッキングと稱する一種の脱洗を施して表面を清浄にしてあり、又一部分に腐蝕し易い板には防腐塗金が施される。



□ 勝取舟の現圖部

我が國では家船の建造は昔は陸と外間に世文したるのであるが現在では世界に先立つものは陸と全部が図畫である。軍艦を作るには先づ基本計畫を行ひ、之れを詳細な圖面に作製して現場場に送るのであるが圖面も豫め定められた種々な條件例へば排水量、浮力、推進等の根本的要素及經費、目標等に適合する様に考へねばならぬ。計畫書の苦心は實にとくに存する際である。

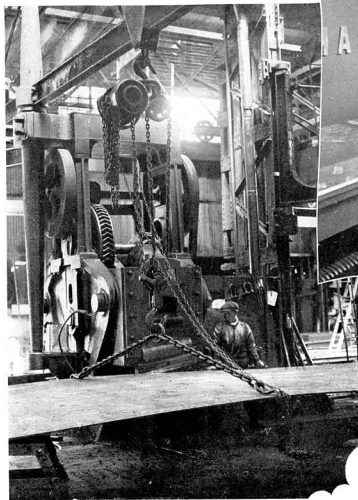
現圖部は機械の製法や外装からの動機の影響の無い所を豫んで厚い板で張りつめた雨天體採器のやうな形で設計し、鋼材の質の上に實物大の線圖を描き、之れを製板に寫す。製板は薄く、平符號を打つて、製板の細長い板を釘で打つけて製作するのである。



機銃場から銃機場へ

機銃場を出た材料は、機銃場や銃機場に送られて機銃場では鉄を切ったり、曲りを直したり、或は孔を開けたり、皿を取ったりして各種の機銃加工が施される。銃機場では鋼材に大きな曲りを與へる爲めに鋼の中に入れて加熱し、加工し易い状態としてからハンマーで叩いたり、又は水圧機で押ししたりして木型に適合するやうな形状にする。従来の方法ではかくして出来上つた材料は船臺へ送られて組立てられるのであるが最近では船臺が廣い範圍に用ひられる様になつたので、加工が済んだ材料は船臺で接合して出来るだけ大きな建造物に組立て、から船臺に持つて行くだけやうになつた。大きな建造所には此の材料運搬の爲めに、オーバーヘッドクレーンと稱する起重機が天井を轟々と音を立て、定つて居る。(左)は機銃場で焼いた材料を水壓機で曲げて居る光景(下)は鋼板の機銃機銃。

寫眞 (上) 操削機械  
(下) 剪斷機械

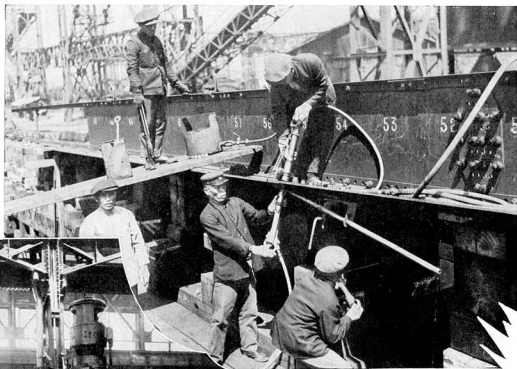


人爲を超越した機械力

軍艦建造に用ふる鋼板は厚いものは十六  
 六吋(一尺四寸位)もあり、薄いものでも五  
 六吋(五寸位)と云ふ厚さがあるので、こ  
 れを船體に當てはめて加工するには非  
 常に強力な切断機が必要である。此切断  
 機は極めて小人数の手で運用され、思ひの  
 まゝに切断され、又物化板の綫削りをして  
 どし／＼船臺へと運ばれて組立てられて  
 行くのである。

最近では前述の通り、前後で接合してから  
 建造されるやうになつたから、此の爲め非  
 常に工事が簡單化し、昭和八年十一月十六  
 日進水した「大鯨」の如きは、起工後七ヶ  
 月で進水したと云ふやうなレコードもあ  
 る。

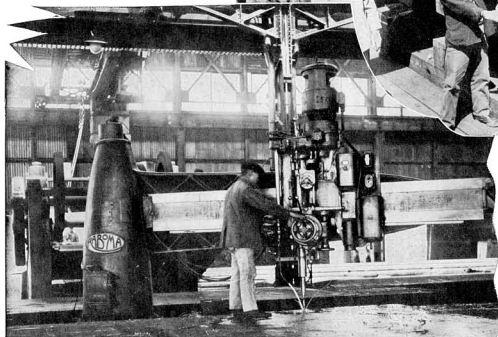
普通戦艦は起工してから竣工する迄には  
 凡そ三ヶ年半位もかかる。此の間工廠に  
 働く萬餘の人は烈日を受け、風塵を吹き、  
 中には晝夜兼行で仕事に従事する者もあ  
 る。其聲音は工廠内に響き渡り、軍艦内  
 は特に活氣を呈して来る。斯くして熱と  
 汗の勞作は遂に来るべき竣工の日迄、續  
 くのである。



### 熱と意気で打つ鉄

船底に取付けられた鋼材は各部分毎に順次にボルトと稱する螺針で假締付を行ひ、次で之を鉄で絞め付けるのである。明治年間迄はハンマーを振つて一本一本熱と意氣を以て打ち付けたもので、鉄打工は造船工中でも最も華やかな役目を持ったものであつた。殊に太い鉄が打てる職工は其数は幾らもなかつたものだ。

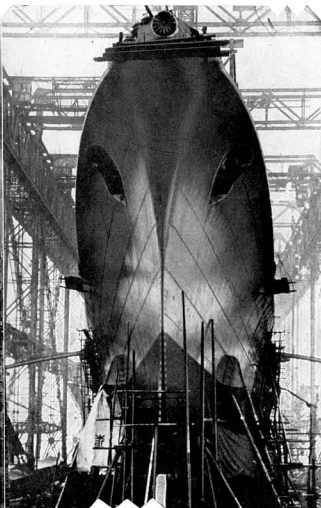
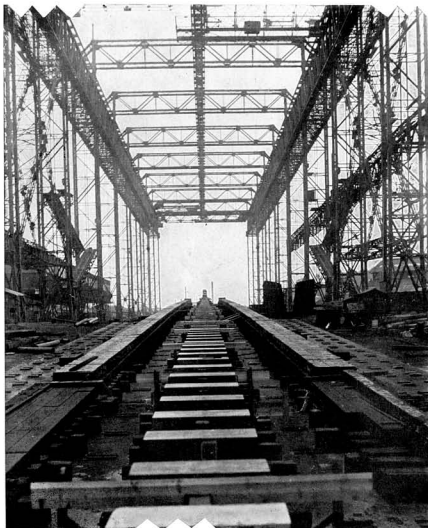
然るに最近では機械文明の發達につれて壓縮空氣の壓力などを利用する方法が進歩したので、今日では手打の鉄は\*



\* 全然無くなり、主として空氣によつて鉄打をやつてゐる。此の鉄打工は三人一組となつて一人は鉄機體に鉄を入れたり、機つけた鉄を出して送る役に當り一人は當機と云つて鉄の頭を押し、最後の一人は空氣槌で鉄の頭を叩き潰して鉄打作業に當るのである。

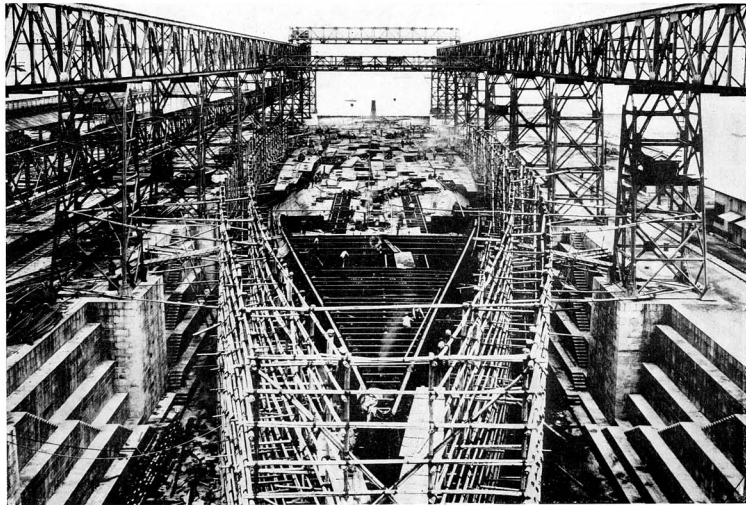
併し其の用ふる機械は文明の發達の結果形こそ變つて居るが、技工の腕、技術には昔と變らぬ傳統的な大和男の子の氣風が籠つて居るのだ。

寫眞上) 絞鉄作業 下) 鑽孔機械



てみ進程工

船で運たし斜傾でけ向に岸海てつ云と臺船通普を所て立組を體船。るなに事て立組を體船々愈とる寒て來田が料材の度程成てしく斯  
寸需とソレクターリットガるえ盤にりかば寸階を天に上置船の此はに所造建大。(既てめ固を蓋土に捺るれらへ船分充に量重の艦の前水  
。る居てつなに捺るべ運に横城を料材種各なき大い重。れらけ設が機重起の型テア  
。考王の海つ待を日の水造のれ晴し立築に上置船(右)景全の英船(左)風寫



と渠船の通管は観外ち仰る居てつなにより代の運船。りあが渠船の門専造建艦軍のす稱と渠々船造はに廠工軍海英。中所船造船艦國が我が費造建の艦りよるす造建で臺船とするす用使を處此。るあで長特がのるあでけ設がのもな力強に特のンレクターリトング。唯がいな幾大。く行てれて立組てれば運に上臺船に第次に材鋼たれさ合結に互てつよに銑。るあでうやるなく安分大と費造建と量重の體船でのるれらひ用が接着にり代の鋼は歩進の術船造の來近がるあでのく行てつまとまを々々つ一が割區の々各てしそど。とへ上らか底へ枝兩又。へ後前らか央中でん込び運くよ序順は料材の濟工加るあてし備準にりかばるけ付取迄今てき。るれさ約節が。るあでのく行てつなくき大と々設が形の艦。てし智が量重の料材るれらせのに上臺船と日一日一へ有らか無。く行てけ付取んどん。景光の中造建で内渠船は眞寫







# 欠

( MISSING PAGE )



(国立国会図書館収蔵初版本より)



# 章 日 旭

等七勳  
章葉桐色青



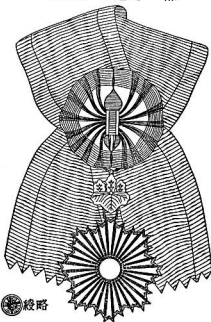
等五勳  
章日旭光雙



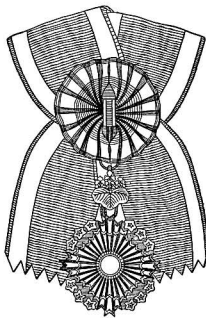
章日旭等三勳  
(章綬中日旭)



章綬大日旭等一勳



章綬大花桐日旭等一勳



等八勳  
章葉桐色白



等六勳  
章日旭光單



章日旭等四勳  
(章綬小日旭)



綬略

章副章綬大日旭等一勳  
章光重日旭等二勳

章副章綬大花桐日旭等一勳

章葉桐色青等七勳  
章葉桐色白等八勳



綬略章日旭  
光雙

綬略章綬中日旭  
章綬小日旭

旭日章と瑞寶章は何れも勳一等から勳八等迄のつて國家、社會の爲めに盡し功勞ある者に授けられ、其中心一帯旭日桐花大綬章が設置である。瑞寶章は個人功勞者に賜はるが、この外に個人功勞に對して勳章（勳一）等から八等迄がある。



綬略章日旭等二一勳



綬略章綬大花桐日旭等一勳

章

記

章

寶

瑞



憲法發布紀念章



明治三十七、八年維新紀念章



明治七年維新紀念章



大正大禮紀念章



大正三、九年維新紀念章



明治三十七、八年維新紀念章



勳章紀念章



明治三十二年維新紀念章



大正二十五年祝典之章



昭和典禮紀念章



赤十字社終身社員明章

章寶瑞等六勳



綬略章寶瑞等六五勳

章寶瑞等七勳



章寶瑞等八勳



綬略章寶瑞等八七勳

章寶瑞等三勳



章寶瑞等四勳

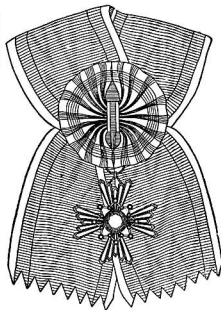


綬略章寶瑞等四三勳

章寶瑞等五勳



章寶瑞等一勳



章寶瑞等二勳

章副章寶瑞等一勳



綬略章寶瑞等二一勳







# 軍帽

正官將



生補候及上以官士准



軍前將軍上以官士准



兵樂軍及官士下



軍前將軍兵樂軍及官士下



(夕除ヲ兵樂軍)兵

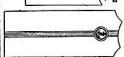


|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |
| 軍 | 將 | 將 | 將 | 將 | 將 |

# 帝國海軍服

官士准

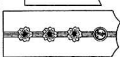
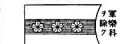
軍式長軍ヲ除ク



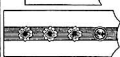
長軍ヲ除ク

尉大務特科各

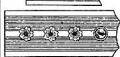
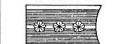
ヲ軍除ク科



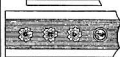
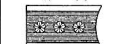
尉大科各



佐大科各



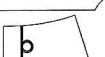
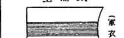
將大



襟章  
肩章  
袖章

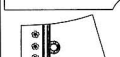
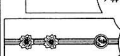
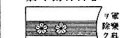
生補候

(軍衣)

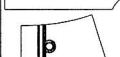
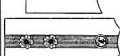


尉中務特科各

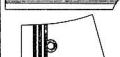
ヲ軍除ク科



尉中科各



佐中科各



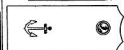
將中科各



襟章  
肩章  
袖章

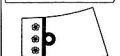
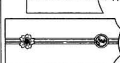
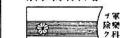
徒生

海衣軍式二合セス

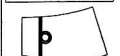
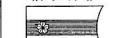


尉少務特科各

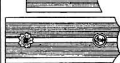
ヲ軍除ク科



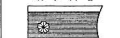
尉少科各



佐少科各



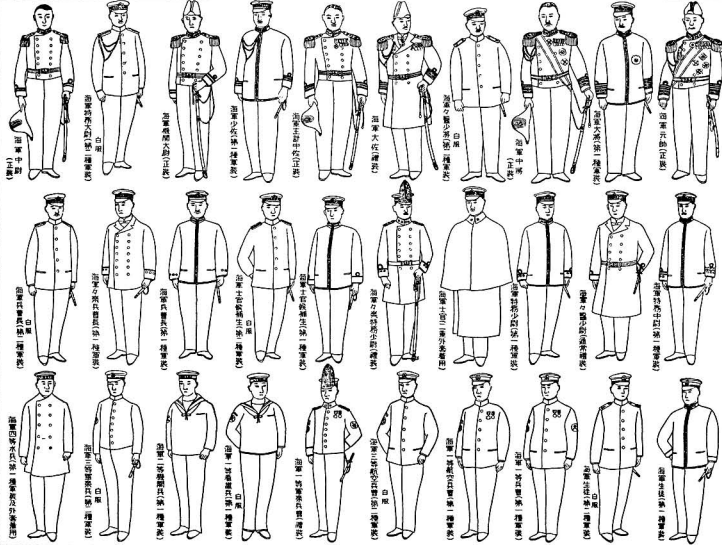
將少科各



襟章  
肩章  
袖章





















徒兵ヲ除ク

# 海軍官職制服一覽













列國海軍軍備比較表

| 國伊                                                                                        | 國佛                                                                                        | 國英                                                                                          | 國米                                                                                            | 本日                                                                                          | 總人員        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|  51      |  58      |  96        |  109       |  88      | 艦艇約<br>噸數內 |
|  496,877 |  628,602 |  1,250,247 |  1,251,840 |  850,328 | 航空機        |
|  1,507   |  2,483   |  1,434     |  1,434     |  600     | 海軍費        |
|  157     |  224     |  516       |  699       |  210     | 百萬円        |






列國海軍軍艦比較表

| 國伊                                                                                                | 國佛                                                                                                | 國英                                                                                                 | 國米                                                                                                 | 本日                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  4隻<br>86,528噸   |  9隻<br>185,925噸  |  15隻<br>474,750噸  |  15隻<br>455,400噸  |  9隻<br>272,070噸   |
|  23隻<br>150,227噸 |  78隻<br>150,037噸 |  53隻<br>341,411噸  |  20隻<br>183,150噸  |  37隻<br>198,055噸  |
|  82隻<br>84,456噸  |  70隻<br>98,164噸  |  159隻<br>180,774噸 |  248隻<br>264,030噸 |  101隻<br>121,491噸 |
|  49隻<br>33,517噸  |  85隻<br>72,912噸  |  57隻<br>54,264噸   |  87隻<br>67,000噸   |  59隻<br>69,154噸   |
|                                                                                                   |  7隻<br>22,146噸   |  6隻<br>115,350噸   |  7隻<br>136,150噸   |  4隻<br>68,370噸    |

列國主力艦裝備比較表

| 雷魚<br>管射發                                                                             | 砲<br>砲高 | 備<br>砲主                          | 力速                | 幅・ワ長及量水排                                    | 名艦  | 國別 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------|----------------------------------|-------------------|---------------------------------------------|-----|----|
|  12門 | 6門      | 20 <sup>m</sup> -10 <sup>m</sup> | 33 <sup>ノット</sup> | 10,000噸<br>192 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | 高妙  | 日本 |
|  6門  | 4門      | 20 <sup>m</sup> -9 <sup>m</sup>  | 32.7              | 10,000噸<br>182 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | ゴカシ | 米國 |
|  8門  | 4門      | 20 <sup>m</sup> -8 <sup>m</sup>  | 32.25             | 10,000噸<br>192 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | ンドン | 英國 |
|  6門  | 8門      | 20 <sup>m</sup> -8 <sup>m</sup>  | 31.               | 10,000噸<br>185 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | ンマス | 佛國 |
|  8門 | 16門     | 20 <sup>m</sup> -8 <sup>m</sup>  | 36.8              | 10,000噸<br>195 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | トント | 伊國 |

列國巡洋艦裝備比較表 (二万噸級)

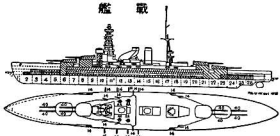
| 雷魚<br>管射發                                                                             | 砲<br>砲高 | 備<br>砲主                            | 力速                | 幅・ワ長及量水排                                    | 名艦          | 國別 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------|-------------|----|
|  6門  | 4門      | 14 <sup>cm</sup> -20 <sup>m</sup>  | 23 <sup>ノット</sup> | 32,720噸<br>201 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | 奧陸          | 日本 |
|  2門  | 8門      | 13 <sup>cm</sup> -12 <sup>m</sup>  | 20.67             | 32,500噸<br>190 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | ドラロコ        | 米國 |
|  2門  | 6門      | 15.5 <sup>cm</sup> 12 <sup>m</sup> | 23.               | 33,900噸<br>216 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | 一本ドコ        | 英國 |
|  4門  | 4門      | 14.5 <sup>cm</sup> 22 <sup>m</sup> | 21.5              | 23,189噸<br>125 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | スバコフ        | 佛國 |
|  2門 | 8門      | 15.5 <sup>cm</sup> 16 <sup>m</sup> | 21.               | 21,555噸<br>175 <sup>m</sup> -5 <sup>m</sup> | アレドア<br>アソド | 伊國 |



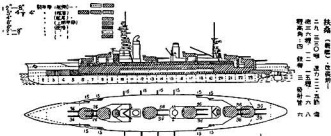


一 其 解 圖 型 艦

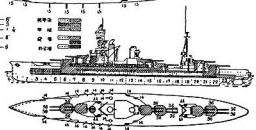
艦 戰



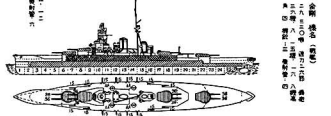
大和 (戰艦)  
 排水量 72,000 噸  
 主砲 460 毫米  
 副砲 253 毫米  
 航速 33 節



大和 (戰艦)  
 排水量 72,000 噸  
 主砲 460 毫米  
 副砲 253 毫米  
 航速 33 節

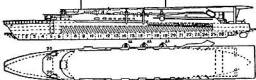


大和 (戰艦)  
 排水量 72,000 噸  
 主砲 460 毫米  
 副砲 253 毫米  
 航速 33 節

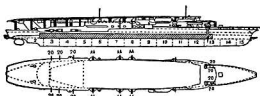


大和 (戰艦)  
 排水量 72,000 噸  
 主砲 460 毫米  
 副砲 253 毫米  
 航速 33 節

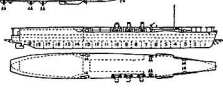
艦 母 空 航



赤城 (航空母艦)  
 排水量 23,000 噸  
 主砲 253 毫米  
 航速 33 節



赤城 (航空母艦)  
 排水量 23,000 噸  
 主砲 253 毫米  
 航速 33 節



赤城 (航空母艦)  
 排水量 23,000 噸  
 主砲 253 毫米  
 航速 33 節

艦 洋 巡 等 一



摩耶 (巡洋艦)  
 排水量 5,000 噸  
 主砲 152 毫米  
 航速 33 節



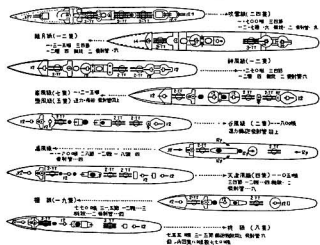
摩耶 (巡洋艦)  
 排水量 5,000 噸  
 主砲 152 毫米  
 航速 33 節



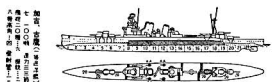
摩耶 (巡洋艦)  
 排水量 5,000 噸  
 主砲 152 毫米  
 航速 33 節

二其解圖型艦

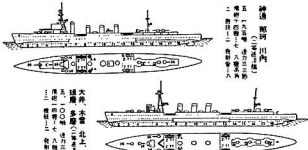
艦逐驅級各



艦洋巡等一



艦洋巡等二



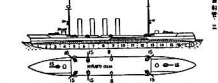
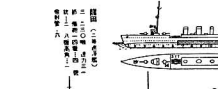
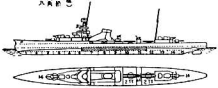
帝國海軍艦船別及噸數並噸數

| 艦種    | 隻   | 噸        |
|-------|-----|----------|
| 戰艦    | 9   | 27,2070  |
| 一等巡洋艦 | 12  | 10,7800  |
| 二等巡洋艦 | 21  | 9,0255   |
| 航空母艦  | 4   | 6,1270   |
| 潛水母艦  | 4   | 2,1015   |
| 敷設艦   | 5   | 1,5230   |
| 潛防艦   | 8   | 6,2530   |
| 砲艦    | 13  | 0,5300   |
| 一等驅逐艦 | 70  | 8,7025   |
| 二等驅逐艦 | 35  | 2,7290   |
| 一等潛水艦 | 28  | 3,8381   |
| 二等潛水艦 | 36  | 2,9704   |
| 掃海艇   | 12  | 0,7290   |
| 特務艦   | 25  | 28,7947  |
| 總計    | 278 | 111,3107 |

(萬噸位)

凡例

- 砲塔一門
- 砲塔二門
- 高角砲一門
- 高角砲二門
- 發射管二門
- 發射管三門
- 砲 / 頭 / 數字  
八機ヲ示ス



加賀(一等戰艦)  
 二一七噸 主砲座  
 二機射管 一

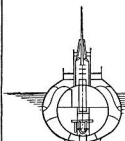
加賀(二等戰艦)  
 二一七噸 主砲座  
 二機射管 一



圖裝艦般一艦水潛洋巡

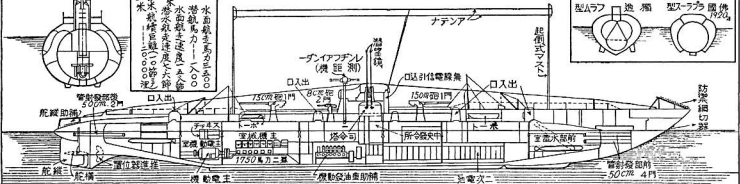
U 139-141 號 艦水潛洋巡帝國帝造機艦

圖面断

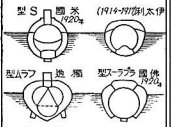


全長一一九二米 水面航走馬力三三〇〇  
 全幅一一九米 潜航馬力一八〇〇  
 水面排水容積一七五〇〇噸 水面航走速度及入水  
 潜航排水容積一七五〇〇噸 潜航航走速度及入水  
 潜航深度一七五米 潜航航走速度及入水

圖面側



圖面断ノ艦水潜種各

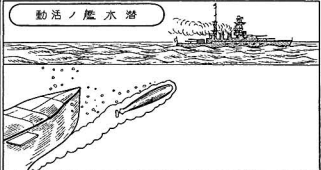
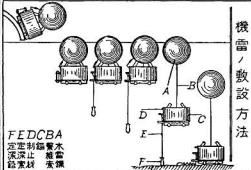
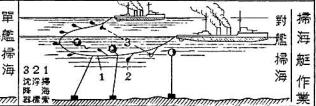
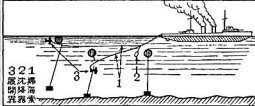


(日露戦争中日軍ノミ)

| 他 | 共 | 雷 | 機 | 砲 | 火 | 種   |
|---|---|---|---|---|---|-----|
| 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 艦戰  |
| 1 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 艦洋巡 |
| 5 | 4 | 9 | 9 | 9 | 9 | 艦雷水 |

世界大戦

| 雷  | 機  | 砲  | 火  | 種   |
|----|----|----|----|-----|
| 1  | 1  | 0  | 0  | 本日本 |
| 1  | 2  | 0  | 0  | 國米  |
| 44 | 62 | 42 | 42 | 國英  |
| 13 | 16 | 2  | 2  | 國佛  |
| 3  | 10 | 0  | 0  | 國伊  |
| 7  | 3  | 1  | 1  | 國露  |
| 29 | 7  | 27 | 27 | 國獨  |
| 13 | 7  | 5  | 5  | 國埃  |
| 11 | 6  | 3  | 3  | 國土  |



FEDCBA  
 定雷制 雷水  
 深禁止 雷雷  
 録索材 索環

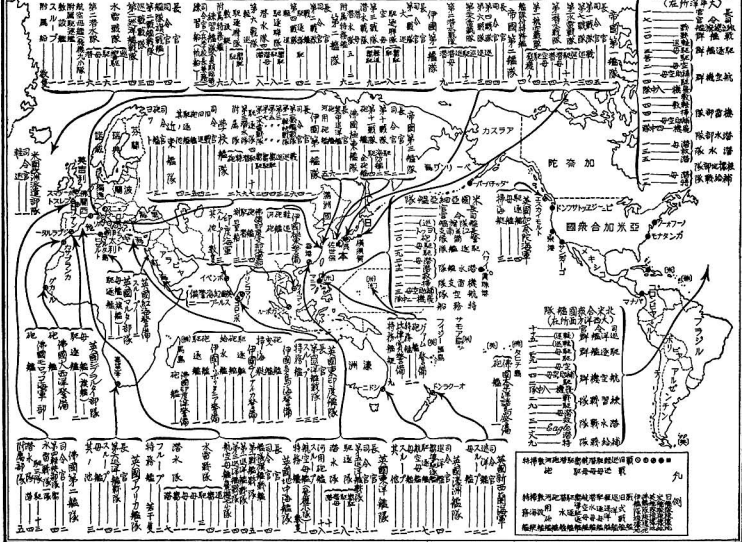
機雷ノ敷設方法

動活ノ艦水潜





# 日·英·佛·伊·艦隊配備一覽表



- 日艦隊 (日本艦隊)
- 第一艦隊
  - 第二艦隊
  - 第三艦隊
  - 第四艦隊
  - 第五艦隊
  - 第六艦隊
  - 第七艦隊
  - 第八艦隊
  - 第九艦隊
  - 第十艦隊
  - 第十一艦隊
  - 第十二艦隊
  - 第十三艦隊
  - 第十四艦隊
  - 第十五艦隊
  - 第十六艦隊
  - 第十七艦隊
  - 第十八艦隊
  - 第十九艦隊
  - 第二十艦隊
  - 第二十一艦隊
  - 第二十二艦隊
  - 第二十三艦隊
  - 第二十四艦隊
  - 第二十五艦隊
  - 第二十六艦隊
  - 第二十七艦隊
  - 第二十八艦隊
  - 第二十九艦隊
  - 第三十艦隊
  - 第三十一艦隊
  - 第三十二艦隊
  - 第三十三艦隊
  - 第三十四艦隊
  - 第三十五艦隊
  - 第三十六艦隊
  - 第三十七艦隊
  - 第三十八艦隊
  - 第三十九艦隊
  - 第四十艦隊
  - 第四十一艦隊
  - 第四十二艦隊
  - 第四十三艦隊
  - 第四十四艦隊
  - 第四十五艦隊
  - 第四十六艦隊
  - 第四十七艦隊
  - 第四十八艦隊
  - 第四十九艦隊
  - 第五十艦隊
  - 第五十一艦隊
  - 第五十二艦隊
  - 第五十三艦隊
  - 第五十四艦隊
  - 第五十五艦隊
  - 第五十六艦隊
  - 第五十七艦隊
  - 第五十八艦隊
  - 第五十九艦隊
  - 第六十艦隊
  - 第六十一艦隊
  - 第六十二艦隊
  - 第六十三艦隊
  - 第六十四艦隊
  - 第六十五艦隊
  - 第六十六艦隊
  - 第六十七艦隊
  - 第六十八艦隊
  - 第六十九艦隊
  - 第七十艦隊
  - 第七十一艦隊
  - 第七十二艦隊
  - 第七十三艦隊
  - 第七十四艦隊
  - 第七十五艦隊
  - 第七十六艦隊
  - 第七十七艦隊
  - 第七十八艦隊
  - 第七十九艦隊
  - 第八十艦隊
  - 第八十一艦隊
  - 第八十二艦隊
  - 第八十三艦隊
  - 第八十四艦隊
  - 第八十五艦隊
  - 第八十六艦隊
  - 第八十七艦隊
  - 第八十八艦隊
  - 第八十九艦隊
  - 第九十艦隊
  - 第九十一艦隊
  - 第九十二艦隊
  - 第九十三艦隊
  - 第九十四艦隊
  - 第九十五艦隊
  - 第九十六艦隊
  - 第九十七艦隊
  - 第九十八艦隊
  - 第九十九艦隊
  - 第一百艦隊

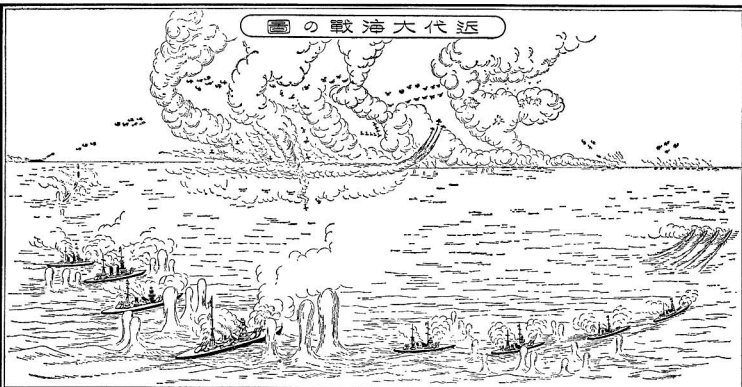
- 英艦隊 (英國艦隊)
- 第一艦隊
  - 第二艦隊
  - 第三艦隊
  - 第四艦隊
  - 第五艦隊
  - 第六艦隊
  - 第七艦隊
  - 第八艦隊
  - 第九艦隊
  - 第十艦隊
  - 第十一艦隊
  - 第十二艦隊
  - 第十三艦隊
  - 第十四艦隊
  - 第十五艦隊
  - 第十六艦隊
  - 第十七艦隊
  - 第十八艦隊
  - 第十九艦隊
  - 第二十艦隊
  - 第二十一艦隊
  - 第二十二艦隊
  - 第二十三艦隊
  - 第二十四艦隊
  - 第二十五艦隊
  - 第二十六艦隊
  - 第二十七艦隊
  - 第二十八艦隊
  - 第二十九艦隊
  - 第三十艦隊
  - 第三十一艦隊
  - 第三十二艦隊
  - 第三十三艦隊
  - 第三十四艦隊
  - 第三十五艦隊
  - 第三十六艦隊
  - 第三十七艦隊
  - 第三十八艦隊
  - 第三十九艦隊
  - 第四十艦隊
  - 第四十一艦隊
  - 第四十二艦隊
  - 第四十三艦隊
  - 第四十四艦隊
  - 第四十五艦隊
  - 第四十六艦隊
  - 第四十七艦隊
  - 第四十八艦隊
  - 第四十九艦隊
  - 第五十艦隊
  - 第五十一艦隊
  - 第五十二艦隊
  - 第五十三艦隊
  - 第五十四艦隊
  - 第五十五艦隊
  - 第五十六艦隊
  - 第五十七艦隊
  - 第五十八艦隊
  - 第五十九艦隊
  - 第六十艦隊
  - 第六十一艦隊
  - 第六十二艦隊
  - 第六十三艦隊
  - 第六十四艦隊
  - 第六十五艦隊
  - 第六十六艦隊
  - 第六十七艦隊
  - 第六十八艦隊
  - 第六十九艦隊
  - 第七十艦隊
  - 第七十一艦隊
  - 第七十二艦隊
  - 第七十三艦隊
  - 第七十四艦隊
  - 第七十五艦隊
  - 第七十六艦隊
  - 第七十七艦隊
  - 第七十八艦隊
  - 第七十九艦隊
  - 第八十艦隊
  - 第八十一艦隊
  - 第八十二艦隊
  - 第八十三艦隊
  - 第八十四艦隊
  - 第八十五艦隊
  - 第八十六艦隊
  - 第八十七艦隊
  - 第八十八艦隊
  - 第八十九艦隊
  - 第九十艦隊
  - 第九十一艦隊
  - 第九十二艦隊
  - 第九十三艦隊
  - 第九十四艦隊
  - 第九十五艦隊
  - 第九十六艦隊
  - 第九十七艦隊
  - 第九十八艦隊
  - 第九十九艦隊
  - 第一百艦隊

此表係根據最新資料編製，如有變更，恕不另行通知。本表之編製，旨在提供各國海軍力量之概況，以供參考。本表之內容，均屬公開資料，如有錯誤，概不負責。本表之編製，旨在提供各國海軍力量之概況，以供參考。本表之內容，均屬公開資料，如有錯誤，概不負責。





返代大海戦の圖



壯絶なる返代大海戦

近代海戦は先づ空中戦より始められやう。敵の航空を掃知した我が偵察機は無敵電燈艦を以て旗艦に選り敵機官普し全軍は緊要。各種命令並順、或は敵の通信官に電燈は早くも空間を亂れ飛び大砲戦序幕は切つて下ろされた。待期した一機當中の我が優秀な攻撃機は今や敵空母艦より衝るべき大増弾大発雷を催いて敵主力を猛烈に襲撃せんと爆音轟々しく噴出す。こゝに於て敵艦隊は我を要撃、阻止せんとする。我が機隊は攻撃機を擁護しつつ敵軍軍と対峙となつて強烈なる戦闘は艦隊に起り、機體より火を吐き流尾の如く撃破さるゝ一機又一機轟々しき空中戦闘は開始せらるる司令長官は別々来る情報に依り戦艦隊の方向を判断し、所要艦隊を指揮し敵艦隊に敵への接觸を命じ自ら主力を誘つて敵主力を遮断せんと戦闘序列の展開を命ずる。

敵の針路、進力を測定する我が偵察機よりの報告に依り兩軍の主力艦隊は次第に接近したが未だ境界には入らぬ。然し精巧な望遠鏡にて敵艦隊の艦影が見ゆるに到れば大砲準備は到々我が艦隊を誘ふ機體も熟して殺氣は艦隊に漲る。未だ敵艦の全部が水平線上に現れぬも五五艦三五五米位と思ふ間も四十度の砲口は一齊に開かれ、五環は地を打て雷を叩つて兩所軍の砲聲は敵々轟々萬雷轟々壯絶なる本戦の幕は開かれた。

艦隊より前方を眺めると我が勇猛果敢な水雷艦隊は敵主力に内迫突進し我が巡洋艦はこれを掃蕩しつつ敵艦隊中である。愈々我が主力接近するに及び敵艦は猛烈を極め、天日畏れぬに於て敵艦は我が砲撃の水雷の中に入り、我は敵艦は我が砲に落下して大水柱を造らし、航行機は大機隊を展張して艦隊の掃蕩を援助する。やがて我軍攻撃が実行される敵艦の隊は見えなくなり、二番艦も傾斜した。見張所から敵艦隊の接近を察し緊急警報で回達する。艦隊の影から突如敵の飛行機が襲撃して来る。高角砲、機銃を以てこれを撃退して敵科空水中艦隊所から敵潜水艦の接近を察する直衝の艦隊は狂気になつて砲撃無算に轟撃しつつ盛に遠雷を放射し、地方攻撃機も夜中から遠雷を加ふ。

かくて艦隊、煙霧火を蔽ふ海とで敵味方の抵抗力を盡す能神一掃無遺の噴流を吐きかた大決戦も同北方が互に砲火を回いでより僅かに十分で急な膠着の瀬戸際まで来た所留最後の五分間である。最早戦の閉幕でも終幕の間際でもない信念の問題である。勝利を確信して猛烈な膠着なる打撃を浴へるべきものが勝を得る。

圖は此の海戦の狀を流はしたものである。

昭和九年五月十八日印  
昭和九年五月廿三日發行  
昭和九年八月二十日第二版

定價金貳圓五拾錢也

竹 內 省 吾

編輯 國防智識普及會

輝く海軍寫眞帖

許可ナク  
シテ復寫  
及記事  
嚴禁ス

印刷所 共同印刷株式會社

東京市神田區一ツ橋通リ三

發行所 省 文 社

振替 東京 六四二〇〇番  
電話 九段 三〇九七番



天寶禮文省刻